

クリスチャントゥデイ問題資料

改訂第6版

付録「高柳山谷会談 分析と評価」（第2版）

2007年1月

作成者 救世軍少佐 山谷 真

makoto.yamaya@salvationarmy.or.jp

<http://majormak.blogspot.com>

目次

クリスチャントゥデイ問題を中途総括する	3
張氏統一教会前歴疑惑の経緯	11
張氏統一教会前歴疑惑	18
鮮文大学設立 30 年史（抜粋）	25
ハンビット大学宣教会の異端嫌疑	27
イエス青年会異端嫌疑	36
中国 ACM カルト疑惑	44
内部告発及び脱会者証言（リックロス・カルト教育フォーラム）	49
脱会者証言 1	51
脱会者証言 2	56
補遺 1（ACM 関連団体リンク集）	66
補遺 2（CEF 関連リンク集）	67
補遺 3（ACM 使役者日誌）	68
補遺 4（クリスチャンポスト経営陣リスト）	73
補遺 5（大韓イエス教長老会合同福音(1)）	74
補遺 6（大韓イエス教長老会合同福音(2)）	75
付録「高柳山谷会談 分析と評価」	76

クリスチャントゥデイ疑惑を中途総括する

以下は、山谷のブログ「Major Mak's Diary」に掲載した、クリスチャントゥデイ疑惑の経緯を中途総括した文章である。

—以下引用—

以前このブログに書いた「クリスチャントゥデイ疑惑」に関する記事が、当の株式会社クリスチャントゥデイからの告訴の威嚇により削除に追い込まれて、早くも二ヶ月以上が経過した。

現在、ブログ界では、クリスチャントゥデイの「ク」の字も言及されない異様な静けさを見せているが、対称的に、世界最大の匿名掲示板「2ちゃんねる」では、夜を日に継ぐ激しい舌戦が展開されて来た（「心と宗教」Christian Todayと救世軍山谷少佐のガチンコ対決）。

2ちゃんねるでは、株式会社クリスチャントゥデイの意を汲んだと思われる者複数が匿名で、救世軍士官や救世軍職員による過去の不祥事を、インターネットを使って世界中から調べ上げ、2ちゃんねる上で晒す戦術に出ている。この「状況」を收拾するべく、対立する双方の間で「停戦協定」が一時結ばれたものの、それを無視するかたちで、クリスチャントゥデイ側の意を汲むとおぼしき人物複数による執拗な救世軍攻撃が継続され、さらに、停戦協定の内容にかかわらず、これからも救世軍攻撃を行うとの宣言が出されるに至っている。

今回、このようなかたちでのクリスチャントゥデイ側とおぼしき人物たちによる救世軍攻撃を招くに至った経過を、以下にふりかえってみることで、小生の説明責任を果たしたいと思う。

1. クリスチャントゥデイと小生の出会い

小生がクリスチャントゥデイの前身となるオンラインメディア「クロスマップ」とネット上で出会ったのは、小生が救世軍本営に勤務していた五年程前のこととなる。当時小生は、メールマガジン『茶の瞑想』に発表していた自作の詩を寄せ集めて「詩の小箱」というサイトを製作している途上であったのだが、ある日、「クロスマップ」が小生作の詩のいくつかを流用しているのを発見した。しかも、ソース表示なしで、である。早速小生は「お礼」のメールをクロスマップ側に送ったのだが、何日待っても、まったくなしのつぶて。この時初めて、このメディアに対して「おや？」という疑問を抱いたのであった。実はこのとき、クロスマップ＝クリスチャントゥデイと団体である「東京ソフィア教会」の週報に、小生作の詩がソース表示なしで転載されていたことは、当時はまだ知る由もなかった。

2. クリスチャントゥデイの創刊

そうこうするうちに、クロスマップがオンライン新聞「クリスチャントゥデイ」を創刊する、との予告がなされた。日本キリスト教史上初のオンライン新聞であるから、小生は大注目した。公開が開始されると、これはなかなかの出来映えである。どうやら主筆らしい高柳泉という人の文章も、切れがある。何より、根本主義とリベラルの橋渡しを目指すような「エキュメニズム」指向が、小生の魂にフィットした。早速、小生が運営していた「キャプテン・マクのページ」に、大きなバナー入りでクリスチャントゥデイへのリンクを貼ったのである。

3. ペーパー版の創刊

ところが意外なことに、それから間もなく、クリスチャントゥデイのペーパー版が、小生が救世軍本営の次に勤務していた救世軍士官学校に送りつけられて来た。日本全国のあらゆる教会にも送られたらしい。「だいじょうぶなのか？」と思った。なぜなら、当時小生が聞く限りでは、日本キリスト教界のペーパーメディアの発行部数は、老舗の『キリスト新聞』が3000部、福音派の『クリスチャン新聞』が2000部、後発の『リバイバル新聞』が1000部で、合計6000部がやっとであったからである。これほど市場規模が小さいパイの中で、どんな目算があつてク

リスチャントゥデイはペーパー版発行に踏み切ったのか？ はなから赤字覚悟であるのだろうか、では、それだけ賄える資金は、いったいどこから湧いて出て来るのか？ これが小生の当時の素朴な疑問であった。

4. 統一教会批判記事と松濤ビル

そのクリスチャントゥデイ・ペーパー版を手にして、さらに「おや？」と思ったのが、創刊号から大々的に張られた「反統一教会キャンペーン」である。当時は統一教会問題はマスコミやキリスト教界で、ほとんど語られない「静かな」時期であったから、クリスチャントゥデイの大々的なキャンペーン記事は、かえって違和感を覚えさせるのに十分なものがあつた。その違和感を「疑念」に一瞬にして変えてしまったのが、新聞奥付に記された「松濤ビル」という社屋の住所である。松濤と言え、言わずと知れた「統一教会」のメッカではないか？

5. 加盟団体と教団本部からの指導

そうこうしているうちに、救世軍本営から一通のファックスが送られて来たのである。読めば、「韓国において、クリスチャントゥデイ常任理事の張在亨氏が統一教会の核心メンバーであることが明らかになった」との日本福音同盟からの通知の回覧である。日本福音同盟は今後クリスチャントゥデイの取材を一切断ることとし、福音同盟に加盟する救世軍本営もそれに倣うという、実に衝撃的な内容である。カバリング機関に服さなければならない小生が、即日、自分の運営する「キャプテン・マクのページ」から、クリスチャントゥデイへのリンクを削除したのは、至極当然のことであつた。しかし、黙って削除するのは説明責任を欠くから、小生は削除理由を「キャプテン・マクの掲示板」に単刀直入に書いたのであつた。その後、クリスチャントゥデイのことは、しばらくして、忘れてしまっていた。

6. アポストロス・キャンパス・ミニストリーとの出会い

ところが、昨年に入って、いつものように何の気なしにネットサーフィンをしていたら、「アポストロス・キャンパス・ミニストリー」（以下ACM）という学生伝道団体のサイトに行き当たつたのである。一見して小生は「おや？」と思った。なぜなら、コピペと思われる三本の神学論文がサイトに貼り付けてあつて、「進化論か創造論か二者択一を迫る」「ティリッヒの社会神学」「パーシャルプレテリズム・キリスト教再建主義」という論文のセレクトが、小生にとって実に奇怪であつたからである。およそ普通の神学的感性を持った人間であれば、こういうセレクトはしないであろう。だが、あえてそれらの主張を総合するならば、こういう世界観になる。「六日間で神は世界を創造したと信じる根本主義者が、神律か人律かという二項対立図式の世界観に立って、社会経済政治の全領域をキリスト者の統治領域（ドミニオン）と化すために、一路邁進する」という像である。これは、とても、「普通」のキリスト者が考えることではない。そこへ来て、このサイトに「修練会」という用語が出て来た。小生の「おや？」が「えっ？」に変わった瞬間である。日本のキリスト者は修練会という表現は使わない。使うとすれば、統一教会か韓国系キリスト教会だけであるからだ。さらに「えっ？」が「あっ？」になった。このサイトに、提携団体として「クロスマップ」へのリンクが貼られていたからである。クロスマップとは、クリスチャントゥデイの前身であり母体である。

7. クリスチャントゥデイ＝ACM？

それが、小生の脳中にて「クリスチャントゥデイ＝ACM」という図が初めて結ばれた瞬間であつた。この素朴な疑問を解明するために、Google検索とWeb Archivesを駆使しながら調査して行くと、興味深い事実が次々と判明して来た。すなわち、1992年に米国UCLAでACMの母体となる学生伝道団体が設立され、1997年には中国上海の復旦大学でイエス青年会が設立され、それらが急速に発展して世界各地に広がり、その結果、EAPC（福音長老教会総会）という改革長老派系の新教団が設立され、このEAPCがクリスチャントゥデイやクロスマップやジュビリーミッションやブレスキャストやグッドニュースラインやオリヴェット大学といった、ありとあらゆる関連団体を設立して行つた。そのすべてが、わずか五年以内ぐらいで起きたことだということである。爆発的教会成長モデルで考えた場合でも、爆発的ビジネスモデルで考えた場合でも、五年

でこれほど急速に全世界展開するというのは、尋常ならざるものを感じる。それを可能にした「モチベーション」は、何であるのか？　そこで、日本のACMについてネット検索で調べてみると、やはりここ日本においても、早稲田大学界隈を中心に、ACMやイエス青年会やジュビリーミッションやクロスマップやクリスチャントゥデイが、密接な関係を持ちつつ活動しているらしいことがわかって来た。小生は、それら判明した事実を、ブログに記事として書いたのである（「Apostolos Campus Ministryという団体」「クリスチャントゥデイについて」）。

8. 威嚇を伴う最初の削除要求

ブログに記事化して二ヶ月ほどたった頃、クリスチャントゥデイの吉本幸恵記者から「ブログの記事を削除し、クリスチャントゥデイへのリンクを回復するように」とのメールが届いた。小生は、この時とばかりに、胸中の様々な質問を吉本記者に送ってみた。曰く「ネットに掲載された、イエス青年会書記の溝内氏の証しは、なんとなく統一教会の考え方に類似しているのではないか？」　曰く「ACMとイエス青年会とクリスチャントゥデイの関係はどういうものなのか？」　曰く「ACM掲載の神学論文のセレクトは奇妙ではないか？」などなど。すると、吉本記者からの返事は、大略次のようなものだった。「以前はACMやイエス青年会の者がインターンとしてクリスチャントゥデイで働いていたことがあった。今も記者の中にACMやイエス青年会のメンバーがいるが、それは記者個人の信仰であって、当社が関知するところではない。なお、当社と統一教会が関係あるかのように執拗に言う者に対しては、断固とした法的措置を取る用意がある」　いやはや、ぐずぐず言うと言訴する、と来たわけである。恐れ入った。しかし、吉本記者とのメールのやり取りをした結果、小生の胸中の疑惑の霧は、晴れるどころか、いよいよ濃さを増して行ったのである。だが、それもまた、しばらくすると、小生は忘れてしまっていた。

9. 被害者家族からの電話相談を受ける

ACMのこともクリスチャントゥデイのことも、忘れかけていた昨年の9月頃のこと、ある女性からACMに関する相談の電話を受けた。ここから、事態は大きく転回して行くことになるのである。その女性の息子さんは、大学在学中にACMの勧誘を受けて入信し、それ以降、家族に対して頻繁に嘘をつくようになったという。大学卒業後、ベレコムというIT会社に就職すると告げたのだが、自分の住所を教えようとしないう。不審に思った両親が、松濤ビルに住所があるベレコムの事務所を訪ねてみると、「クリスチャントゥデイ」の看板が出ていたという。息子さんとの連絡は途絶えがちになり、心配していると、ある日、消費者金融五社から借金返済の督促状が実家に届いた。驚愕して息子さんに問いただすと、最初は「ACMの上部団体に上納した」と説明していたが、後に「困っている女性に用立てた」などと、次々に言葉を変えた。御両親は「社会人なのだから、まず働いて借金を返しなさい」と強く意見し、勧めに従った息子さんは、御両親が三ヶ月分だけ家賃を用立てたアパートに住みながら、人材派遣会社で働き、借金返済を始めた。ところが一年後、不動産会社から家賃支払いの督促状が実家に届いた。急いでアパートを訪ねてみると、家財道具を一切合切残したまま、息子さんの姿は消えていた。大家が荷物を全部引き取って退去するよう要求するので、御両親はそれに応じて部屋を開け、未納家賃の一部を立て替え、滞納された光熱水費や電話代も支払った。そうして、クリスチャントゥデイを訪ね、息子がどこにいるか知らないかと聞くと、「知らない、わからない」という。その足で、ベレコムを訪ねると、やはり、「知らない、わからない」という。アパートから引き取った荷物の中からは、大量の聖書講義ノートと、オリヴェット大学の入学通知書があり、ノートには「聖ダビデ牧師様」という言葉が出て来るという。この相談を受けて、小生は「これはおそらくカルト団体である可能性が高い」と判断せざるを得なかった。そこで、お母様から聞いた、小生にとっての新たな注目キーワードである「ベレコム」と「オリヴェット大学」を手がかりに、ネット検索による調査を開始すると、あるひとつの像がそこに開けて来たのである。

10. オリヴェット大学を核とする世界大のインターン制度

オリヴェット大学というのは、張在亨氏が設立し、初代学長を務め、現在は総長に就任している、サンフランシスコの神学系大学である。ここへは、ACMがキャンパス伝道で勧誘した学生たちが、「修士号」を取得する目的で、世界各地から入学して来る。神学部、音楽部、新聞学部、

芸術学部、情報工学部で学ぶ学生たちは、修士課程の一貫として、「インターン・プログラム」に参加することになっている。インターン派遣先の団体や企業というのは、すべて、ACM関連のものばかりであって、それは以下の通りだ。

オリヴェット神学校を出ると、「世界福音長老教会総会」「アポストロス・キャンパス・ミニストリー」「イエス青年会」でインターンになれる。

ジュビリー音楽学校を出ると、「ジュビリーミッション」「プレスキャスト」でインターンになれる。

オリヴェット新聞学校を出ると、「クリスチャン・ポスト」「ゴスペルヘラルド」「クリスチャントゥデイ」でインターンになれる。

オリヴェット美術デザイン学校を出ると、「デオグラフィックス」でインターンになれる。

オリヴェット情報技術学校を出ると、「クロスマップ」「ベレコム」でインターンになれる。

以上のようなインターン制度についての調査結果が一方にある。その一方で、相談して来られたお母様は、「どうも息子の言葉のはしばしから、無賃金もしくは低賃金で、長時間労働をさせられているような感じがする」という言葉があった。この二つを結びつければ、こういうことになる。全世界の大学でキャンパス伝道を繰り広げているACMは、若く優秀な大学生を勧誘し、聖書講義を通じてある種のマインドコントロールを施して、オリヴェット大学修士課程に送り込み、学生たちはそこから「インターン」となって、世界各地のACMの系列企業に派遣され、無賃金あるいは低賃金に近い状態で労働をさせられる、という構図である。もっとも、この構図については、想像が大部分を占めていて、証拠付ける資料は、その時点では、まだ存在しなかったのだ。

1 1. 告訴をちらつかせたブログ記事削除要求

上記の「インターン制度」にまつわる疑問をブログで提示したところ、早速、クリスチャントゥデイの矢田喬大記者から電話がかかってきた。「このまま放置すると大問題になる。削除していただきたい。削除しない場合には、法的手段に訴えることになる」とのことであった。疑惑を確証する証拠に不足していた小生は、法廷闘争になった場合に勝ち抜ける自信がなかったので、ブログ記事の一部を伏字にすることで、矢田記者の要求に対応することとした。ところが、「伏字処置では不十分である。記事を完全に削除せよ」と、再度の要求が矢田記者から行われた。これには小生は納得できず、抵抗した。すると、矢田記者から「直接お会いしてお話したい」との要望が出された。話し合うことにやぶさかではない小生は、早速日時と場所の設定をした。2006年10月12日（木）午後7時、新宿駅西口地下広場交番前で矢田記者と井出記者と落ち会い、交番裏の喫茶店で面談する、という約束である。ところが、その日が近づくまでに、思いがけないことが起きたのだ。

1 2. 聖書講義ノートと脱会者証言

矢田記者との面談を直前に控えていたこのとき。あることがきっかけとなって、ACM脱会者のAさんと連絡が取れるようになったのである。そこで、2006年10月7日（土）午後3時に、新宿駅西口地下広場の喫茶店でAさんと面談し、ACMやクリスチャントゥデイについての貴重な証言を得ることができたのだ。その内容は、すべてタイプして、脱カルト協会の数名の会員の方々にお送りしたが、ACMとクリスチャントゥデイのカルト疑惑を深める内容のものであった。さらに、小生に相談をしておられていた御両親が、小生のブログの記事が突然伏字になったのを見て驚かれ、「疑惑追及の助けになれば」と、息子さんがアパートに残して行かれた大量の聖書講義ノートと東京ソフィア教会週報を、すべてコピーして、小生の手元にわざわざ送って来られたのである。そこから判明したことは、まず、矢田記者と井出記者が、現役の大学生であって、かつ、ACM やクリスチャントゥデイと団体である「東京ソフィア教会」のメンバーであること。「来臨のキリストはイエス・キリストとは別である」「西暦2000年に新しいキリストが到来す

る」「その名はダビデである」などと、聖書講義で教え込まれていることであった。この時、小生は、カルト監視サイトの本家本元とも言うべき『リックロス・カルト教育フォーラム』の掲示板に、「summer」と名乗るマレーシアの大学生が、「ACMの聖書講義を受けたが、最後のところで、彼らの韓国人の牧師はキリストであると教えられた」と書き込んでいることに、大いに注目していた。御両親が送って来られた聖書講義にある「新しいキリストが到来する」「その名はダビデ」という教え込みは、マレーシアの大学生が証言する情報と符合するように思われたのである。これら新情報を手にして、小生は、矢田記者および井出記者との面談に臨むこととしたのであった。

1 3. 矢田記者と井出記者との面談

新宿駅西口地下の喫茶店で、約一時間半、矢田記者と井出記者と小生は面談した。先方の主張は、「張在亨先生は、韓国で90年の歴史を持つ大韓イエス教長老会という正統教団の牧師であり、その教団の神学校の教授を務めておられる。クリスチャントゥデイに対しては、いろいろ誤解がなされて来たけれども、わたしたちは超教派の福音主義の会社であり、誤解を解くための努力をしている。今後のわたしたちの活動を見て、判断してほしい」ということであった。最後の別れ際に、小生は、三つの質問をなげかけた。

問い「マレーシアの学生が言っているように、韓国人の牧師をキリストだとして教えているのではありませんか？」

答え「ACMでは、そのようなことは、絶対に教えていません。マレーシアのACMのことは、直接マレーシアに問い合わせ、確かめてください」

問い「矢田さんも井出さんも、現役の大学生なのではありませんか？」

答え「いいえ、大学生ではありません。クリスチャントゥデイに就職して働いている者です」

問い「矢田さんも井出さんも、東京ソフィア教会に所属しておられたことがあるのではありませんか？」

答え「いいえ、東京ソフィア教会に所属していたことはありません。矢田はウェスレアンホーリネス淀橋教会の会員であり、井出は東京バプテスト教会の会員です」

この三つの質問に対する矢田氏と井出氏の返答が、小生が手にしている資料や脱会者証言と一致しないのは、明らかであった。なぜ彼らは嘘をつくのか？ しかし、矢田氏も井出氏も、小生の眼をまっすぐみつめながら、しかも、その眼をきらきらと輝かせながら、「まったく一致しないこと」を言っているのけたのである。資料と脱会者証言が正しいと仮定し、矢田氏と井出氏が嘘をついていると考えた場合、そこから導き出される推論は、小生にはひとつしかなかった。二人は何らかのマインドコントロールを受けて、平気で嘘を言えるよう、人工的な人格を被せられてしまっている、ということである。

1 4. 疑惑を確信

矢田氏と井出氏の返答から、クリスチャントゥデイのカルト疑惑を概ね確信した小生は、ブログにおいて、二つの記事を投げかけることとした。ひとつは、クリスチャントゥデイ代表の高柳泉氏が2005年9月に発表した「社説」を引用するかたちで、クリスチャントゥデイに疑惑の説明を求めた文である。高柳氏は、キリスト教会と諸団体はキリスト教言論機関の前に姿を現して説明責任を果たせ、と二年前の社説で要求しておられた。それゆえ、小生はその言葉を逆手に取って、「クリスチャントゥデイに疑惑が寄せられている以上、キリスト教言論機関を自認するクリスチャントゥデイは、その紙上で教界に対する説明責任を果たすべきではなかろうか？」という趣旨を書いた。もうひとつは、ダビデ張在亨氏の統一教会前歴疑惑を2004年に率先的かつ集中的に報じた韓国『News N Joy』の記事の翻訳掲載である。このために小生が利用した二次ソースは、なんと『米国クリスチャントゥデイ韓国語版』である。いったいどういうわけなのか理解に苦しむのだが、米国クリスチャントゥデイ韓国語版は、いわば敵手たる『News N Joy』が報じた張氏統一教会前歴疑惑記事の全文を、そのままコピペして、自分のところに掲載していたのである。まさか、自分への反対者の言論を自分のところへ全文コピペすれば、「メディアの公正と中立性」を示せる、とでも算段してのことなのだろうか。ともかくも、クリスチャントゥデイ自身が掲載しているものを、小生がブログで翻訳掲載しても、クリスチャント

ッデイから問題にされることはないであろう、というのが、小生の考えであった。まず、クリスチャントゥデイへの名誉毀損には、なり得ない。なぜなら、クリスチャントゥデイがコピペして自分のところに貼付けているのであるからだ。さらに、クリスチャントゥデイへの著作権侵害には、なり得ない。なぜなら、オリジナルの記事は『News N Joy』が書いたものであるからだ。

15. 「たいへんなことになる」と言われ、大変なことに

この二つの記事をブログに掲載したら、クリスチャントゥデイ代表の高柳泉氏から電話がかかって来た。2006年10月28日（土）午後1時頃のことである。内容は、「ブログの記事を削除しなさい。さもなければ、大変なことになる」というものであった。これに対して小生は、「クリスチャントゥデイは、堂々とキリスト教言論の前に姿を現して、疑惑に答えるべきではなからうか」との問いを投げかけた。その翌日。10月29日（日）午後11時頃に、西日本方面での伝道キャンペーンから帰宅した太田晴久少佐が、小隊（教会）の前を通りかかると、窓のすべてに目張りをした自動車が、小隊側に横付けして、しかも、反対車線側に駐車しているのを発見した。いずれ移動するであろうと見張っていたが、一向に動く気配がない。そこで太田少佐が「不審車両」を警察に通報すると、10分弱で警官二名が到着し、車に乗っていた若者二名に職務質問を行い、任意で車の中をすべて改めた。車内から「問題性」のあるものは発見されなかった。警官らは若者二名の身元を免許証で確認すると共に、ただちに退去せよ、と促し、「不審車両」は去って行ったのである。それから数日後の11月1日（水）未明より、中国の複数のサーバーを踏み台にして、大量のスパムメールが救世軍本営のサーバーに送りつけられ、この「サーバー攻撃」によって、サーバーが機能停止に近い状態に追い込まれた。これに加え、小隊（教会）スタッフが言うところによれば、この何日か、小隊（教会）の近辺で黒いスーツを来た不審な若者らを頻繁に目撃し、さらに、自転車がパンクする出来事が起きている、というのである。こうした事態によって、スタッフたちは「パニック」を起こしてしまった。小生がクリスチャントゥデイのカルト疑惑をブログで提示していることを、スタッフたちは、少し前から知っていたからである。もちろん、不審車両にせよ、サーバー攻撃にせよ、不審人物にせよ、自転車のパンクにせよ、おかしい出来事が連続で起きているのは事実にしても、それらをクリスチャントゥデイやACMと結びつける「科学的証拠」は、一切存在しない。だが、高柳氏の「大変なことになる」という電話のメッセージが、これら一連の出来事と「心理的」に結びつけられて、スタッフたちのパニックを引き起こしたのであった。この心理的因果関係は、科学的因果関係とは別の次元で、ひとつの否定し得ない事実であったのは、確かなことである。

15. 第二戦線を展開

そこで、「心理的プレッシャー」を回避するために、小生は、ブログ上のクリスチャントゥデイ関連記事を全て削除することとした。ブログから撤退したものの、この時期の収穫は大きかった。もうひとりの脱会者Bさんと連絡が取れるようになったことである。Bさんは、「ACMの幹事以上のメンバーの大半はダビデ張在亨氏を来臨のキリストと確信している」「兄弟部屋での集団生活と、関連企業での無賃金に近い労働の実態」等を証言してくださった。さらにまた、韓国語と中国語の関連資料を見つけることが出来た。まず、「聖書講義によるマインドコントロール、兄弟部屋での集団生活、関連企業での無賃金に近い労働」という「基本構造」を張在亨氏が作り上げたと目される1992年から1997年の「空白期」を埋める、『月刊現代宗教』1997年7月8月号の記事。その「基本構造」が、ほとんどそのままのかたちで展開されている「中国イエス青年会」を異端として告発する『房角石日記』の記事である。小生がブログから撤退したのと期を一つにして、小生と想いを同じくしてくれる少数の有志が、削除記事をコピペし、さらに、新たに入手した資料をも加えて（それらの資料は、すべて、脱カルト協会の何人かの会員に回したものである）「義勇軍サイト」をブログ界に立ち上げてくださった。それが、「Mystery of This Age」であり、「Tondemo Archives」であり、「銀の笛」(The Silver Whistle)である。これら三つのブログには、「来臨のキリストは、イエスキリストとは別」「西暦2000年に新しいキリストが到来する」などという、ACMの聖書講義の異端嫌疑が最も濃厚な部分を指摘する情報が「図入り」で掲載された。すると、その聖書講義のノートをとった本人を自称するk氏により、「反論ブログ」が立ち上げられたのである。「ムネの日記」というタイトルのそのブログにおいて、k氏はこう反論した。「あれは、異端対策として行われた講義を、自分が居

眠りをしながら聞いたので、誤解したものである」「ノートの特有権は、ノートをとった自分
にあり、その一部でもネット上で公開することは、不法である」。これに対して小生は、「現
在のノートの所有者は、特有権は自分にあるという立場を取っており、その所有者が小生に対
して、 photocopy を渡して、ネット上でノートの一部を公開することを許可しているのだから、
不法ではない」との反論を行った。これに対してk氏は、2006年11月9日（木）午後8時頃に
小生に電話をかけて来られて、「ネット上での聖書講義の公開を即刻中止するように。さもな
ければ、告訴する」と言って来られた。これに対して小生は、「ノートの特有権の問題は、あ
なたと小生との間の問題ではなく、あなたと現在のノートの所有者との間の問題である。告訴
なさるのであれば、告訴なさい」と返答申し上げた。そうして、この電話のやりとりとのつな
がりを示す「科学的証拠」は全く存在しないのであるけれども、翌11月10日（金）未明より、
救世軍本営のサーバーに対する二度目の攻撃が開始され、再びサーバーは機能停止に近い状態
に追い込まれたのであった。この事態を收拾するため、有志による義勇軍サイトであった
「Mystery of This Age」「Tondemo Archives」「銀の笛」は、それぞれ自発的に記事を削除し、
ネット上から撤収したのであった。

16. 2ちゃんねるにスレッドが立つ

この頃、世界最大の匿名掲示板「2ちゃんねる」の「心と宗教」の中に、「Christian Todayと
救世軍山谷少佐のガチンコ対決」と題するスレッドが、ハンドルネーム「地引網」氏によって
立てられた。義勇軍ブログ「Mystery of This Age」の作者を自称する「Mystery」こと「23」
氏や、明らかに小生の意を汲んでいると思われる「情報省」氏。クリスチャントゥデイ側の意
を汲んでいると思われる人物たち。そこに、中立の立場の者。疑惑提示派。疑惑否定派。その
他、多数の者が入り乱れて、実に11000以上もの書き込みによる議論の応酬が展開された。いま
や、そのすべてを読み通すことは、だれにも不可能であろう。その応酬の中で、「疑惑提示派」
からは、次のような論点を示された。

- (1) 張在亨氏の統一教会前歴（大学原理研学会長、大学巡回伝道団団長、国際基督者学生連
合事務局長、鮮文大学設立準備室員、鮮文大学教授）について。
- (2) 張氏の統一教会前歴の証拠の核心をなす『統一世界』1977年7月号の張氏執筆記事の真偽
について。
- (3) メソジスト系聖化学院が統一教会に買収されて成和学院（成和神学校、成和大学、鮮文
大学）となった経緯について。
- (4) 鮮文大学設立の資料の核心である『鮮文大学30年史』の真偽について。
- (5) 張氏が鮮文大学在職中の1992年に設立した「ハンビット大学宣教会」について。
- (6) ハンビット大学宣教会の異端嫌疑を記事化した『月刊現代宗教』1997年7月8月号の記事
の真偽について。
- (7) 中国のキリスト教サイト『房角石』が異端として告発している「中国イエス青年会」に
ついて。
- (8) 「ダビデ張在亨を来臨のキリストと教え込む異端の教義」をめぐる、「リックロス・カ
ルト教育フォーラム」の脱会者証言とk氏資料の該当箇所について。
- (9) 『房角石』『月刊現代宗教』『リックロス・カルト教育フォーラム』と日本の脱会者証
言に基づく、使役の「無賃金労働」に近い実態について。
- (10) オリヴェット大学の前身であるSCCSC（サザンクロス神学校海外キャンパス・ソウル校）
の不透明さについて。
- (11) k氏資料にもとづく「ノアの箱舟」としての「兄弟部屋での集団生活」と「関連企業で
の使役」について。
- (12) 日本の脱会者証言に基づく、「ノルマ献金」と「消費者金融からの借り入れ」につい
て。

これらの論点を提示する根拠となる「資料」を、小生がブログ上で公開したり、あるいは有志
が義勇軍サイトで公開したりすることは、状況的に見て困難であった。というのは、二度に及
ぶサーバー攻撃の直後で、いまだ防備体制の強化が整っていなかったゆえ、第三次サーバー攻
撃は、なんとしても回避しなければならなかったからである。このため、小生は、「資料」を、
ソーシャルネットワーキングサイト「mixi」内の非公開制・登録制コミュニティー「Christian

Todayカルト疑惑」にすべて移行し、籠城の体制を整えた。このコミュニティーには現在、十人ほどが参加して、情報の交換や議論を深め合っている。「2ちゃんねる」での議論は熾烈を極め、スレッドNo. 12においては、ついに、クリスチャントゥデイ側に立つとおぼしき複数の人物たちが、救世軍士官や救世軍職員が「児童への性的虐待」などの刑法犯として裁かれた不祥事を、世界各地の新聞ソースから拾い集めて来て、2ちゃんねる上に貼付けるという「暴露戦術」に打って出た。これにより、もはや議論を続けても、永遠の「泥仕合」から抜け出すことはできないと判断した「23」氏や「情報省」氏は、2ちゃんねるからの一方的な撤退を宣言した。しかし、クリスチャントゥデイ側に加担すると見られる人物による救世軍攻撃が、2ちゃんねる上で収束する気配は、今のところまだ見られていない。

17. 高柳氏との会談へ

そのような中、クリスチャントゥデイ代表の高柳泉氏より、太田晴久少佐を仲介人として、小生が胸中に抱き、かつ、ブログで提示した疑惑を解くための会談を、設定して欲しいとの申し入れが、再三にわたって行われた。小生としては、この申し入れを受け入れ、今回の疑惑騒動が御縁となって、いろいろとご相談申し上げるつながりが出来た三氏に「証人」として、この会談に御同席頂くよう御願ひし、了解していただいた。すなわち、帝京平成大学の唐沢治先生（精神病理学 医学博士、脱カルト協会会員、KFC教会牧師）、荻窪栄光教会の黛藤夫先生（カルト問題担当主事、脱カルト協会会員）、リバイバル新聞代表の谷口和一郎氏である。これら三氏には、小生がこれまで収集して来た、疑惑を提示する「資料」の大方を前からお渡ししてあるので、事の経緯と、問題点の所在を良くご存知であり、高柳氏と小生との会談によって、果たして疑惑が解明されたのか、それとも、疑惑は解明されずに残ることとなるのか、証人となって頂くには、最も適任と考えた次第である。高柳氏と小生との会談は、今月中に都内のどこかで開催され、その結果は、小生のブログで公表され、公表された内容については、三氏が検証され、事実と異なる点があればご指摘くださるであろう。ご指摘があれば、小生は直ちに記事の一部あるいは全部を訂正することとなる。小生が「疑惑は解除された」と判断し、かつ、三氏もそれに同意される場合にのみ、小生のブログに「クリスチャントゥデイの疑惑は解除された」と表示されることとなる。逆に、小生が「疑惑は解除されない」と判断し、かつ、三氏もそれに同意される場合には、「クリスチャントゥデイの疑惑は解除されない」と表示されることとなる。このようにして、高柳氏と小生との会談の適正が保障されると信じる次第である。

追記

高柳氏と小生の会談に、上述の三氏に加え、脱カルト協会理事でルーテル三鷹教会牧師の平岡正幸氏が「証人」として御同席下さることになった。

—以上引用—

「Major Mak's Diary」

<http://majormak.blogspot.com>

張氏統一教会前歴疑惑の経緯

以下は、オーストラリアの『クリスチャンレビュー』と韓国の『教会と信仰』等に掲載された記事の転載である。

—以下引用—

時事評論「韓国クリスチャントゥデイ設立者の統一教会前歴が明らかになる」

http://www.jesustv.com.au/christianreview/news_detail.html?sort=101&seq=96&findValue=

在豪韓国人社会で新しい週刊新聞『クリスチャントゥデイ』がお目見えして、だいぶ日がたった。在豪韓国人社会への文書伝道を目指した新聞が誕生したことは、高く評価されるべきだ。シドニーだけでも、200以上の韓国人教会が存在し、オーストラリア全体から見ても、『クリスチャントゥデイ』の創刊は、必要な事だという考えには、異論はない。多額の印刷経費に見合う利益は見込めないことを考えれば、イバラの道が行く手を塞ぐように見えるが、だれかが挑戦しなければならぬ仕事であるなら、早く始めるにしくはない。

創刊目的が不透明な豪州版『クリスチャントゥデイ』

ところで、新しい新聞が創刊された時、多くの人々が、ここかしこで疑問を口にした。だれが、何の目的で、その新聞を作るのか、ということだ。これまでの経験から見れば、目的や性格が明らかでない信仰誌が、教会の信者にまき散らされ、キリスト者を誤った道に導き入れた事例が、たくさんあったからだ。

しかし、この新しい新聞に対しては、詳細はほとんど知らされず、ただ、『韓国クリスチャントゥデイ』の豪州版だというだけだった。豪州版を、だれが中心になって、どんな神学的背景で発行しているのか、ということは、明かされなかった。

アメリカでは笑えないハプニングが起きたと言う。アメリカではすでに、『クリスチャニティー・トゥデイ』という雑誌が発行されていたが、突然『クリスチャントゥデイ』という新聞が韓国から上陸して、韓国人キリスト教会を混乱させる事態となっている。一部には、「クリスチャニティーとクリスチャンが争っている」という声もあったほどだ。韓国の『クリスチャントゥデイ』がどんな種類の新聞なのかを知る者は、少ない。

インターネット版で見つけることができたのは、教界の著名な牧師たちの写真、常任理事の名前、スタッフの名前だけだった。だれが発行人なのか、どんな神学的背景を持っているのかは、分からなかった。もちろん、そんなことを明かそうが、明かすまいが、出版の自由は誰でも享受することができる。しかし、そうこうしているうちに、『豪州版クリスチャントゥデイ』の創刊感謝礼拝の招待状が、創刊号と共に在豪韓国人社会に配布された。

ところが、数日後、おかしい情報が伝わって来た。それは、驚くべき話であった。

韓国基督教総連合会が張在亨牧師を統一教会関連疑惑で調査

すなわち、『韓国版クリスチャントゥデイ』の常任理事である「張在亨牧師」に関する、韓国からの情報である。張氏が、大韓イエス教長老会合同福音の総会長であり、韓国基督教総連合会の会員であるにもかかわらず、韓国基督教総連合会（代表会長ギルザヨン牧師）は、「張氏を統一教会関連疑惑で調査することにした」というのだ。

この事実は『教会と信仰』と『News N Joy』を通じて、具体的に世に知らされ、急速にキリスト教界にも伝えられた。

『News N Joy』に該当の記事を問い合わせた人の数は、2004年6月27日までに、7千4百回を超えた。この記事に対する世間の関心がいかばかり大きいかを示しているといえる。韓国基督教総連合会の異端対策委員会（委員長：オ・ソンホァン牧師）が調査中であるため、控えめな報道をすることしかできないが、すでに報道されたさまざまな事実だけに照らしても、問題の深刻性を認識しなければならない。なおかつ張在亨牧師が、ここ、シドニーで発行する新しい新聞とも、どんな密接な関係があるのか、猜疑心を持たざるを得ない。『豪州版クリスチャントゥデイ』の創刊感謝礼拝の会場に張在亨牧師も参加したというのだから、豪州版クリスチャントゥデイにも、張氏の手が深く関わっている事実を感じる。その日の祝辞を引き受けた「権ダビデ牧師」は、大韓イエス教長老会合同福音の前総会長であり、また、韓国クリスチャントゥデイの現常任理事として登録されている。

張在亨牧師と権ダビデ牧師とは？

権ダビデ牧師は、名の知れたサザンクロス神学大学の韓国語部の学長を務めている。奇妙なことは、張在亨牧師もまた、サザンクロス神学大学の教授になっていることだ。何かしっくりしない感じがする。本紙が確認したところでは、張在亨牧師が、ここ、シドニーへ来て講義をしたのは、もう数年も前のことなのに、たった一度講義をただけで教授になることができるというのは、どう見ても尋常ではない。権ダビデ牧師と張在亨牧師が、いかに親しい関係にあるかを、よく示す部分であろうと思われる。

これについては、詳細を確認するために、権ダビデ牧師に質問書を送付し、返事を待っているところである。現在、権ダビデ牧師は、海外出張中とのことだ。

韓国基督教総連合会の公文書を拡大解釈したクリスチャントゥデイ豪州版を批判する クリスチャントゥデイ豪州版、本紙に対し恐喝、脅迫も躊躇せず

http://www.jesustv.net.au/christianreview/news_detail.html?sort=101&seq=122&findValue=

2004年7月16日付『クリスチャントゥデイ豪州版』に対して、韓国オンライン新聞『News N Joy』は、「韓国基督教総連合会の公文書を拡大解釈している」と題して、批判記事を掲載した。

2004年7月21日付『News N Joy』は、「クリスチャントゥデイ豪州版、韓国基督教総連合会の公文書を拡大解釈」と題する批判記事を報道し、キリスト教新聞という特殊さにもかかわらず、単一記事としてヒット数が一千回を越す世間の話題となっている。

本誌『クリスチャンレビュー』7月号は、「クリスチャントゥデイ常任理事、張在亨牧師の統一教会関連疑惑が申し立てられ、韓国基督教総連合会が調査中」との報道を行った。これは、韓国キリスト教界に広く知られた事実であったし、『News N Joy』も3回にわたって集中的に報道した。

ところが、張在亨牧師の統一教会関連疑惑を調査した韓国基督教総連合会（代表会長ギルザヨン牧師）の「異端えせ対策委員会」（委員長オ・ソンホァン牧師）が、張在亨牧師が総会長を務める「大韓イエス教長老会合同福音総会」の要請を受けて送付した公文書を見ると、「張在亨牧師は1997年以後において統一教会と関係を持った形跡が全くないことが確認された」と通知されていると言う。『クリスチャントゥデイ豪州版』は、この公文書を根拠に、ただちに「張在亨博士は統一教会と、いかなる関係もない」と主張し始めた。

これに対し、『News N Joy』は、取材結果にもとづき、「クリスチャントゥデイ豪州版は、張在亨牧師に対する言及において、公文書の内容を拡大解釈している。公文書送付の手続きも誤っている」と指摘する記事を掲載した。

『News N Joy』の指摘は二点に要約できる。

第一点。「クリスチャントゥデイ豪州版は、韓国基督教総連合会の公文書を拡大解釈して、混乱をもたらした」。

『クリスチャントゥデイ豪州版』は、7月16日付社告で、「張在亨博士の異端集団(統一教会)関連問題は、韓国キリスト教界を代表する韓国基督教総連合会の異端えせ対策委員会による調査の結果、2004年7月6日付の公文書をもって、疑惑がないことが解明された。また、張氏から、統一教会と全く関係がない旨を確認する文書が本社に伝えられた。本クリスチャントゥデイは、統一教会と全く関係がないことは明白である」との声明を述べて、疑惑を全面否定した。

ところが、韓国基督教総連合会の公文書の内容には、そんな意味などではなく、ただ「1997年以後において統一教会と関連がない」と指摘しただけであって、それ以前の張在亨牧師と統一教会との関係に対しては、具体的事実を明らかにしなかつただけであり、「張在亨牧師は統一教会と全然関係がなかった」という意味には、けっしてならないのだ。『クリスチャントゥデイ豪州版』は、公文書の内容を拡大解釈している、と指摘されるゆえんがここにある。ところが『クリスチャントゥデイ豪州版』は、「張在亨牧師は統一教会とは何ら関係がないのに、商業主義に走る一部のゴシップ新聞から被害を受けている」と伝えている。

しかし、正確に言えば、張在亨牧師は統一教会と関係がないのではなく、実際関係を持っていたのであり、しかも関係があった事実に対して「懺悔」と「悔い改め」をなす趣旨の覚書を、韓国基督教総連合会に提出していたのである。この事実を知れば、『クリスチャントゥデイ豪州版』の表現は拡大解釈どころから、もう一步進んで、歪曲解釈であることがわかる。いっそのこと、「一時は関係したが、今は完全に悔い改めている。過去の問題に対しては謝罪する。今後は統一教会との関係を完全に清算することに、忠誠を尽くす」とするのが、正確な表現なのではないか？

『News N Joy』が指摘する第二点は、「韓国基督教総連合会の異端えせ対策委員会が出した公文書は、適法な手続きを経ないものだったこと」。

すなわち、張在亨牧師の件は、委員会の中で結論を出すことができなかった問題であり、役員会を経ないで、一方的に張在亨牧師に伝達された、という指摘である。異例に急がれた処置を、『News N Joy』は、理解に苦しむ、としている。

それだけでなく、異端えせ対策委員会の委員の一人である催三更牧師は、「張在亨牧師問題は、委員会で公式な決定が出た事項ではなく、韓国基督教総連合会の役員会もまだ通過していない」と述べ、「このような状況で公文書を送ってしまったことは、間違いだ」と批判したという。異端えせ対策委員会の委員の間に意見の一致が見られない状況で公文書が送付され、役員会の決議も経なかった、と強く抗議している。今後、張在亨牧師の件について、韓国基督教総連合会の役員会が、どう対処するかが注目される。この件でもう一つ付け加えなければならないことは、異端えせ対策委員長であったオ・ソンホァン牧師が、去る7月15日付で委員長を辞任したことである。時期を見ると、7月6日に公文書を送付し、十日後に辞任したことになる。これがただの杞憂で済めば、と願うのみである。

これほど「張在亨牧師統一教会関連疑惑」には、未解決の部分が多いにもかかわらず、『クリスチャントゥデイ豪州版』が「商業主義に走る一部のゴシップ新聞からの被害に対して、断固とした措置を取る」と主張するのは、拡大解釈を通り越して、恐喝や脅迫に聞こえてくる。実は本誌『クリスチャンレビュー』は、この件が明るみに出る前から、「断固とした措置を取る」と、クリスチャントゥデイ関係者から何度もゆすりを受けて来た。去る7月に本誌が出版される直前、クリスチャントゥデイ側が印刷会社を訪ねて来て、「クリスチャンレビューの出版日付

はいつか？ 何部発行するのか？」と問いたただすので、印刷会社は「そんな愚問には一切答えなかった」と、本誌に事実を知らせてくれた。韓国基督教総連合会から、まだどんな情報も受けていなかった去る6月28日にも、クリスチャントゥデイ側は本誌発行人に電話をかけてきて、「韓国基督教総連合会では、何も問題がないことが、明らかにされた。クリスチャントゥデイ常任理事の張在亨氏の記事が報道されれば、肖像権侵害と名誉毀損で告発する」という脅迫を、躊躇せず行った。しかし、韓国基督教総連合会の公文書が出る前に、いったいどんな経路を使ってクリスチャントゥデイはその内容を知るに至ったのか、奇怪な話である。7月に入っても決まっていなかった事を、6月の時点で分かったと言い、しかも、名誉毀損を云々する。そのような圧力をかける電話を執拗にかけてきて、本誌の編集の妨害をされたので、かえって本誌は反発し、対抗するかたちとなった。韓国基督教総連合会は、歴史の審判に対して恥とまらない公正な判断を下して、キリスト者たちがこれ以上迷わないようにしなければならない。『クリスチャントゥデイ豪州版』も、脅迫を止めて、おのれの出自を明確にし、これ以上の混乱を与えないようにすべきである。

異端えせ対策委員会、役員会を通過する前に公文書を発送 委員会内部に異論

http://www.jesustv.net.au/christianreview/news_detail.html?sort=101&seq=122&findValue=

統一教会との関連疑惑でキリスト教界に波紋を引き起こした、大韓イエス教長老会合同福音総会長、張在亨牧師に対して調査を行った韓国基督教総連合会の「異端えせ対策委員会」（梨花女子大学長オ・ソンホァン委員長）が、異例の速さで調査を打ち切ろうとした疑惑が浮上している。韓国基督教総連合会の異端えせ対策委員会は、張在亨牧師に対する調査結果が役員会の決定を通過する前に、「張在亨牧師は1997年以後統一教会と関係がない」とする内容の公文書を7月6日付で大韓イエス教長老会合同福音総会に送付したことが、明らかになった。しかし、韓国基督教総連合会の異端えせ対策委員会から委任を受けた「小委員会」は、この問題をめぐって、異端えせ対策委員会と意見を異にし、混乱が予想される。

韓国基督教総連合会の異端えせ対策委員会が大韓イエス教長老会合同福音総会の要請で送付した公文書を見ると、「張在亨総会長が異端（統一教会）に関わったとの疑惑については、1997年以後には統一教会と関係が全くないことを確認した」と記されている。この公文書は、異端えせ対策委員会委員長のオ・ソンホァン牧師と、韓国基督教総連合会のギルザヨン代表会長の名で作成されたもので、張在亨牧師に対する韓国基督教総連合会の公式の立場を示すものと言える。

しかし、この公文書が作成された過程で、さまざまな問題点が現われている。まず、小委員会が調査した内容に対して、韓国基督教総連合会の役員会が何ら決断を下さぬ前に、無判断で公文書が送付されたことが、批判されている。オ・ソンホァン牧師、シム・ヤンシク長老と一緒に小委員会で活動して、張在亨牧師疑惑を調査した催三更牧師は、「張在亨牧師問題は、異端えせ対策委員会での公式な決定事項ではなく、韓国基督教総連合会の役員会も通過していない事案」と述べ、「こんな状況で公文書を送ったのは、誤った事だ」と批判した。異端えせ対策委員会の副委員長である陣容式牧師も、やはり「公文書が出た事実は全然知らなかった。張在亨牧師の件に関しては、何も決まった事項がない」と念を押した。

この件に関して、異端えせ対策委員長のオ・ソンホァン牧師の見解を聞くために電話取材を試みたところ、詳細な説明を拒否された。シム・ヤンシク長老は『News N Joy』の電話取材に対し、「大韓イエス教長老会合同福音総会に公文書を送ることは、オ・ソンホァン牧師が決めたし、公文書の内容も分かっていた」と明らかにした。シム・ヤンシク長老は、張在亨牧師に関する疑惑に対し、「慎重に調査した結果、1997年以降問題があるという事を見つけることができなかった」と述べた。

異端えせ対策委員会の中でも、張在亨牧師の問題を捉える視点に著しい違いが生じている。こうした状況の中、今後、韓国基督教総連合会の役員会が、張在亨牧師に対する異端えせ対策委員会の報告にどんな決定を下すか、その帰趨が注目される。

張在亨牧師が結局、統一教会前歴を自認する
韓国基督教総連合会が、張牧師が提出した「悔い改めの自筆覚書」の内容を突然公開
<http://www.newsjoy.co.kr/news/quickViewArticleView.html?idxno=8864>

張在亨牧師（大韓イエス教長老会合同総会）が結局自分の統一教会前歴を自認して悔い改めるという立場を明らかにした事実が、韓国キリスト教総連合会（韓基総、代表会長ギルザヨン牧師）異端対策委員会（異端委）の公式会議で確認された。

これはその間、張牧師が統一教会前歴を強く否認して来た態度を180度変えたことになり、その背景が注目されている。

韓国基督教総連合会異端委員会（委員長代行陣容式牧師）は8月12日に全体会議を開いて、張牧師が韓国基督教総連合会に提出した「悔い改めの自筆覚書」の内容を公開した。この覚書で張牧師は「私は若い時代に統一教会関連団体で働いたことがある」と統一教会前歴を自認し、「これを深く悔い改めて懺悔する」ことを明らかにした。

また張牧師はこの覚書で、「万一（現在）統一教会と関連があるという一抹の事実でも発見された時は、責任を負って韓国教会から下されるどんな措置も受ける」「過去の経験を土台に、統一教会対策のために全力を傾ける」と念を押した。

張牧師は去る6月初めまでは、自分の統一教会前歴疑惑に関する『教会と信仰』などの確認取材に対して、「法的措置を取る」と話して強く否認していた。

同時に、自分が統一教会の中心的人物であったという事実を全面的に否認する一方で、△統一教会で福音を教えたために追い出された。△統一教会の外郭団体で働いていた。△統一教会内の人々を救うために入った。などの主張を展開して、自分の統一教会前歴疑惑を一蹴した。

「過去に対して説明する意向はないのか？」という記者の質問に対して、張牧師は「狂信徒たちが言うようなことだ」と言いながら、過去に対する説明や悔い改めの意思が全然ないことを確かにした事がある。しかし、韓国基督教総連合会が今回公開した資料によると、彼は、これまでの頑強な態度を完全に变えて、6月26日に統一教会前歴を深く悔い改めて懺悔するという要旨の自筆覚書を韓国基督教総連合会に提出した。

しかし、張牧師の「悔い改めの覚書」の提出にもかかわらず、韓国基督教総連合会異端委員会は、一応慎重な姿勢を見せた。韓国基督教総連合会異端委員会は、この日の会議で、張牧師が、△統一教会の異端性。△統一教会からの離脱の経緯。△統一教会への対策活動の宣明。などを含んだ具体的な内容の「悔い改めの広告」を、自分が常任理事である『クリスチャントゥデイ』に載せるなら、彼の真正性を認めることができる、と決議した

韓国基督教総連合会異端委員会のある関係者は、「張牧師が悔い改めの覚書を韓国基督教総連合会に提出したが、具体的な悔い改め内容はない」「文鮮明の教団が異端であることを確かにして、統一教会のどの教理が間違っているか、また、どうして統一教会を離脱するようになったかを、広告を通じて具体的に明らかにしなければならない」と語った。韓国基督教総連合会異端委員会は、このような立場を早いうちに張牧師側に伝達する予定だ。

韓国基督教総連合会異端えせ対策委員会、張牧師に「悔い改めの広告」を要求

http://www.sermon66.com/news_print.html?s=index&no=127682

韓国基督教総連合会（CCK）は、統一教会関連疑惑を招いた張在亨牧師（イエス青年会設立者）に対して「1997年以後に統一教会と関わったとの疑惑を捜すことができなかった」という「異端えせ対策委員会」の報告を受けた。

韓国基督教総連合会異端委員会は2004年 8月12日に、「張在亨牧師が（１）統一教会の異端性、（２）統一教会からの離脱の経緯、（３）統一教会への反対活動を行う宣言、などを含んだ具体的内容の『悔い改めの広告』を、本人が常任理事を務める『クリスチャントゥデイ』に掲載するなら、張牧師の真正性を認めることができる」と決議した。しかし、張牧師は、これを行っていない。

異端専門家 催三更氏、張牧師に「悔い改めの広告」を再度要求

http://www.jesustv.net.au/news/news_detail.html?sort=&seq=1004

2006年9月3日に『クリスチャンレビュー』創刊200号記念として開催された「オーストラリア異端巡回講演会」で、異端専門家の催三更牧師（韓国基督教総連合会異端えせ対策委員会委員）は、「クリスチャントゥデイと統一教会関連疑惑」に対する質問に対して、次のように答えた。

「クリスチャントゥデイの設立者、張在亨牧師は、統一教会の文鮮明の司式で合同結婚式を挙げたし、一般大学で統一教会の学生伝道をしたし、統一教会の傘下の成和神学校で講義した人だ」と明らかにした。

催牧師は「張在亨牧師は、自分は統一教会の信者ではなかったと主張し、さらに、1997年以降は統一教会との関係はないと言う。聖徒たちが判断できるように、統一教会から抜けたあかしとして、韓国基督教総連合会が要求するとおり、自分の新聞であるクリスチャントゥデイの紙上に『統一教会とは関係ない』という立場表明を掲載しなければならないはずなのに、いまだにしていない。本人が鮮やかに表明するまで、待たなければならない」と明らかにした。

催牧師は例を挙げ、「ゾンドンソブ教授は、救援派から脱会し、救援派によって監獄まで行って、出て来ても、救援派に敵対して争っているし、陣容式牧師も、安息教に 28年間も在籍してから脱会して、安息教と対立して争っている。それなのに、いまだに張在亨氏は、統一教会に対抗していない」と強調した。

催牧師は、各地域の牧師セミナーで、韓国教会の主要教団が規定した「問題団体リスト」を通じて、異端の実体を明らかにし、必要な情報と資料はインターネット新聞『教会と信仰』のサイト上に、過去13年間取材して研究した資料と、異端と論争した内容が 五六千件にのぼって蓄積されており、会員に加入して利用するよう勧めた。

一方シドニーの教役者セミナーで催牧師は、「『異端を批判する自由は、言論の批判の自由よりも、保障されなければならない』という最高裁判所の判例が出たことにより、多くの問題で勝訴できるようになった」と述べた。最後に「クリスチャントゥデイ問題」に言及した。催牧師は、「自分は、教会を建てることを願いつつ、悔い改めて帰って来る人は、誰でも受け入れる。それが神様の御心ではないのか」と問いかけ、「張在亨牧師が統一教会で合同結婚式をあげたこと、その団体が月給を受けて働いたこと、統一教会を異端として批判する文章をクリスチャントゥデイに載せなさいと言ったが、いまだにそれを出せないことが、問題だ」と指摘した。

この日の牧師セミナーに参加した『クリスチャントゥデイ』の金恩恵記者は、張在亨牧師の統一教会関連疑惑に対して異議を申し立てた。これに対して催三更牧師は、「あなたの団体は、ペールに包まれている」と言い、「韓国でクリスチャントゥデイの記者たちが、とても無礼に何度も私を訪ねて来た。そんなに劣悪な環境の中で献身している点も疑わしいが、問題なのは、『張在亨牧師が1997年以前にも統一教会と関連がなかった』と主張していることだ。少なくとも統一教会に係わった人なら、直接統一教会を批判して、その異端性を明らかにする先頭に立つべきだ。それなら、信頼感を持つことができる。そう張在亨氏に伝えなさい」と言って、講演会の質疑応答の時間を締めくくった。

—以上引用—

張牧師統一教会前歴疑惑 (News N Joy)

以下は、『News N Joy』が報じた「張牧師統一教会前歴疑惑」の記事を、『米国クリスチャントゥデイ韓国語版』がコメントなしで転載し、それをさらに転載したものである。

—以下引用—

張牧師統一教会前歴疑惑

http://christiantoday.us/sub_read.html?uid=3639§ion=section58

http://christiantoday.us/sub_read.html?uid=3732§ion=section58

http://christiantoday.us/sub_read.html?uid=3745§ion=section58

原理研究会を導いた主役

韓国基督教総連合会（代表会長ギルザヨン牧師）の「異端えせ対策委員会」（委員長オ・ソンホァン牧師）が、加盟教団である大韓イエス教長老会合同福音総会長、張在亨牧師（55）の統一教会前歴を調査したという事実が明るみに出て、張牧師をめぐる議論が起きている。張牧師は2003年末、大韓イエス教長老会合同福音の総会長であり、現在韓国で発行されている「クリスチャントゥデイ」の常任理事であり、学生宣教団体「イエス青年会」と「韓国大学福音化宣教会」（CEF）の設立者だ。音楽宣教会「ジュビリーミッション」と青少年文化宣教団「ブレスコリア」も、やはり張氏が作った団体だ。張牧師をめぐる様々な批判の実態を解明するために、「韓国クリスチャントゥデイ」は三回にわたって集中報道する。なお、この企画はオンライン新聞「News N Joy」の報道の転載であることを、あらかじめ明らかにしておく。（クリスチャントゥデイ編集者）

鮮文大学教授、大学巡回伝道団団長、国際基督学生連合会事務局長など統一教会要職歴任 大韓イエス教長老会合同福音総会長、韓国クリスチャントゥデイ常任理事、イエス青年会設立者

公式に現われる張在亨牧師の統一教会前歴は、1975年に始まる。張氏は1975年2月に、ソウルの奨忠体育館で開かれた統一教会の合同結婚式に参加した。いわゆる「1800双」出身である。司式は統一教会の文鮮明教主が行った。統一教会が発行する月刊誌『統一世界』1977年7月号によれば、張牧師は建国大行政学科在学中に原理研究会での活動を始め、卒業後は慶北道に出て統一教会の開拓伝道に従事した。その後、大学原理研究会に戻り、1972年から1977年まで学舎長を務めた。1977年1月には大学巡回伝道団団長に就任するよう「任命」された。以後1977年3月から1979年8月まで、大学巡回伝道団団長を務めた。『統一世界』は、大学巡回伝道団の団員全員が大学卒業生で構成されていたこと、午前中は学舎が自主教育を受け、午後は大学を中心に伝道したことを明らかにしている。また、各大学で原理運動展示会やセミナーを主催し、100名余の学生を週末の修練会に勧誘し、統一教会に入信させたと伝えている。『統一世界』の取材に対して張在亨牧師は、大学巡回伝道団の使命について、「大学巡伝団は民族に先立って大学原理化の主役を担当して行かなければならない」「卒業生や兵役除隊者を教育して、統一教会の第一線に一括して進出させることが重要な使命だ」「大学生を相手に統一原理を伝道している者たちこそ、民族原理化の種子あり核だ」と答えた、と記されている。

大学巡回伝道団は牧師養成コースか？

統一教会への反対運動を進めているパク・ジュンチョル牧師（韓国基督教統一教会対策協議会事務総長）は、大学巡回伝道団の性格を「統一教会牧師養成機関」と規定する。6ヶ月間の教義の学習と伝道を並行して、統一教会牧師を集中養成するコースだというのだ。統一教会から出た資料も、パク・ジュンチョル牧師の主張と類似している。統一教会が1990年に発行した『文

鮮明先生古希記念文集11』には、大学巡回伝道団に対して「統一教会の世界的なリーダーを養成する人才養成機関として、原理研究会の正会員である卒業生が入団し、合宿と献身生活を通じて、能率的で効果的な人員管理と体系的な教育プログラムを施して、今日に必要なリーダーを養成し、大学と学舎別活動に機動力に富んだ適切なサポートを提供して伝道活動を行い、原理運動に必要な外部団体との交渉・文化活動・教化用出版物の編集発行を通じて、大学原理運動を支援することが、その設立趣旨である」とある。実際に張在亨牧師以後に大学巡回伝道団団長を務めた四光期氏は、現在『世界日報』社長であり、やはり団長を務めた真性孟氏は、統一教会が経営する鮮文大学の現職の副総長だ。また、『今日の摂理の歴史』は、張在亨牧師を「原理研究会を導いて来た初期の主役」の一人として紹介している。「原理研究会」は現在、文鮮明教主の四男ムン・ヒョンジン氏が会長を務める「ワールドカープ(World CARP)」の前身である。『今日の摂理の歴史』によれば、草創期の原理研究会は、統一教会の本山と言える青坡洞本部教会の隣室を使用したという。原理研究会の性格は、団体の目的を、「本会は統一原理を基本理念にする」と明らかに述べている部分によく現われている。当時の原理研究会は、各地の大学を回って講演会を開いたが、現在統一教会が熱心に活動を広げている「純潔運動」の本部である「韓国青年純潔運動本部」会長を引き受けているギムボングテ氏と、『世界日報』社長を経て、現在統一教会の傘下である金鋼山国際グループの会長職にあるパク・ボヒ氏が、講演会の主要な講師だった。キャンパス周辺に統一教会の会員たちが集団で居住する「学舎」が初めて登場したのは1970年のことである。『統一世界』によれば、張在亨牧師は1972年から1977年1月まで学舎長を勤めたが、『今日の摂理の歴史』には「1976年2月15日付で学舎が統一教会の行政機構に合わせて名称を変え、学舎長はその地位が教役長と同等と認められた」と記述している。教役長は統一教会の「牧師」を指す用語だ。

原理研究会導いた初期の主役

原理研究会と大学巡回伝道団で活動した張牧師は、1982年に「国際基督学生連合会」に舞台を移す。この時の状況について、『今日の摂理の歴史』は、「1982年10月、文鮮明先生の帰国と同時に手沢里迎賓館で全国の学舎長が集まった中で、国際基督学生連合会を独立組織として分離することが命じられ、当時原理研究会の学舎長を務めていたに張在亨、イゼホン、衛星嶺ら三名が国際基督学生連合会に任命され、活動を開始した」と述べている。『文鮮明先生古希記念文集11』は、当時の状況をこう伝えている。「1980年の冬休みに、基督学生招請原理修練会を開催して、1981年夏まで二回にわたって日本訪問を終えたキリスト者学生たちと、原理研究会の張在亨、イゼホン、衛星嶺ら三名の学舎長が、国際基督学生連合会の創立メンバーとなって、発起人会および設立準備委員会を組織し、国際クリスチャン教授協議会と協力して、韓国で国際基督学生連合会（ICSA）を結成することになり、志を共にするキリスト者学生たちの積極的な応答を受け、1981年11月14日にソウルで創立総会を開催した」。

国際基督学生連合会が掲げた創立目的は「教会一致運動」「預言者運動」「キリスト教徒に火を灯す」「平和を具現する愛の共同体」などだった。しかし、内実をよく見れば、文鮮明教主の影響があちこちに出ていた。「イデオロギーの昏迷の中にある大学生に、宇宙的視野を与えるため」に開設したという「理念教室」のプログラムには、「文鮮明先生と統一思想」のテーマが含まれていることが、これを証している。国際基督学生連合会が開催した修練会の講師に、鮮文大学総長を務めたユンセワン教授などがあることも、目立つ点だ。張牧師は国際基督学生連合会の事務局長を引き受けて、旺盛に活動を進めた。また、この団体が主軸になって発行した雑誌『主類』の編集人としても活躍した。この雑誌は、「教会の一致と革新」をモットーに創刊したが、一般のキリスト教雑誌に比べて、統一教会の雰囲気濃厚に漂うことは、否み難い。

国際基督学生連合会創立メンバー

「合同結婚式参加」「原理研究会の草創期の主役」「学舎長」「大学巡回伝道団団長」「国際基督学生連合会事務局長」。以上はすべて、統一教会の資料の中に記載された、張牧師の若い時代の履歴である。張牧師は自分の過去に対して、「統一教会の主要団体で活動したという主

張は偽りだ」という趣旨で反論している。しかし、パク・ジュン Chol 牧師の考えは、正反対である。張牧師が通過した道は、統一教会の「肉中の肉、骨中の骨」を育てる「エリートコース」だったというのだ。1972年に建国大行政学科を卒業した張在亨牧師は、1979年に韓国神学大学神学科に編入する。履歴書だけで見るならば、1979年を境に、「正統キリスト教」の道に足を踏み入れた、ということになる。

1998年まで鮮文大学教授職を維持 大学要覧に「統一神学」担当教授として記載

「合同結婚式」「原理研究会」「学舎長」「大学巡回伝道団団長」「国際基督学生連合会事務局長」を経て来た張在亨牧師の履歴は、1980年代に入ると、活動の場を成和神学校（現鮮文大学）に移す。「鮮文大学30年史編纂委員会」が2002年4月に発行した『鮮文大学30年史』134ページには、次のような記述がある。「鮮文大学設立準備委員会で働いていた張在亨氏が、消息を耳にして、まっすぐにユンセワン準備委員長の名前で、設立者（編集者注、文鮮明教主を指す？）に報告した」。

「設立者の念願を理解していた張在亨氏（後日教授）は、本格的に成和神学校を引き受ける作業に入って行った。しかし、当時の状況として、天安市に位置する平地ではない山に大学を作ることは、無理と見られていた。統一教会内部でも、懐疑的な意見があった。そこで、張在亨氏は、自分の家売って設立基金に加えたりした。張氏は鮮文大学が今日ある最大の功労者だ」。

『鮮文大学30年史』は、張在亨牧師を「設立者の念願を理解して」「自宅を売って設立基金に加えた」「鮮文大学設立の功労者」と記述している。これを見れば、張在亨牧師は、統一教会が運営する鮮文大学を今日あらしめた最大の功労者であるわけだ。

しかし張在亨牧師は、『鮮文大学30年史』の自分に関する記述が、事実とは全然違うという立場を取る。鮮文大学設立準備委員会で働いたことはなく、成和神学校を生かすために努力したこともなく、統一教会のためにしたのでもなく、ただエキュメニカル精神によって運営される学校を建てたいがためだった、という主張だ。

鮮文大学の設立功労者

成和神学校設立初期の関係者であった張在亨牧師は1998年1月に退職するまで、十年以上学校に寝泊まりしながら神学や行政学を教えた。1989年9月から1991年2月までは、学生部長を務めた。30代と40代を成和神学校と鮮文大学で過ごしたことになる。現在鮮文大学で教えられている神学が、統一教会の教理を基盤にしたものであることは、明らかな事実である。『鮮文大学2004年度新入生募集要綱』を見ると、統一神学科卒業生たちの進路を「世界福音伝道に携わる牧師」「各種機関及び企業勤務者」と示している。統一教会のリーダーを育てるコースであるわけだ。

しかし張在亨牧師は、自分が勤めた当時の学校の雰囲気は、今とは違っていた、と主張する。その頃の学校では、統一教会の教理を教えることができる雰囲気ではなかった、というのだ。張氏は、統一教会は正統神学を学んで、社会と調和する必要があるという判断のもとに、福音主義に即した神学を教えた、と主張する。しかし、鮮文大学が発行した各種資料に現われる張在亨牧師の業績は、本人の主張と相反する面が多い。

鮮文大学の前身である成和神学校が発行した『1989年要覧』を見ると、張在亨牧師の専攻は「神学」で、担当科目は「組織神学」および「統一神学」と表記されている。また、学生部長に就任していることも書かれている。学科紹介文には、統一教会でよく使う用語が目立つ。1989年当時、成和神学校には神学科、海外宣教学科、社会福祉学科があったが、共通の教養必須科目として「統一思想」を履修しなければならなかった。『要覧』に記載された「統一思想」に関する科目概要には、「統一思想は、文鮮明先生が提示した統一主体に即した思想として、歴史

上提示されて来た諸般の思想の未整備な点を根本的に解決し、一貫性ある思想の統一体系を試みようとするものである」という説明が付されている。

当時の教授陣も、統一教会と密接な関係を持つ人が大多数だった。校長は後に鮮文大学総長を務めたユンセワン教授であったし、成和神学校が発足する前に統一教会が自主的に運営した「統一神学校」の校長だった李氏は「チャペル及び教役長」を担当した。梨花女子大学教授の職を捨てて統一教会に移った金永雲教授は、統一神学を担当した。この『要覧』によれば、張在亨牧師は組織神学、現代神学、統一神学を担当したが、統一神学については、「統一原理を、組織神学の体系の中で整理して、原理の詳細内容と既存神学科の関係を含めた、文鮮明先生の独創的な啓示の世界の神学化を目指す学問分野である」と説明されている。

張牧師は「統一神学」を教えたのか？

成和神学校から成和大学へ、さらに鮮文大学へと変わる過程で、神学科は何回か姿を変えた。1986年から1990年までは、神学科と海外宣教学科が存在したし、1991年からの四年間は、神学科が閉科されて、海外宣教学科だけが残った。以後、1994年3月の鮮文大学開設まで、かたちを変えながら、1994年9月に「統一神学科」が新設されるに至る。現在は、統一神学部の中に三つの詳細専攻がある。張在亨牧師は、神学科が閉科された事実を挙げて、当時の学校の教育内容に対する文部省とキリスト教界の監視が、それほど厳しかった、と強調する。

しかし、海外宣教学科だけが残っていた1991年に、「成和大学神学部」が発行した「実践神学資料集」を見ると、文鮮明教主の影響力が相変らず相当だったとことがわかる。「牧会現場で直面する問題を、アカデミックな方法で解決して研究するため」に作ったという「資料集」のリストのうち、かなりの数が文鮮明教主の講演であるからだ。また、鮮文大学が1998年に発行した『単科大学要覧』を見ると、神学科が閉科された四年間も、統一教会と係わる科目が教科過程表に相変らず存在していた。△統一思想 △原理通読 △統一教会史 △統一神学 △原理研究及び演習 △統一倫理学 △聖書と原理、などの科目がそれだ。やはり神学科がなかった1994年に発行された「成和大学広報パンフレット」にも「設立者の講和」という題目で、文鮮明教主夫婦の写真と記念の辞が掲載されている。

1995年に「統一神学科」が導入されると、鮮文大学は露骨に統一教会の教理を講義し始めた。教科にも、統一神学関連の科目が大幅に強化された。鮮文大学神学大学新入生オリエンテーションのために1999年に発行された資料集を見ると、文鮮明教主に対して「真の父母」という呼称を使っていることがわかる。ギムジンツン宣教学部学長は「最高のレベルの教えとは、神様と真の父母による、摂理に関する教えである」と説明している。

ますます強化される統一教会の影響力

張在亨牧師は、1995年まで鮮文大学に在職していたが、1996年に休職して、1998年1月に退職する。この二年の空白の間に、張在亨氏は牧師按手を受けたという。彼の主張どおりなら、鮮文大学の教授職を維持していた1997年6月に牧師按手を受けたことになるわけだ。張牧師は、この部分に対して、退職金の問題が解決されていなくて、休職状態にあった、と明らかにした。問題の核心は、張在亨牧師が鮮文大学と関係を結んでいた1980年代中盤から1998年1月までの行績を、どのように見るか、ということである。張牧師は、自分が大学にいた目的は、統一教会の信者に正統神学を教えることだった、と明らかにしたことがある。また、異端に惑わされた多くの人々を救出した、という点も強調した。

しかし、鮮文大学が発行した各種資料と、張牧師の主張の間に横たわる溝は相変らず埋まらない。退職金を受け取る目的があったと言うが、鮮文大学教授の職を維持した状態のままで牧師按手を受けることが、果して適切な行動なのか、という疑問が残る。

「関係ない」から一転して「懺悔」へ、態度急変 牧師按手年度と教団名が不明

大韓イエス教長老会合同福音の総会長に就任した張在亨牧師が、2003年に韓国基督教総連合会に提出した履歴書を見ると、牧師按手を受けた時期が1992年10月と書かれている。

履歴書には、張牧師がどの教団から按手を受けたのか、表記されていない。「大韓イエス教長老会合同福音所属」と記されているだけだ。もし履歴書に書かれたように、張牧師が1992年10月に牧師按手を受けていたとしたら、重大な問題が発生する。大韓イエス教長老会合同福音は、現職の鮮文大学教授に牧師按手を与えたことになってしまうからである。

しかし、張牧師は、履歴書に記載した牧師按手年度が、事実と違うということを主張しだした。1996年に大韓イエス教長老会合同福音のチャンソンホ牧師から、牧師按手を受けたというのだ。ところが、その後それも間違いだとし、牧師按手は1997年6月9日だった、と訂正した。

張在亨牧師は、これほどの間違いに対して、「履歴書を書く過程で生じた、ちょっとした間違いだった」と釈明している。

しかし、「上記内容に相違ないことを認める」という一文に自分の捺印をして作成した「履歴書」の内容において、牧師按手年という、最も重要な記載事項に、事実と五年以上差があったというのは、とても簡単には納得出来ないことである。

牧師按手の年度のほかに、いったい誰が張在亨牧師に按手を受けたのかも、疑惑に満ちている。

張在亨牧師は、1997年にチャンソンホ牧師から按手を受けたと言うが、この問題に対するチャンソンホ牧師と教団関係者の陳述が、不明瞭である。チャンソンホ牧師は、某教団新聞の記者とのインタビューの中で、「張在亨牧師に按手を与えた事実は全然ない」と力強く否認した。チャンソンホ牧師が張在亨牧師に初めて会った当時、張在亨はすでに教団の重鎮だったから、彼に牧師按手を与えることなどありえない、というのだ。

匿名で取材に答えた教団の幹部も、やはり張在亨牧師が教団に入ってから、すでに牧師だった、と主張した。この幹部は、「牧師が牧師に按手を与えることなど、ありえるわけがない」と述べたが、張在亨牧師とそのグループを海外に宣教師として派遣したことはある、と付け加えた。

この問題に対して、張在亨牧師の立場は、はっきりしている。「1997年にチャンソンホ牧師から按手を受けたことは明らかなだ」と言うのだ。張在亨牧師はこれを立証する証拠として、チャンソンホ牧師と張在亨牧師と一緒に撮った写真を見せてくれた。彼はこの写真を「牧師按手式で撮影したものだ」と主張した。按手を受けた証明書もあると言ったが、これは公開しなかった。

チャンソンホ牧師は現在、按手問題に対して、以前の自分の証言を完全に変えている。「年が過ぎていたため、按手を与えなかったと勘違いしてしまった」というのが、チャンソンホ牧師の最近の主張である。チャンソンホ牧師は記者との電話で、「張在亨に牧師按手を与えたことを証明する」という確認書を、韓国基督教総連合会に送付したことを明らかにした。

しかし、チャンソンホ牧師の主張には、釈然としない点が多い。まず、いくら年が過ぎていたとは言え、自分が牧師按手を受けた人を忘れるというようなことが、果たしてあり得るのか、という疑問である。チャンソンホ牧師は今年で67歳である（2004年当時）。また、某教団新聞の記者とのインタビューの席で、ある種の資料まで渡して、「張在亨に按手をしたことはない」と主張した人が、今になって「錯覚だった」と言うのは、まったく理解ができない。

牧師按手をめぐる疑惑

張在亨牧師が、韓国基督教總連合会に加入する過程で、統一教会前歴について全く口をつぐんでいたことも、問題として指摘されている。張在亨牧師は、大韓イエス教長老会合同福音への加入過程で、徹底的な検証を受けたから、韓国基督教總連合会に加入する際に、改めて申し出る必要を感じることができなかった、と主張している。韓国基督教總連合会の不始末な加入手続きも、批判の対象となっている。韓国基督教總連合会は、自らを62の教団が加入する連合体として自慢している。しかし彼らの主張のように「韓国教会を代表する連合機関」となるために、加入手続きを簡単にしてしまい、この「勢力拡張」の姿勢が、教団の乱入をもたらしているのではないか、という批判を受けている。韓国基督教總連合会の加盟教団になるためには、新規加入申し込みをするか、あるいは、加盟教団が分裂あるいは分立しなければならない。加入審査条件は、教団の規模に集中されている。△教団設立5年以上 △5個中会以上 △100教会以上 △会員数7000人以上が条件の全部である。教団の神学や異端性を判別する基準は、全くないと言える。今年1月から「異端えせ対策委員会」の調査が行われるようになって、制度が変わったことが、せめてもの幸いである。

分裂あるいは分立を通じて加盟教団になる場合には、審査基準はずっと緩和される。分裂の場合、「事故調査委員会」の調査を経た後に加入が許諾され、分立する場合にも、厳格な調査が不足している。張在亨牧師が総会長である大韓イエス教長老会合同福音は、チャンソンホ牧師が総会長を務める大韓イエス教長老会国際合同福音から2003年1月に分立加入した。張在亨牧師は2003年末に、専任総会長、権ダウィッド牧師の後を引き継いで総会長に上がった。

韓国基督教總連合会の不始末な加入手続き

張在亨牧師は6月28日に、韓国基督教總連合会に「覚書」を提出した。オ・ソンホァン牧師、催三更牧師、シムヤンシク長老の三人で構成された調査委員会が、張在亨牧師から二度書面回答を受けて、直接調査した挙げ句に出た結果だった。覚書には、若い頃に統一教会の関連団体で働いたことを深く悔い改め、統一教会に対処するために力を傾ける、という決意も表わされているという。表面上は何も問題がないように見える「きれいな」覚書だ。しかし忘れてならないことは、彼の出した覚書が、「統一教会前歴をめぐる不正」→「統一教会前歴に対する態度の変化」→「全面的な悔い改めと懺悔」というプロセスを通して誕生した、ということだ。「過去の事について記事を書いたら、裁判に訴える」と暗に示した彼が、なぜまた「懺悔と悔い改め」という態度に変わったのか、その背景が知りたいと思わざるを得ない。

現在、張在亨牧師に対する韓国基督教總連合会の調査は、おおよそ仕上げがなされた状態だ。大勢の雰囲気は「疑惑解除」であるように見える。しかし、調査委員の間の見解が一致しているわけではない。調査委員の一人は、記者の電話取材に対し、「一教団の指導者が、自分の統一教会前歴を隠した事実は、重大な悔い改めが必要だ」「張在亨牧師の覚書は形式的なきらいがある」と指摘した。

統一教会前歴不正から悔い改めの覚書まで

取材の過程で張在亨牧師に見た姿は、「透明な公開」と言うよりは「隠蔽と言いつ」に近かった。取材が長くなるほど、張在亨牧師の証言に対するバリューは下がって行った。張牧師が設立したという「クリスチアントゥデイ」の記者の態度にも、理解しにくい部分が多かった。法廷への告訴を示唆して、記事化自体を阻もうとする姿は、真実を明らかにするのが使命である新聞記者の本来の姿から、距離があるように見えた。張在亨牧師は単なる一個人ではない。「クリスチアントゥデイ」を設立したし、近年キャンパスで急速に成長している「イエス青年会」「韓国大学福音化宣教会」(CEF)を作って、今日まで大きな影響力を及ぼしている人物だ。音楽宣教会「ジュビリーミッション」や青年文化宣教団「プレスコリア」は、やはり張在亨牧師と深い関係を結んでいる。これらの団体に属する人々は、お互いに密接な関係を結んでいるし、張在亨牧師を深く尊敬もしている。

記者は、このように多様な活動を広げている張在亨牧師を、全面否定しようとする意図があるわけではない。彼が言うように、異端から抜けた人でも、過去を悔い改めて新しく生まれ変わったならば、いくらでもいろいろな事ができる。しかし、彼を取り囲む疑惑は、相変らずのままである。この記事を通じて申し立てた、さまざまな疑惑が明快に解けた時には、張在亨牧師の働きは、もっと広がりを見せることであろう。

—以上引用—

鮮文大学設立30年史（抜粋）

以下は、鮮文大学同窓会のインターネット雑誌に掲載された『鮮文大学設立30年史』の抜粋要約である。

「メソジスト教会系統の学校法人聖化学院は、大学開校のための2年間の設立準備が不足していて、認可を取り消される危機に置かれていたが、鮮文大学設立準備委員会で働いていた張在亨氏の活動で、成和神学校を引き受けるようになった」と記されていることがわかる。

—以下引用—

建学 30年、創立期の歴史を尋ねて 「鮮文大学」に至るまでの過程を探る

設立者（文鮮明師？）の教育機関設立に対する計画は、1970年代初めにビジョン化された。設立者は、「国をいかにするために大学を建てようと思う」と強調。「世界的な大学を作って、一流大学生たちがお互いに編入学するために、群れ集まることができるようにする計画」を明らかにしたこともある。

統一神学校は、受験者186人の中114人が合格。1972年4月3日に京畿道手沢里中央修練所で初入学式を行った。しかし1973年3月16日に修了式を行って以降、統一神学校は約五年間の空白期を過さなければならなかった。

その後、1977年5月に神学科55人を選抜し、現在手沢里にある中央修練所で開校した。難しい中で出発した神学校は、1979年1月に中央修練所から青坡洞本部教会に移転しながら、2月5日に第一回卒業生を排出した。1988年9月、統一神学校は国家から認可された成和神学校に合併されることで、手沢里時代を締め括って、天安に新しい章を開いた。

一方、設立者は1978年、諸民族と世界の英材を排出するために、遠大な目標を立てて、「愛天・愛人・愛国」の精神を建学理念にする総合大学を設立しようとした。1979年2月、大学設立のための具体的な作業のために、「大学設立準備委員会」を発足した。設立準備委員会は、ノーベル賞受賞者 3人のほか、世界の碩学 4人で構成され、委員長には後に総長を引き受けるようになったユンセワン博士が選任された。

1979年3月には、法人創立理事会を開催。以降五年間にわたって350億ウォン以上を投資して、世界的大学を建設することを満場一致で決議した。この資金は、アメリカ国際文化財団及び日本後援会で支援することにした。宗教的理由で、大学設立申請書が提出の度に認可を受けることができない状況のもと、当時の文教部長官（文部大臣）は、全国の無認可神学校を整理することを発表。これに対する代案として、一定基準以上の規模を取り揃えた教団には、正規神学大学を認可することを約束した。

これによって、メソジスト教会系統が推進していた聖化神学校が承認され、これが今日の鮮文大学をあらしめる重要なきっかけとなった。メソジスト教会系統の学校法人聖化学院は、大学開校のための2年間の設立準備が不足していて、認可を取り消される危機に置かれていたが、鮮文大学設立準備委員会で働いていた張在亨氏の活動で、成和神学校を引き受けるようになったのだ。

学校は1986年3月の開校に向けて準備し、成和神学校という名前を公表し、世界的な学者を招待する予定とし、世界の先端を進む教育機関として、外国語教育を強化することを、さまざまな方面に知らせた。これに対して、キリスト教界の言論は、政府が統一教会の学校設立を取り消さなければ、一千万のキリスト者が決起して反対しなければならないと報道したり、その後も各種の声明が発表され、文教部（文部省）と大統領官邸と国会に圧力を行使した。

天安地域のキリスト者の激しい反対を押し切って、成和神学校は 1986年3月3日に、挙国的な入学式を行った。こういうわけで実質的な四年制としての土台を堅固に据えて、今日の鮮文大学に至るまでになったのだ。

『鮮文大学30年史』抜粋要約

—以上引用—

忠南牙山市 湯井面 鮮文大学同窓会

電話(041)530-2951 FAX(041)530-2984

<http://alumni.sunmoon.ac.kr/webzine/2002winter/5.html#3>

ハンビット大学宣教会の異端嫌疑

以下は、『月刊現代宗教』1997年7月8月号に掲載された、「ハンビット大学宣教会」の異端嫌疑の記事の転載である。ハンビット大学宣教会は、2006年9月現在の「韓国異端団体リスト」第127番として登録されている。<http://www.church-heresy.com/html/heresy.htm>

—以下引用—

ハンビット大学宣教会（一名JFC、代表 長寿陣牧師）
1997年

長寿陣とはだれか？ その隠された正体

長氏は、統一教会財団が設立した鮮文大学神学大学で海外宣教学担当教授として在職中であることが確認されたことで、彼が統一教会の核心人物であるという事実を、疑念の余地なく現わした。長氏は、鮮文大学の創立期時代、すなわち、成和神学校が設立された当時の1986年9月から、企画室長学生担当を引き受けて、学校行政の全般的な運営の総責任を負って来たとし、同時に、学生たちに神学科行政学を教える教授職まで兼ねて来た。また彼は、建国大行政学科在学時代に、統一教会の学生層浸透団体である「全国大学生原理研究会」（CARP）の学舎長を歴任したし、偽装キリスト教団体である「国際基督学生連合会」（ICSA）の創設メンバーとして活動した人物で、文鮮明が直接司式する合同結婚式を挙げるなど、統一教会内で中枢的な役目を負って来た、いわば骨髄中の骨髄の信者としての面貌を取り揃えている。

嘘をつく道徳的不感症

長氏は、このような事実を現JFC（Jesus Family Center）の所属会員たちに、徹底的に隠して来た。1994年に宣教会を創立した時期に、相変らず長氏は鮮文大学教授として在職中であつたにもかかわらず、大学生や青年会員たちには、同じ天安に所在した檀国大学行政学科教授であると、嘘をついていた。そして、自分が韓国神学大学院、延世神学大学院出身であるという点を先に立たせて、「改革派の正統神学を学んだ極めて正常な牧師」であるという論理でもって、会員たちを安心させた。また、正統から外れた教理や、非常識的な宣教会の運営に対して、疑わしい視線を送る外部の人たちにも、「進歩的な自由主義神学の一面であるだけだ」と反論しながら、神学的な正当性を主張して来た。しかし、改革派の神学校を出たことは、統一教会の宣教のための一つの偽装戦略であるに過ぎないということが、続く偽りの行為を通じて明らかにされている。

不法で虚偽の牧師按手

長氏が受けたという牧師按手も、実際は不法で虚偽の按手だったことがわかってきている。長氏に按手を与えた教団は、大韓イエス教長老会合同福音総会（チャンソンホ総会長）であり、教団関係者たちが瑞草洞宣教会本部まで直接尋ねて来て、長寿陣氏と一緒に宣教会の学生たちにまで集団按手式を行ったが、この学生たちはみな、一般大学に在学中の者や休学中の者、すなわち、神学大学の入口にさえ立ったことのない平凡な会員たちだった。この日に按手を受けた30人余りは、年齢23才以上。自分たちのグループ内で長寿陣氏が教育する段階別の聖書講義を修了した幹事たちで、事実上、宣教会のリーダー全員だ。それでも彼らは書類上、正規の神学過程を終えたことにされていたが、これは長氏のすぐれた偽装の手腕が生んだ作品だった。すなわち長氏は、教団の按手条件を満たすために、フィリピンのアジア聖書学院（Asia Bible College, ABC、長寿陣氏が設立準備中の神学校）の卒業証書を虚偽で操作して発給した。そして株式会社セヒヤングの支社に違いないと思われる全国四十数か所のセンターを巧みに教会に偽装して、教団に所属させた。この日に按手を受けたという某幹事（25歳、男）は、「牧師按手式が行われるという通知が来たのは、一週間前だった。長牧師は、うちの中に牧師が多けれ

ば多い程よいと、はなはだしくは女性幹事も按手を受けるようにした。そして、その場で牧師、宣教師、伝道師が任命された。率直に言うと、荒唐無稽だった。私たちは、按手式の準備のために、急いで使徒信条を覚えたり、洗礼式の稽古もした。このようにして、幹事たちに必要な名刺を作ったのだ」と言いながら、当時の状況を説明した。

一方、長氏は、牧師按手を受ける前から、こんな便法を動員して来た。長氏は国内では所属教団がなければ異端えせの嫌疑を受けるという点を深く考えて、正体不明の団体というイメージを払拭するために、有名教団の名称を盗用した。長氏は、宣教会の幹事たちに、「外部活動の時に、人々が教団名を聞いてきたら、大韓イエス教長老会合同（または統合）と教団名を言うよう、申し合わせなさい」と直接指導した。こんな非道徳的な行動を、「信仰の知恵と同時に融通性」というふうに合理化して、若い幹事と会員たちに注入したのである。

「長牧師は、これに対する根拠が聖書にあると言った。それは、旧約のアブラハムの話である。アブラハムが、アビレメクに、自分の妻サラを妹だと欺いて、命を救ったことを例に引いて、アブラハムの知恵を私たちも模範としなければならない、というふうに言った」という一女性幹事（23歳）の言葉は、長氏がいかに聖書を自分勝手に解釈しているかを、端的に示している。

新家族共同体 JFC (Jesus Family Center)

それだけではない。この間、長氏は記者とのインタビューでも、偽装する態度をずっと一貫した。長氏は、JFCが「Jesus Family Center」という意味の略語であることを欺いて、「Jesus Fellowship Center」と答えることで、名称を釈然とせず隠そうとしていることを露呈した。長氏が宣教会の会員たちに、親中心の家族概念を破って、キリスト中心の新しい家族共同体の大切さを重視させて来たことから見ても、長氏が名称の意味を虚偽で答えたのは、「Family」に焦点を置く自分の意図を隠すためであることがわかる。実際に長氏は会員たちに、「JFC」という名称を使わないように、と念を押したというのに、「時が来れば、この名前を使うことができる」と言って、代わりに「韓国大学福音化宣教会」（CEF）という名称を使うよう指示した。これに対して会員たちは、「JFC」という名前が外部に知られれば、自分たちの存在が表に出ることになるのを恐れたようだ。その証拠に、「韓国大学福音化宣教会という名前を使うと言いながら、同時に長牧師が代表ではなく、全国各センターをセンター長（幹事）らが直接開拓して責任を負う体制に変えようとしたことに現われている」と長氏は言った。しかし、長寿陣氏が地域センターの会員たちに話して約束したことは、全然守られていなくて、事実上現在の運営状態は、名前が変わっただけで以前と少しも変わることがなく、ただ危機を免るための臨機応変の措置だったことを立証している。

また、長氏の「新家族」という概念は、キリスト中心の家族共同体として効果的な宣教活動を行う、という宗教的意味よりは、株式会社セヒヤングの成功的な経済活動の方便として利用されていて、学生たちの家出事例の原因を作っているだけだ。長氏は普段、会員たちにこのような共同体の意識を鼓舞して、「もっと大きい家族を作ろうとすれば、小さな家族を敢然と諦めるべきである。アブラハムが父祖の家を離れたように、私たちも血縁に関わるすべてを切らなければならない」と説き、会員たちの家出事例の原因を間接的に作ってきた。このような一連の行動は、長氏が十何年も統一教会に携わった実績があるという点を考慮するなら、このごろになって「家庭連合」を主張している統一教会から発想を受け継いだのではないかと言う疑惑を催さざるを得ない。

企業を背負って宗教勢力を拡張

一部大学ではキリスト教サークルとして正式登録までされている「ハンビット大学宣教会」（一名JFC、代表 長寿陣牧師）が、その不明である正体のゆえに、疑問を抱かれている。いわゆる大学宣教会を標榜しているこの団体は、所属会員を企業に引き入れるとか、統一教会やJMS（摂理）の教理と類似の内容が聖書講義の一部で発見されたりするなど、新しい問題を浮上させている。それだけでなく、この団体の代表である長寿陣牧師は、宣教会が設立される直前まで、

統一教会財団が設立した鮮文大学で宣教学教授に在職していたし、1980年後半には、同校で教務課長を歴任するなど、統一教会内部と深く関係を結んで来た前歴が明かされて、この団体が統一教会と関連があるのではないかとする疑惑を増幅させている。長氏は特に、宣教会運営において、自分が代表を務める(株)セヒャング・シルアップ(チョコレート自動販売機販売業)、J&J(消臭芳香剤販売業)、SESI(留学斡旋業)(電子会社)などの企業を緊密に連結させ、その過程を通じて、企業を背負った宗教勢力を拡張するという、統一教会の布教方式と一部類似した面を見せている。

会員の中で、幹事たちのかかなりの数は、統一教会とJMS(摂理)に携わった経験を持っているし、会員を管理して教育する聖書講義の一部で、正統教理から逸脱したこれらの団体の教理を、会員たちへの信仰指導に適用する事例もあって、問題視されている。こんなことで、まだ主体的な思考が確立されない高校生と、単純な信仰観を持った大学生たちを、精神的に混乱させ、度が過ぎた盲信に誘導するなど、副作用を生んでいる状態だ。約2年前から本紙に倦まず弛まず送られて来る情報提供及び被害事例の中には、学生たちに対するはなはだしい無賃金労働、搾取、学業の中断、常習的な嘘、家出事例など、逸脱的で反社会的な現象が露呈していて、深刻さを加えている。

先にこの団体は宗教活動と経済活動が厳格に分離しない曖昧な運営を去年末まで続けて来た。そして、宣教会本来の目的よりは、長牧師の個人企業である(株)セヒャング・シルアップの事業拡張に力を注いで来たことが知られる。長寿陣氏が去る1994年に設立したこの宣教会は、現在80から100人ほどの会員を確保しているが、その大多数は、長牧師が去る1992年に創業した(株)セヒャング・シルアップの正社員やパートタイマーとして働いて来たのだ。るうちに、これは宗教をかこつけた事業行為ではないかという一部の批判を払拭するために、今年に入って宣教会の組織を経済チームと伝道チームに分離させて、表面上は宗教部門と事業部門が独立して存在するように見せることで、批判者の口を封じる方便を用意した。長牧師は記者との面談で、この問題に対して、宣教会の会員たちのセヒャング・シルアップでの勤務は、志願者を会社が選抜して雇用するという、正常な会社規則に根拠したものと言い、宣教会の会員が同時にセヒャング・シルアップの社員である割合は、全体人員の50%を超えないことを明らかにした。しかしその後確認されたところによれば、現在伝道部門に属している幹事と会員たちは、非公式に(株)セヒャング・シルアップでの経済活動に参加していた。

現在、慶北市センターで要職を引き受けているAさん(22歳)のノートには、自ら伝道チーム幹事と言いながらも、実際は自動販売機事業拡張のために、相変らず責任の役目を引き受けている事実が記録されていて、こうした事実を立証している。(株)セヒャングの月次目標額を具体的に書いた内容と、目標達成を促して決意した幹事たちの会議記録が明らかに記されるなど、宗教活動と経済活動は無関係だとする主張が事実と反している証拠が、露呈したのだ。

この宣教会の経済活動組織は、代表である長牧師の下に、幹事たちで構成された管理者、そして、幹事たちの指示を受ける教会員の宣教会組織を、そのまま企業に適用している。幹事たちは、セヒャングに社員として属している場合が大部分で、教会員たちは幹事らの下でパートタイマーとして、長牧師から下達される指示事項を幹事たちから伝達されて動く。

彼らは、全国各地のビリヤード場やレストハウスなどを事業舞台として、チョコレートの自動販売機を設置し、商品を提供して集金する役目を引き受けている。労働時間は一日平均10時間以上で、平日には放課後から、休日には普通午後1時から夜の12時を過ぎて夜明けまで働く場合が大半だと言う。ところが、過重な労働とは違い、彼らは今までに労働に対する対価として一銭の月給も受けたことがないことが、わかってきている。

現在も集金業務で働いているAさん(19歳、休学中)は「はじめは一時間あたり2,500ウォンもらうことになっていたが、この一年、月給という名義のお金はもらったことがない」と明かした。Aさんは、牧師様(この団体では長牧師という呼称の代わりに、牧師様という言葉を使う)が、「もうちょっと堪えれば、事業がうまく行って、滞った月給も受けることができるし、外国に留学にも送って、勉強させてあげる」と約束した。その時が来るまで、長牧師様の言葉を信じてずっと仕事をするつもりだった。B君の親も、息子がこれまで一度も自分がした仕事の

対価を受けたことがなかったと、同じように述べた。お母さんのCさん（50歳）は、「大学に入学してからすぐに、息子がバイトをして小遣いを儲けるというので、殊勝だなと思って見守っていたが、働くと、夜明けに帰宅するとか、外泊するが多かった。毎月給料もらったことを確認しようと思ったけれども、言えば、もじもじして、月給を受けなかったという話ばかり言った」と付け加えた。これに対して、長寿陣牧師は、このような主張の大部分は、組織と幹事たちに不満を持つ会員たちから出たことだと言い、無賃金労働の事実を否認している。しかし問題は、上記の二人がまだ宣教会の活動に積極的に打ち込んでいる熱心な会員たちだという事実だ。

Aさんは現在、この宣教会の仕事のために、家を離れて、教会内で他の学生たちと共同生活しながらセンターを開拓する核心的なメンバーで、B君も集金業務に没頭するために、常習的に家を離れ、学業を中断してしまって、宣教会の活動を絶対視しており、親の心配を買いながらも、どこまでも宣教会の活動に固執している最中だ。特に Aさんの場合、セヒャング・シルアップに反対する親を説得させる過程で、「月給は受けないが、お金が必要な度にもらって使っている」と言って、無賃金労働の事実を一部自認したりした。

彼らは、チーム長である幹事を中心に、2人から4人が一組になって働いている。ソウル本社の場合、良才洞陽文教会の近くに宿泊所を置いて一緒に寝起きし、集金活動をする人々は、機動力のためにワゴン車を利用し、浦項で納品を要請すれば、大田センターに出動して調達して来たとする。一日の平均集金額は40から50万ウォンぐらいで、集金すると直ちにソウル良才洞本社に振り込むのが規定であるという。各チームは集金実績が高ければ高いほど、各自の点数も上がって、宣教会の要職を引き受けるようになるとか、海外留学など各種機会に優先的に選ばれる特典を享受することができるという。そのためか、会ってみた会員たちは、すぐに月給を受けることができないことに、深刻な問題意識を感じない様子だった。とにかく（株）セヒャングは、長牧師の言葉のように、創立5周年で驚くべき成長を記録している最中だ。このごろの不景気にもかかわらず、この企業が規模をずっと増やすことができたのは、まさに会員たちの無条件の献身が可能としていると見るのは、的外れの推測ではない。

全国を歩き回らなければならない活動の特性のため、集金業務のチームの活動は、他のアルバイトとは違い、会員たちの個人生活がほとんど不可能だと言う。その結果、現在ソウルを含めた各地域センターでは、幹事を含めた会員たちが共同生活をしている。わずかこの間までにしても、ソウル陽文教会には家を出た会員たちが、教会の中に男女老少を区分する仕切りだけ立てておいて、一緒に寝起きしていた。現在は、近隣に宿泊所を別に用意して、教会とは分離したが、まだ全国地域センターと教会を兼ねて不安定な生活をしているところもあり、親たちから怒りの声が出ている。

ここで生活する学生たちは、親に本当のことを言わないとか、一人暮らしをすると嘘を言って独立した人々が多いことが知られている。ソウルで共同生活をした経験があるという一会員は、学生たちの中で、親の正式な許しを得て家を出た割合はどれぐらいなのかという質問に、「ほとんどない」と答えた。彼は「多分、親たちが許してくれたという場合は、会員が嘘をついたからでしょう」と率直に言った。これに付け加えて、父兄 Dさん（45 歳）は、子の無断家出によってソウル良才洞陽文教会を訪問したことがあるといい、その所で生活する子どもたちの姿は、一様にやつれて青白く、まともに食べることもできなかったように弱っていて、あちこちに無秩序に寝転んでいたり、子どもたちが着ているむさくしい服を見て、これは正常な所ではないと思った、と当時の心情を打ち明けた。

これ以外にも、親たちは急に変わった子どもたちの態度に対して、この団体に責任があると抗議する声を高めている。子どもたちが専ら親に常習的に嘘をやたらについているし、自分たちの宗教活動の内容をはっきり言わないなど、不健全な宗教団体に見られる特性を揃えているというのだ。高校生の子どもがしばらくこの団体に通ったことがあって、ひとしきり騒動を経験した事があるというEさんは、そんなに善良だった子どもが、ここに通った後から嘘をしょっちゅうつくようになったので、驚いて調べたら、その所の教会の女幹事から指示を受けて取っている行動だったということがわかった。問題の女幹事は、家に電話する度に身分を明らかにしないことは勿論で、「友だち」だと嘘を言うのが頻繁だったし、この団体と関係を結んだ娘も、

学校の寮生活に不真面目になって、学業よりも教会活動や聖書講義に重点を置くようになり、このために親と友だちに嘘を言うなど、前例のない行動を見せたと言う。Eさんはこれを怪しく思って、大田某地域にある問題の教会を尋ねたことがあり、建物の外壁に看板もなく、牧師もなしに、子どもたち同志が集まって、問題の幹事から聖書講義を受けて、日曜の礼拝まで幹事の指導の下で行われていることを見て、これは正常な教会ではないと判断できたと言う。Eさんは、まだ成長期にある学生たちに嘘を教えるこの団体の意図を、到底理解することができないと言い、異端の団体であるのは間違いないと、躊躇することなく述べた。

しかし、これらの反社会的な行動は、これでも終わらず、親の許諾なしに無断で家出するとか、学業に無関心になって、ひたすら宣教会活動に没頭する姿としても現われる。息子が二学期の登録料180余万ウォンを持って、頻繁に家出し、学業も中断したまま消息が途絶えたと訴えて来た父兄 Dさん（50歳）は、宣教会のソウル本部まで尋ねて行って、長牧師に息子の居場所を教えてくださいと言ったが、「私たちにはわかりません。多分、異端の宗教にはまったのではありませんか」と責任を否認したと言う。そのとき、息子P君の行方がわからなくなってまだ10日位しか立っていなかったから、その短い時間にどうやってほかの宗教にはまって家出するまでになるのかと、反発している。「すぐ直前まで、この宣教会が海外留学に送ってくれるからと、親の許諾を要求した息子だ。家出の原因にこの宣教会が関与していることは間違いない。責任を回避し続ける場合は、公権力の力を借りる」とDさんは強い意志を見せた。

一方、企業による問題の外に、宗教活動と教育内容にも、一つ二つ不審な部分が見える。正統教会が異端として断定しているJMS（摂理）と統一教会がよく使う用語が登場するとか、会員たちの聖書理解と信仰観が、既成教会と一部食い違う面があるということだ。一会員が聖書講義を受けて書いた、少ないように見えるノートには、「摂理」「家族」などの用語が頻繁に使われているし、各地域センターでは、正式な神学教育を受けていない幹事たちが、直接礼拝を導いて、説教まで引き受けていて、問題の原因を作っている。会員の中には、教会で日曜の礼拝を守る場合は珍しくて、ほとんどがセンター内の教会に出席しており、地域教会との葛藤も一部で見えている状態だ。その中のある学生は、ここで学んだ内容を人々に言えば、異端と言われてしまうから、絶対に外部では秘密にしていると言い、長寿陣牧師だけが真の牧師で、残りの既成教会の牧師たちは偽りの牧師だという極端な意見を述べた。彼と交わした一問一答を取りまとめて見る。

(1) どうして他の人に、宣教会で学んだ内容を言うことをはばかるのか？

まだ時期が早いからだ。すなわち、神様の摂理が完成されて、私たちが世の中に晴れて宣布できる時が来る。それ以前には、人々に知らせてはいけない。聖書にも、真珠を犬に投げるな、とされている。

(2) その時期というのが、いつを意味するか、具体的に決まっているのか？

そうだ。その時は2000年だ。ヤゴブがラバンの家で7年間の使役を完成したように、私たちも宣教会が始まった1994年から計算して7年目になる2000年までの間に、摂理の道を歩くために、当然の苦難の償いを受けることになる。その時になれば、すべての人々が私たちに沿うようになるはずで、私たちがいただいた本当の真理を、世の人たちに晴れて宣布することができるようになる。

(3) 摂理を完成するということは、成功的な経済活動を意味するのか？

そうだ。自動販売機の事業をすること自体が、神様の摂理を完成する重要な過程だ。牧師様（長寿陣牧師を指す）も、摂理の道を歩くために、初めは私たちのようにこんな苦難を経験した。私たちは、真の牧師である牧師様にそのままついて行かなければならない。牧師様は2000年まで7年間の苦勞をすることで、キリストが初臨で失敗して積もった神様の恨みを晴らして上げて、私たちも、その間の苦勞の償いを受ける時が終わるまで、我慢して耐えなければならない、と言った。

会員たちの無賃金労働による企業拡張

長氏の主張したところとは違い（株）セヒヤングは、JFC宣教会と同一団体だった。長氏の聖書講義の内容を代わりに講義して伝道を担当する幹事 5人を除いて、残り90人の会員たちは、残らずみんなチョコレート自動販売機の販売事業に配属されている状態である。長氏が教会であると紹介した全国各センターは、事実上（株）セヒヤングの支社に違いない。長氏は企業を創立して以降、20代の年若い青年たちの宣教を支援するという名目の下に、朝7時から夜12時まで労働をさせて、自分の事業拡張の道具として利用して来た。これらの事業規模は、年間売上高が10億ウォンを超えていて、中小企業の水準に追いついている状態だ。長氏は（株）ヘテ製菓で製造するチョコレートと専用自動販売機を、全国のゲームセンターとビリヤード場などの遊技場に設置し供給する（株）セヒヤングの経済活動に、会員たちの献身を強要していて、一日500万ウォンから1,000万ウォンの収入をあげている。現在設置されている自動販売機は、全国で1万3千700台に達し、これらは一箱当たりの原価が1,800ウォンに過ぎないチョコレートを、全国のゲームセンターやビリヤード場などの遊技場に3,000ウォンで販売して、大きな利益を得ていることがわかっている。

これ以外にも会員たちは、毎日都心の電車駅を中心に、市内の繁華街を通り過ぎる市民たちに、このチョコレートを 2,000ウォンから3,000ウォンの分量で包装して直接販売する特別販売活動までして、割り当てられた目標額を満たすために頑張っている。特別販売品目はチョコレートのみならず、水晶米、オーディオ、アクセサリ、ごま、油などであり、甚だしくは、日本や中国などから密輸をして来て、国内で露店や屋台をするなど、不法行為まで厭わず行っている。そして、1994年から1995年頃、チョコレート事業を始める直前には、カフェの路頭などで、定価200ウォンのチョコレートを1000ウォンで売りながら、夜学生や恵まれない隣人を助けるための募金活動であるとして、市民を欺いたりした。主にビリヤードとゲームセンターの主人たちは、「収益金を不遇な隣人への助け合いに使う」という言葉にだまされて、自動販売機の設置を承諾した場合が多くある。このようにして、（株）セヒヤングの経済活動は、今年100億ウォンの目標を立てるまでになった。

一方、会員たちは、宣教を支援するという名目の下に、甚だしくは日曜日の深夜まで普段と違ういつらい労働を続けて来ている。主にワゴン車に乗って全国を巡回しながら集金活動をして来た会員たちは、過労によって寝不足現象に苦しんでいて、このことが健康を壊すのはもちろん、居眠り運転の原因になって、生命が脅かされた状態で走り続けている。実際に居眠り運転によって重軽傷を負った場合が20余件に達するが、手足に骨折を負う例などは日常茶飯事で、甚だしくは女子学生たちまで頭が割れて九死に一生を得て蘇生した例もあると言う。割り当てられた目標額を満たすことができなければ、個人の金を都合つけて埋め合わせなければならないため、銀行の貸し出しを受けて、親を欺いて、預金の全額を集金に充当する会員たちも多数いることがわかっている。

しかし、これらの献身的な努力と奉仕に対する対価は、全然ない。長氏は、事業設立以来、正社員やパートタイマーに対して、法律で規定された賃金を正常に支給したことは、ただの一度もなかった。会員たちが長氏からお金をもらった場合は、集金や伝道の実績が良い時に、個人的に支給される 10万ウォンから50万ウォン内外の褒賞金が、一二回ぐらいだった。もちろん、個人の小遣いが必要な時は、いつでも多少は使えるという原則があることはあったが、朝早く出かけて夜おそくまで働くという、私生活が絶対に不可能な構造の中では、個人の小遣いが必要になるわけがなく、事実上は形式に過ぎなかったという。

正社員がこんな状況の中で、アルバイト学生たちが賃金を受け取れるはずがない。主に学校の休み期間などを利用して集金活動をするアルバイト学生たちは、一時間当たり2,500ウォンもらう規定になっていたが、実際は一銭も受けることができない場合が日常茶飯事だったという。

「地域センター長たちは、随時に他の地域への転任令を受けた。ひとつの地域に腰を据えるようになると、全くの未開拓の場所に異動になって、別の地域を耕すよう指示された。そうであると、アルバイト学生たちは、お金を受け取る道があいまいにされてしまう。働いた地域には、

もう他の幹事が来ているから、事情を話しても、前の幹事の責任だとして回避され、やっと前の幹事が転任した先のセンターを尋ねても、大部分が外部活動をしているのだから、幹事に会うことができないのみならず、初めからそんな人などいないと、白を切られることもある。」

これに加えて、長氏は、会員たちの中に、以前に他の宗教を信じるとかキリスト教を信じた経験がない人々を、「異邦人」と呼んで、「経済活動の肥やしとなって、忠誠を尽くさなければならない」という規定を作っておいて、宣教部やその他の業務には全然参加することができないようにして、ひたすら経済活動だけに忠誠を尽くすことを指示し、他の会員より何倍もつらい労働に苦しむようにしている。

現在、これらの企業活動は、国内のみならず海外まで舞台にしている。「世界を見る」という意味の SESI という単語を、各企業の名称の前に付けて呼ぶようにした長氏は、初めには（株）セヒャング（世の中の香りという意味）を設立して、自動販売機の販売を主力事業として育てた。次に、J&J（JOY & JOY、JESUS & JESUS、喜び二倍、キリスト二倍という意味）で消臭芳香剤の販売業を引き継ぎ、SESI 留学センター及び SESI NET という通信会社まで従えている状態だ。このうち、海外の企業の（株）セヒャングと SESI NET は、フィリピン大学に支社を設置して、インターネットのプロバイダーを運営し、使用料を取って収益をあげている。

このような事業方式は、過去に統一教会が信徒たちに、空気銃の外販をさせて、タコ足式で企業を拡張した方式と非常に似ている。JFC 会員たちも同じく宣教を目的として、直接に自動販売機を販売し、集金活動をしながらか、長氏の事業を繁栄させることに力を注いでいるのだ。普段、幹事以上の会員たちは、長氏に毎日、集金現況とセンター運営全般を一つ一つ報告しているし、特にファックスを通じて信仰生活（QT）と報告書をあげて、個人的な心理状態、身近な私生活まで隠さずに長氏に知らせることを、非常に重要に思っている。

自称メシア

統一教会の文鮮明教主は、韓国内だけでも約 300 か所余り、外国に 120 か所余りの聖地（1994 年現在）を策定していることが知られている。文鮮明氏が聖塩を振り撒いて祈った場所は、表示を立てておいてから、後で必ず買入れるために、主に山地の良い場所を選択するのが原則だ。その場所は、神様の地であり、祈る場所であって、必ず買入れなければならないという不文律があるからだ。長寿陣氏の場合も同じだ。長氏は、国内大学に学生たちがたくさん集まる場所や、風水地理的に見て美しい場所を尋ねて、自分が祈った場所だと言って、「聖地」に指定している。会員たちと巡回して場所を探すのは、長氏が自分の祈った場所（聖地）に、将来宣教会の事務室が入居すると予言して、特に該当する学校に通う学生たちには、一日に一度ずつその場所に必ず立ち寄って、真心を込めて祈りを積み重ねることを指示した。現在、啓明大学と大邱大学を含めて、全羅慶北慶南など隣近大学に、これらの聖地があると言う。

JFC と統一教会と JMS（摂理）との関係

JFC 宣教会で一番目立つことは、摂理・家族・棒引きなど、いわゆる統一教会用語である。偶然にコンピューター・ネットワークに上がっていた統一教会の資料を見て、自分の団体とあまりにも似ていることに驚いたという一部会員たちは、「統一教会の信徒同士が使う言葉、文鮮明の教えの内容、行政組織まで、まったく同じだった」と、衝撃を隠すことができなかった。そして、統一教会から分派して出た JMS とは、甚だしくは教理中の引用聖書箇所まで一致していることを見つけてからは、驚きを禁じえなかった。こんな理由で、最近の会員たちが宣教会を脱退する例が続出しているし、深刻な精神的混乱を起こしてショック状態に陥っている場合もある。

長寿陣氏はその間、既存教会と JMS に対しては、辛辣に批判して来たが、統一教会に対しては、どんな反応も見せなかったという。文鮮明は異端だという言葉どころか、統一教会という言葉自体、口から出したことがないというのだ。長氏のこのような態度が意味するところは、無関

心でなければ、愛情であろう、と外から見なされることになるのだが、長氏が統一教会の骨髄中の骨髄の信者であるという点や、その事業の運営の仕方と教理体系には、統一教会色が色濃く現われているという点を考えると、それが無関心の表れだと見ることはむずかしい、という分析が可能になる。

特に、長氏とJMSは、お互いを天敵と思うほどに反感が強い関係だ。その理由は、長寿陣氏が1980年代後半にJMSの会員たちを多数離脱させた事があるからだ。長氏は引き続き、ホサナ宣教会を組織して、離脱会員たちを自分の会員に引き入れて宣教会を運営して来たのだが、普段から会員たちに、自分がJMSとの教理論争で堂々と勝利したという武勇談を語りつつ、JMSを明白な異端として強く批判して来たというのだ。

しかし、長氏の教理は、JMSの教理を模倣したような印象がありありと見える。JFCの14段階の教理は、JMSの『30講論』に多くの部分が一致しているし、甚だしくは、例話までも一致するほどにそっくりな点が多い。それでも長寿陣氏は会員たちに、俗離山に通って神から直接啓示を受けた教えだと言いながら、教理の絶対性を強調して来たとし、JMSの教理に似ている理由は、JMSの会員が自分たちの団体の聖書講義ノートを盗んで、そのまま教理を適用させたからだと話して来た。しかし、JMSの教理を直接確認して来た会員たちは、「まるで一教派が少しずつ先に進んでいるような印象が漂っている。統一教会の教理を基本原則に敷いて、その次にJMSの鄭明析氏がそれなりに発展させ、その上で長寿陣氏が服を着せ発展させている、という感じがする」と分析している。

それに、長寿陣氏は、自らを過度にほめそやす点についても、鄭明析氏の手法をそのまま借りている。鄭明析氏は自分を「一千の霊の守護を受けている特別な存在だ」と言って来たが、長寿陣氏も自分が聖書講義をすれば、若者たちが何千人も群がって来るほどの実力者だという事実を誇るというのだ。長氏は、若者たちに自由自在に出入りするだけでなく、神から直接啓示を受けて、特別な悟りを伝えることができると言って、会員たちを感懐して来た。また、既存教会で教える神の教えはすべて偽物で、自分だけが本当の神の教えを受けた、完全な使命を保持する真の牧師だと言いながら、会員たちに教えて来た。

長氏の教理は、アダムとエバが蛇の誘惑で性関係を結んで墮落し、天国の完成に失敗した、という主張で始まる。第二のアダムであるキリストが、未完成の天国を完成するために世の中へ来たが、洗礼者ヨハネがイエスを嫉んで、メシアであるキリストを伝える使命を果たすことができなかったために、キリストが自らメシアと主張しなければならなくなり、その途中でユダヤ人に捕らえられて、悲惨な目に遭ったというのである（その過程で、キリストが人類の罪を贖うために来た救世主であるという事実を否認する）。だから、第三のアダムである再臨のキリストが、未完成の天国をこの地上に完成するために、初めて出現するというのだ。しかし、再臨主は、雲に乗って来るのではないと言う。雲は実物ではなく、「雲のようなあまたの証人」に対する暗示的な表現であって、再臨主は人の息子として生まれる、という主張を展開する。すなわち再臨主は、もうこの世の中に来ているし、特別な聖書講義と摂理(仕事、使役)によって、この地上に天国を建設している人々の中にいる、と言うことによって、その再臨主がすなわち自分であることを、間接的に暗示している。長氏はこの部分で、宣教会の会員たちにはメシアを証しする使命があり、自分には天国を完成する使命がある、と教えて来た。その結果、実際に会員たちの大多数が、長寿陣氏をメシアと信じている。一部の幹事たちの間ではもう、「牧師様がメシア」という事実が通用しているし、会員たちに秘密に教育させている。彼らは、長寿陣氏がメシアであるという事実をすぐ理解した会員たちには、「霊的な感覚が優れている」と言って、ほめ言葉を惜しまない。しかし、いまだに長寿陣氏は、自分がメシアだという事実が、全体の雰囲気の中で公式に認められることには、はばかっている様子だ。核心的な幹事たちには、「誰にも話してはいけない。耳ある者たちは聞きなさい」と言いながら、厳しい取り締まりをしているが、しかし、自分がメシアだという基本的な立場には変わりが無い。

「長牧師は、本当のキリストは自分の口で直接メシアだとは言わない、と言った。そして、キリストが死んだ理由は、弟子たちがキリストをメシアとして伝えなかったから、キリストが自分で直接メシアであることを知らせなければならなくなり、その途中で、使命を終えることができないまま死んでしまった、と言った。私たちの方を見て、だから、メシアを証ししなけれ

ばならない、と言った。この言葉は、一部の幹事たちの間では、『牧師様を証ししなさい』という言葉によって、直接表現されている」

一会員の証言は、特に事業拡張に熱をあげる長寿陣氏が窮極的に狙うものが何であるかに、見当をつけさせるものである。それは、JMSの鄭明析を引き継ぎ、もうひとりの「文鮮明」を夢見ているのであろうと思われる、というのだ。しかし、惜しくも、長氏の霊的な父に違いない文鮮明は、このような長寿陣氏にそっぽを向いている。ドンキホーテと変わらない突発的な行動で頭を腐らせて来たという長氏が、もし文鮮明の名前を売るとか、名誉に損傷を加えるような所業をする場合には、文鮮明師はじっとしていないだろう、というのが、統一教会側の公式な立場である。したがって、長氏が今後も継続的に統一教会との関係を結ぶかどうかは未知数だ。しかし、統一教会の教理と行動に水をあけても、長氏が巨大な宗教企業を成そうと目指している働きには、文鮮明とその弟子である鄭明析氏から学んだノウハウが全て発揮されていることは、間違いない事実だ。

—以上引用—

『月刊現代宗教』1997年7月8月号

イエス青年会異端嫌疑（房角石日記）

以下は、中華人民共和国のキリスト者による、「イエス青年会」の異端嫌疑を訴えるブログの転載である。

—以下引用—

「イエス青年会」という新しい異端に警戒せよ

2006年5月30日

作者 私的立場

そのとき、「見よ、ここにメシアがいる」「いや、ここだ」と言う者がいても、信じてはならない。偽メシアや偽預言者が現われて、大きなしるしや不思議な業を行い、できれば、選ばれた人たちをも惑わそうとするからである。あなたがたには前もって言うておく。だから、人が「見よ、メシアが荒れ野にいる」と言っても、行ってはならない。また、「見よ、奥の部屋にいる」と言っても、信じてはならない。（マタイ24:23-26）

愛する者たち、どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうかを確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです。（ヨハネー4:1）

おそらく2001年頃より中国全土の多くの大学に、一つの異端の組織が現れた。外部に対しては秘密主義で、組織の名称に言及することは少なく、あるいは個々に一般的な名前を付けており、よく「改革長老主義」の教会に属するなどと言ったりする。最初わたしたちは、これらの組織の相互のつながりを見ていなかった。しかしその後、少しずつ、これらの組織のつながりが極めて密接であることを発見し、全国に分布する多くの大学に教会や学生会を作っているが、実は単独の組織であって、その内部で呼ぶところの「イエス青年会」(Young Disciples of Jesus)であることが判明した。イエス青年会の主要な働きは、キャンパスの大学生に対する伝道であり、その発展は非常に迅速で、2001年頃から五年以内に、中国全土に分布する大学に広がった。その上、東南アジア、オセアニア、北米、南米、ヨーロッパ諸国にまで広がっている。

その具体的な発展の状況は、イエス青年会の各国語のウェブサイトで見ることができる（www.ydjesus.org）。イエス青年会の組織がとても整っていて、規模が大きいこと。また、普通のキリスト教会と同じように「愛」を強調することから、一般の人は惑わされてしまい、普通の人にはこの組織の問題を見つけるのは難しい。多くの地方で、この組織は「正統的キリスト教」の働きとされていて、はなはだしきに至っては、いくつかのキリスト教団体のウェブサイトにも、イエス青年会へのリンクが貼ってあって、多くの人は依然としてこの組織の惑わしに陥り、自分で気付いて抜け出すことは難しい。

わたしたちは、主の弟子の道を行く者の責任を果たすべく、全力を尽くして論争を行い、この組織の異端の本質を暴き出そうとするものである。この論文は、イエス青年会の「起源と発展の歴史」「組織の構造と内実」「使役の状況」「教義の問題」という四つの方面から迫って、イエス青年会を簡単に紹介し、かつ、本性を露わにする。しかし現在この論争に臨むにあたって、イエス青年会がその内部の者に嘘をつくことを奨励しているため、わたしたちがこの組織と接触する場合には、いつでも双方の間に一致しない回答を発見する。この組織は、「良い土」（この組織が教えるどんな言葉や計画でも聞き入れてしまうような、少しの疑念すら持たない人）だけに「真理」を蒔き、わたしたちのような「悪い土」に対しては、「真理」を隠すので、実際にはもっと情報が多いであろうこの組織の内情を知ることが、難しい。しかし、この組織から離脱した会員や関係者から収拾した多くの資料と、わたしたち自身が入手した資料との間で比較研究を行うことができる。わたしたちは、できるだけ客観性の維持に努めるが、しかし、いくつかについては、推論に基づいて導き出された結論もある。この組織について情報をお持ちの方々には、ぜひわたしたちに連絡して頂ければと願う。

起源と発展の歴史

イエス青年会のウェブサイト上の記述によって、イエス青年会の最初の起源は1996年にさかのぼることができる。香港イエス青年会のサイト (hk.ydjesus.org) 上では、次のように紹介されている：

簡単な紹介

「イエス青年会は、全世界を福音化するために使役する、キリスト教青年の大学宣教と教育の団体です。最初中国の信者たちが創設して始まり、責任を持つようになりました。基礎を、神の言葉、イエス・キリストの福音、使徒の伝統の上に置き、宣教と教育の団体を作り上げます。

イエス青年会の最初の宣教と教育は、韓国アンテオケ教会から源を発しました。1996年7月4日、二人の宣教師が中国の上海で福音を伝え始め、ほどなく復旦大学と上海の青年を中心に、聖書講義の集いを設立しました。2000年9月18日に、北京に宣教師を派遣して、北京大学を中心に聖書講義を行う学生会を作り上げました。2001年4月22日、中国の復旦大学の青年たちは、手を携えて外に飛び出し、中国を偉大な福音の国家とするため、また、福音を世界にあまねく伝える理想を望み見て、イエス青年会として第一歩を踏み出しました。その年の10月に、中国の北京でイエス青年会の創立礼拝を行って、イエス青年会は正式に発足しました。イエス青年会を通して、神は中国に扉を開き、偉大な福音の使役をなさるでしょう。

わたしたちは、福音主義を唱道し、伝道を第一に掲げ、キリストのからだの結合を明らかに教え、また、キリスト教文化をはっきりと復興させます。中国大陸の各地から青年たちが集まり、宣教と教育のために、大学内に聖書講義の集まりを作り上げ、学んでいます。さらに、次々と海外を開拓して、米国、韓国、日本、香港、タイ、モンゴル、インド、シンガポール、オーストラリア、カナダ、ポルトガル、カザフスタンなどに支部を作り上げ、絶えず神の天幕を拡大しています。同時に、フランス、マレーシア、スイス、イギリスなどにも宣教師を派遣しました。これまでに、すでに数百名の宣教師を派遣していて、世界各地で宣教と教育の国際的な大学宣教が進められています。」

上記は実は、この組織が過去のバージョンを書き直したものであって、2005年上半期の香港イエス青年会のウェブサイトには、以下のように紹介されていた。

「イエス青年会の最初の宣教と教育は、大韓イエス教長老会合同福音総会アンテオケ教会のダビデ牧師による『山上の垂訓』『使徒言行録』『ローマ書』『コリント書』などの聖書講義に起源を持ちます。」

わたしたちは、ネット上でこの情報を検索して見つけたのだが、他のキリスト教団体の掲示板でイエス青年会について議論した時、あるクリスチャンがイエス青年会のサイトからコピー＆ペーストして、上記の情報を貼り付けた。それを見ると、問題点が見出されたわけだが、後からイエス青年会のサイトを見ると、新しいバージョンで修正が行われていたというわけである。

前のバージョンの中で、2つの問題点がある。ひとつは「大韓イエス教長老会合同福音総会アンテオケ教会」である。わたしたちはネットで検索したが、この教会のことを調べることはできなかった。韓国のクリスチャンにも何人か聞いてみたのだが、彼らもわからなかった。しかし、韓国の一つの異端の団体を発見した。興味深いことに、名称がとても似ているのである。それは「大韓イエス教長老会伝道総会」と称していて、2002年に中国の湖南で相当の影響力を持っていた。この二つの教団の間にどんな関係があるのかは、まだわかっていない。

もう1つの問題は、この組織の創立者（あるいは影響者）である「張ダビデ」である。この組織の最高指導者は「張文竜」（別名パウロと言う韓国人で、再臨のキリストを自称している。後で教義の問題のところで具体的に検討する）と呼ばれていることがわかっている。わたしたちは、この「張ダビデ」が「張文竜」ではないかと疑っている。

わたしたちは、比較的長い間イエス青年会に在籍し、その後退会した一人の会員から、この組織の発展の状況を知ることができた。聞くところによると、この「張文竜」は、元はある大学の教授であって、数十年の聖書講義によって、イエス青年会の前身である団体を創設した（この組織の主張によれば、中国の大学生たちが創設したことになるが、実態に迫る話によれば、「張文竜」が育成した20人が、宣教師として派遣されたものの、信者はすべて消えてしまった。それからすぐ張は隠遁して、十年後に再び活動を開始し、それから今日まで発展して、世界各地に広がっている）。つまり、1996年頃に張が何人かの宣教師を中国に派遣したというのである。最初は東北地方で、それから北京に移動したという。しかし、聞くところによると、東北と北京での使役は上手く行かず、そのためさらに上海に移動して、主に復旦大学で使役したという。2001年は、イエス青年会の発展の歴史の中で重要な一年であって、この組織の一つに突然、いわゆる「大リバイバル」が起り、集まる人、献身する人が急激に増えて、多くの使役と時間が生み出されて、「イエス青年会」として正式に発足したという。その後数年、わたしたちは、この組織が中国全土の多くの大学の中に出現していることを発見し、同じく香港と米国にもこの組織の活動があることを知った。イエス青年会のウェブサイトに記載されている通りである。

この組織のウェブサイトに記載されている、中国人の信者が創設して指導しているというのは、事実ではなく、完全に韓国人によって支配されていて、聞くところによると、この組織の資源はすべて韓国から来ており、また、韓国語で激しい祈りをささげ、さらに、定期的にインターネット上で会議を行い、ネットを通じて、各大学の使役に対して遠隔操作が行われているという。

組織の構造と内実

組織と機構の面から見ると、イエス青年会の最大の特色は、制度が整った単独の団体だということである。この組織は、韓国の統一教会に似ていて、わたしたちも最初は、統一教会ではないかと思った。しかし、この組織は統一教会教主の文鮮明を軽蔑しているので、もしかしたら統一教会とは別の新しい組織であるのかもしれない。イエス青年会は、教会、文化機関、事業会社を包括していて、後者はすべて教会へのサービスのためにある。通常の方式では、中の者たちは仕事をし、別の一部の者たちは伝道する。この組織は、文化機関と事業会社の部門で非常に成功しており、多国籍企業の助けもあって、これらの部門が多くの大学生を引きつけ、学生に社会活動に参加させる機会を提供している。

同時にこの組織は、包括的な団体として、効果的な使役と育成訓練のシステムを完備していて、献身の程度に合わせて弟子の育成課程を提供し、学生にこの組織の使役に参加するよう積極的に勧誘する。一部有名大学では、卒業生や休学生に全時間の使役をさせていることがわかっている。この組織は「大学院に行けるよう用意してあげる」と言って、使役の仕事に就かせるのだが、学生たちは一年後には地方へ行って使役しているので、結局この組織は、これらの大学を、使役者を養成する基地として利用しているだけなのではないかと、わたしたちは疑っている。

内部の実情について言えば、わたしたちがわかっていることは、この組織の階級は厳重であって、最高指導者の権威を強調している。以下は、わたしたちが、この組織の会員から聞いた目撃証言で構成したものである。

食事をする時は、最高指導者が先に着席して、他の人はそれからようやく座ることができる。最高指導者が高級な食器を使い、先に箸に手をつけ、食前の祈りをささげる。毎朝4時30分に起きて、5時から早天祈祷会を行い、昼休みはなく、夜9時に寝る。もし早天祈祷会までに起きられなければ、罰として朝食を断食する。道徳的な訓練を強調せずに、ただ聞いて伝えるだけであることを強調している。最高指導者は、この組織の全員に対して神的な権威を持ち、神の代表者として、人を罪に定め、審判する権能を持つ。有罪とされた人は、アベルの立場にある最高指導者のお世話をするを通じ、必ず罪を清算しなければならない。（この組織では「清

算」という言葉が強調される)。人間の罪の態度の最たるものは、高慢の罪であるから、その罪を清算するためには、最高指導者に完全に服従することが必要というわけだ。

この組織の管理と生活はとても厳格であって、律法的である。それでは、いったいどうやってこの組織は、学生たちを引きつけることができるのだろうか？ 先に述べたが、この組織が、大学生に社会活動と実践に参加する機会を提供しており、さらに重要なのは、包括的で効果的な使役のシステムを完備していることである。

使役の状況

イエス青年会はいったい使役を重視しており、包括的で効果的な使役のシステムを構築している。簡単に言えば、「伝道と祈り」である。イエス青年会の会員にとっては、伝道と祈りが彼らの生活のすべてであり、いのちである。

この組織が新しい大学で活動を開始する場合、この組織は、「不足のある場所」に十分な資金を投入して支持を与える。まず、大学で人を探して、彼らが言うところの「福音」を伝える。適当な人（ついてきそうな人）に出会ったら、その人たちと共同で会社を設立して、会社が立ち上がったならば、「不足のある場所」に資金を投入する経済支援の段階が終わったことを意味する。会社の収益は、教会に供給したり、さらなる事業の拡張に用いたりして、目標とする多くの企業を設立する。

どうして学生たちはこの組織に引き付けられるのだろうか？ 大学生を仕事に参加させる以外に、いわゆる、目に見える愛の実践を通して、多くの実際的な世話や配慮をするからである。たとえば、借金を抱える大学生にお金を貸したり、温かい家庭の雰囲気を感じさせたりして、「これこそ地上の天国だ」と感じさせるのである。

以下は、脱会した会員からの目撃証言である。

この組織は祈りを重視していて、毎朝必ず早天祈祷会で激しく祈る。しかし、自発的に聖書を読むことは勧めない。異言も語ったり語らなかつたりする。とても愛があつて、自然で、信じていることがすべて徹底して心の中に刻み込まれている感じがする。他人に対しては寛容で自由であるが、いかなる時も、いやいやながらするそぶりは許されず、他人の行為を制御しようとはしない。生活の上ではまったく一分の隙もない。

しかし、この組織の「愛」の態度はとても奇怪で、明らかに聖書の原則に背いている。この組織の集まりに参加した大学生は、長時間の「じゅうたん爆撃」のような洗脳を施されて、使徒言行録にあるような財産を共有した初代教会を見習わせて、裕福な大学生に生活用品を寄付させたり、地方の会合の費用を負担させたりして、はなはだしい場合には、非常に贅沢に使っている。多くの学生は、両親をだまして、親から与かった授業料を流用し、「互いに愛し合う」ために使っている。もちろん、これが、この組織の「経済支援」の出所となっている。

使役して与えられる手当は、中国の同程度の仕事で得られる給与と比べてみて、多くはない。実際には、手元にはほとんどお金がなくて、他に仕事に就くのも難しい。それは、仕事を探す技術も、お金もないからである。結局、この組織の中にいるしか選択肢がない状態なのだ。

この組織の「愛」は、ただ内部の狭い枠組みの中に留まるだけのものであって、この組織を認めない外部の人たちに対しては、冷淡である。外部の人たちは、天国には入れないのだから、外部の人がどうあろうと、じっとしていることができるのである。はなはだしいは、外部の人をだまして、金銭を獲得することすら、できるのである。この組織は、だまされた人たちを記念することすら、できる。その聖書的根拠は、ヤコブがエサウをだまして祝福を奪ったことにある。

彼らが福音を伝える時は、初対面の人には普通、罪の問題を話すことは避け、ただ神の愛だけを強調するので、表現としてはとても愛があるように聞こえるのだが、その目的は、人を引きつけて、この組織の聖書講義を受けさせることにある。一人でこの組織について行って学ぶことを願う者には、この組織の「惑わし」を受けさせる。つまり、大学生を勧誘して、聖書講義を連続して聞かせるのである。その速度はとても速くて、まず連続40日間の学習をさせ、40日間が終わったら、70日間の学習を続けさせる。その次は120日間の学習だ。40日間の学習によって、大学生の思想を混乱させた後に、さらに多くの勧誘をして、献身生活に入らせる。最初は伝道活動。次に共同生活である。共同生活では、生活を透明にする。つまり、組織の中核メンバーが、会員の毎日の生活について、事の大小にかかわらず、すべて報告させ、書き記して、上部に渡すのである。積極的に勧誘することについての聖書的根拠を挙げるとすれば、出エジプト記の助産婦のことを挙げる。イスラエルの女は、助産婦が来る前に子どもを生んでしまった。だから、サタンが来て奪い取る前に、すごいスピードでどんどん伝道して会員を作れ、ということになる。この組織の集会の中では、奇跡的なしるしや出来事があり、しばらくの間この組織に通うと、異言で祈ることができるようになる。これは、多くの人にとっては、戸惑うようなことであろう。

聖書講義は、毎回ノートに筆記させ、録音することは絶対に許さない。聖書講義をするのに、聖書は重んじない。聖書も見ると、別の書き方でタイプ印刷された資料とパワーポイントを用いる。その資料とは、この組織の最高指導者が書いた『40講義』のことである。聖書講義の時は、聴く人は、一つ聞くごとに、アーメンと言わなければならない。聖書講義を説く人が、資料に独自に解釈を加えることは許されず、個人が聖書を読むことよりも、聖書講義の分量の方が上回っていた。その上、「たとえ間違っていることでも、あなたは受け入れなければならない。なぜなら、これは『秩序』のためだからだ。聞いてもわからないのは大丈夫で、何度も聞いていけば、そのうち分かるようになる。長くかかる人でも七年間も続ければ、才能のすべてが開花される。この聖書講義は、聖書を説き明かして、その霊的な意味を求めるものであるから、聖書の背後の意味にまで迫ることができる」などと主張される。

もし、聖書講義を受けている人が、比較的に慎重な態度であることを発見した場合、あるいは、疑念を抱いているような場合には、その人を「悪い土」と断定して、かたちの上だけでその人とつき合うか、あるいは嘘を言ってだまして伝道させ、そうすることで、真理が「良い土」に蒔かれるようにする。この組織は「理性的判断を捨てよ」と言い、世界を「理性的世界」（低級な世界）「信仰の世界」「愛の世界」の三つに分けて考える。「信仰」と「愛」を強調し、神は愛であるのだから、ただ愛し合うことを通してのみ、最も深くかつ完全に神を認識することができる、と言う。

この組織は「挑戦」を強調し、一人でこの組織に入った大学生に、しばらくすると「挑戦」によって「誕生」させようとする。誕生というのは、この組織がよく使う用語であって、挑戦に応えさせることによって、この組織に加わせようとするのである。すなわち、「神のために駆け回って働くことができますか？」と挑戦し、集会の中で「祈りなさい」と挑戦し、「賛美歌を歌いなさい」と挑戦し、「伝道に行きましょう」と挑戦し、「他の人の前で話をしなさい」と挑戦する。聞くところによると、聖書講義を始めて半月ぐらいで「挑戦」を受けて「誕生」することになっていたのが、最近では、聖書講義を始めて三日から五日で「挑戦」を受けるという。

新人に「挑戦」して伝道させる場合、この組織は、「真理とは、種蒔きの喩えに出て来る種」であることを強調する。それゆえ、簡単なことすらわからない状態であっても、他の人に教えるならば、道を説くそのことの中に真理は存在するわけだから、わからなくても伝道できることになる。大学生に、集まりに参加してみないかと誘うことさえできれば、それでよいのである。

この組織は、祈りを非常に重視していて、普通の祈り、異言の祈り、黙祷のほか、韓国語の祈りを使うことも奨励する。毎日早起きして、早天祈祷会で祈る。

以下は、この組織に比較的長い間いた会員からの目撃証言である。

「わたしは平日の朝は5時45分に彼女たちが住む部屋に行き、祈り、讃美歌を歌い、時にはCDを聞きます。とてもしっかりした組織があるようでしたが、後から確かに大きな組織だと知りました。想像しにくいのは、私の高校の学友も、もとの会員の一人とこの教会に加わっていて、時には一緒に大声で祈り、讃美歌を歌ったことです。

わたしの場合は意外に早くて、聖書講義を50日間聴いた後の2003年7月4日に、いつものように朝5時に起きて部屋に行き、ひざまずいて大声で祈っていると、ゆっくりと口から出る音声が変化して、異言で祈り始めていまいした。わたしは涙を流して、心の中に普通ではない平安をおぼえて、感動していました。それからは、わたしは異言で祈るのが好きになり、自分を築き上げるために異言で祈りました。異言が出る前は、その恵みを切に願って、恐らく一ヶ月ぐらい願い求めています。

異言の後も、わたしは聖書講義を聞きました。この時には、すでにいくつか人を加えて、私一人から4人まで聖書講義を聞いて、隊列は比較的に大きくなりました。わたしが『40講義』を聞き終わる時には、連続して次の70日間も聞くかどうか、聞かれました。わたしは『はい』と言いました。70日間聞いた後に、次の120日間も聞くか、と聞かれました。わたしは『はい』と言いました。そうして、毎日ずっと聞いて、最後に計算すると、2003年9月初めまで、わたしは合計103日間の聖書講義を聞いたことになります。その中には、創世記前半の12章、ローマ書、いくつか福音書の章節、黙示録の内容がありました。イザヤ書や黙示録や創世記が好きで、福音派の観点に立っていますが、この組織の聖書解釈は霊的に深く、すぐには理解できない奇妙なものもありました。たとえば、アベルの捧げ物を神は喜ばれたのに、なぜ、カインの捧げ物は喜ばれなかったのか。この組織の説明によれば『カインの捧げ物が喜ばれなかったのは、土を耕したからで、神は土を耕すことを喜ばれない。耕作地は四季を経て循環し、元に戻ってしまうから、何も変わらないことになる。つまり、生命が更新されない。これに対して、アベルは放牧したので、毎日放牧した家畜のために、新しい草原を探さなければならなかった。そのことによって、生命は絶えず更新して、神はそれを喜ばれたのだ』というのです。」

わたしたちが見たところ、イエス青年会には、活発に活動する包括的な統制のシステムがあって、これを「不滅の神の道」とであると強調している。この道について行けないことは、地獄の底に落ちるよりもっと痛ましいことだ、と言われる。この道について行く者は、初めは他の場所にはないような愛と気配りを受けた後に、ゆっくりと「挑戦」を受けて、もといた教会や学生会から離れるよう要求される。はなはだしきは、学業を途中で放棄するよう求められることもある。わたしたちは、この組織に献身した学生に出会うことがある。この組織に加わって三ヶ月ほどで、全時間の献身を決意し、学業を放棄して、一日中この組織に従って伝道する。この組織の要求によって、重要な任務を与えられ、事業会社や文化機関に任命され、献身が強化される。特によく見られるのは、献身者が短期間韓国に渡って、修練会に参加し、実際には洗脳されてしまうことである。ここまで行ってしまうと、もうなかなか離れられない。

教義の問題

イエス青年会が、自分たちの奉じる「真理」を隠していることに注意する必要がある。異なる「土」のレベルに応じて、程度の違う「真理」を明かすのである。このため、一般の人には、この組織の最も深い段階の真理を知ることが、難しい。最も深い段階の真理を知っている人は、すでに洗脳を受けて、完全に内部の人間になっている、上の階級に挙げられた会員であるわけだから、知ったところで、そういう人はもう離れられないのである。

しかし、わたしたちが現在収集している資料の一部からでも、この組織の「真理」が間違いなく異端だということは断定できる。収集した資料は、おもに2つの出所を含んでいて、ひとつは脱会した人から寄せられたもの。もうひとつは、初期の段階の集まりに参加していた人。初期の段階といっても、この組織は「真理」を必ずしも隠そうとするわけではない。そのため、低い段階の会員であっても、高レベルの真理を知っていることがある。もうひとつは、わたしたち自身がこの組織にしばらく通い、この組織の階級が上の会員（その中のある者は全時間の献身に入っている）と関わったことがあり、多かれ少なかれこの組織が教えたり説明したりした

「真理」を知っていることである。聡明な彼らに、今このことについて尋ねるならば、彼らはいくらでもごまかすであろう。彼らは、「わたしたちもイエス・キリストを信じて義とされる、と信じているし、すべての人が罪人であることを認めて、贖わなければ、救われない」と言うであろう。このため、この組織の問題を発見しにくいのである。

具体的に言って、現在この組織の教義面には、次のような問題があることがわかっている：

- 1) 「啓示論」については、この組織は、聖書は完全ではないと言い、彼らの最高指導者である「来臨のキリスト」が伝える『40講義』が最高の真理であって、これより完全なものはないとする。
- 2) 「三位一体論」と「キリスト論」については、この組織は当初、イエスを神とは信じていなかった（聞くところによると、後から神と信じるようになった）。聖霊をも神とはしないで、学習の相当後の段階に来てようやく告知する。
- 3) 「贖罪論」については、イエスの初臨は失敗であったと説く。（すなわち、本当なら、ゲッセマネの園において、弟子たちがイエスに油を注いで王としなければならなかったのだが、弟子たちが愚かであったために、イエスは失敗してしまった！）。十字架は恥辱のシンボルであり、それだからこそ、この組織の最高指導者（来臨のキリスト）が到来して、地上に天国を作り上げ、経済と文化の方面に絶対的な影響力を及ぼすようにならなければならない。今日のクリスチャンは、「現代のファリサイ派」として、来臨のキリストを拒否することになる、とこの組織は考えている。
- 4) 「終末論」については、この組織はすでに来臨のキリストが到来していると説き、この組織の最高指導者が「来臨のキリスト」であることについては、初めて信者になった者が『40講義』を聞き終わる頃まで待って、その後ゆっくり説いて聞かせる。この組織ではまた、「天国」と「地獄」の区別がない。人が天国にいるか地獄にいるかという状態は、この組織の「真理」に対してどういう態度を取っているかを意味するに過ぎない。わたしたちが、この組織の「真理」に従順するならば、わたしたちの中に天国の状態が成就される、ということである。この組織はまた、復活とは「霊の復活」だけなのであって、身体の復活を否定する。
- 5) 「教会論」については、ただこの組織にのみ本当の救いがあると説き、この組織について行かない者たちは、悪魔に属すると言う。また、この組織の最高指導者の権威を強調し、指導者には神的権威があり、神の代表者であって、人を罪に定め、審判する権能を持ち、最高指導者に対して完全に従わなければならないことを強調する。

以上が、イエス青年会についての簡単な説明である。わたしたちは、中国国内と海外の兄弟姉妹が、イエス青年会に対して警戒体制を取ることを、心から要請する。特にこの終末時代にあって、「にせキリスト」「にせ預言者」「にせ教師」が絶えず大量に出現して、次々と邪説が現れているから、わたしたちの主の再臨の日が近づいていることに注意し、主を畏れ、主に信じ従い、主に依り頼んで、真理の教えを守り、キリストを見つめて、証しするべきである。また、聖書の御言葉を大きく掲げて、残された最後の時間を大切にして、主が喜ばれることを求めて生きて行くべきである。

愛する人たち。あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい。聖霊の導きの下に祈りなさい。神の愛によって自分を守り、永遠の命へ導いてくださる、わたしたちの主イエス・キリストの憐れみを待ち望みなさい。疑いを抱いている人たちを憐れみなさい。ほかの人たちを火の中から引き出して助けなさい。また、ほかの人たちを用心しながら憐れみなさい。肉によって汚れてしまった彼らの下着さえも忌み嫌いなさい。あなたがたを罪に陥らないように守り、また、喜びにあふれて非のうちどころのない者として、栄光に輝く御前に立たせることのできる方、わたしたちの救い主である唯一の神に、わたしたちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、力、権威が永遠の昔から、今も、永遠にいつまでもありますように、アーメン。

—以上引用—

『房角石日記』

http://zionchina.org/modules/weblog/details.php?blog_id=897 (削除された元ページ)

<http://www.salvos.com/makotoyamaya/china/cournerstone.html> (保全ログ)

中国ACMカルト疑惑（讃美社区）

中国のキリスト者の掲示板でACMをめぐる激論が戦わされている。以下はその発端となった、中国ACMのカルト疑惑を告発する書き込みである。

—以下引用—

「共同体」あるいはACMについて

2006年11月4日

執筆者 Beloved

主にある兄弟姉妹に平安があるように！

私はひとりの罪人であるが、2006年8月に聖霊の導きによって、主イエス・キリストに立ち返ることが出来た。夏休みが終わって大学に戻り、「共同体」の関連組織であるACM（アポストロス・キャンパス・ミニストリー）の伝道者、張某氏に会い、招かれて、ACMが主催する「十一回連続修練会」に参加した。同年10月3日に正式に入会し、「共同体」の一員となった。この組織の言い方で「誕生」と呼ぶ。しかし、10月7日に脱会した。「共同体」の言い方によれば「つまづいた」ことになる。

「十一回連続修練会」で、私は毎朝7時にACMに到着して集会に参加し、夜遅く午後11時頃帰途に着いた。七日間の修練会の大部分は、張某氏が講義し、氏が原稿を手を持って話した。また、インターネット上のACMのミーティングに参加し、講義の録音をネットを介して聞いた。張某氏はACMの幹事で、韓国語らしき言葉で「カサニ」と呼ばれていた。私がこの組織に入会してからは、張氏を名前で呼ぶことは許されず、尊敬を込めて「引導者」と呼ばされた。私は自分の行動を可能な限りすべて「引導者」の同意を得て行わなければならない、また、「引導者」に可能な限りすべてを報告しなければならなかった。講義を聞く以外、毎日、早朝、正午、午後3時に時間を決めて祈った。祈る時、張氏は異言を用いて祈り、激しくなってくると、揺れ動き踊り狂うように、歓喜して祈った。祈りの内容はおもにACMの「目標」の祈りであって、神に依りすがって、目標達成のために祈った。目標は、一日、一週、一か月、一年と定められていて、ACM全体が新メンバーを獲得して、目標を実現し、発展することにあつた。正式メンバーは「肢体」と呼ばれ、核心メンバーは「幹事」と呼ばれる。幹事が「カサニ」であり、引導者になることができる。聖書講義を聞き終わると、私はそれを黙想して、自分が受けた聖書講義をおさらいするよう求められた。そして、感想を書き、張某氏の審査を受けるために提出した。

私は10月1日に「40聖書講義」を開始し、一日に一つの特別な講義を受けて、40日に至るはずであつた。しかし10月7日に私は「つまづいた」ので、最後まで聞かずに終わった。私が聞いた聖書講義の題目は、「信仰の聖書講義」「アブラハム」「エノク」「ヤコブ」「ヨセフ」「ヨシユア」「エリコ攻略」「信仰の祈り、エリヤ」等であつた。

10月2日の夜、私が張某氏に何度も問い詰めると、張氏は彼の「引導者」である多馬幹事の命令に背いて、「共同体」とACMの歴史を漏らした。この組織は韓国で始まり、その創立者は「パウロ牧師」だと張氏は語った。パウロ牧師が、ある山の奥深くに入って啓示を受け、隠遁して聖書講義を説く智者となった後に、教えを明らかにするため、世に出て教団を創立した。最初の12人の弟子がパウロ牧師によって任命され、韓国各地に派遣されて、伝道した。1996年10月に中国に入り、正式に「共同体」と命名された。香港に本部があつて、その関連組織であるACMは、北京に別の本部を持っている。張某氏によれば、「共同体」は上海の復旦大学で大変成功し、山東省にも大きな発展があるという。張某氏が述べた組織の歴史と、私がネット上で見つけた、議論の渦中の「イエス青年会」とは、とても似ている。二つは同一の組織かもしれない。

10月3日に私がACMに参加した後、夜の帰り道で張某氏は、「私があなたに『共同体』について話して聞かせたことを、他人にしゃべってはいけない！」と、何度も私に念を押した。

10月5日、多くの聖書講義を聞いた後、私がおさらいしていると、張某氏は私に対してこう言った。「あなたが聞いた聖書講義は、他人には話さないでください。それを聞いた人が、サタンによって探られることになるからです。これは、私たちの聖書講義が、生命を与える聖書講義であって、とても貴重だからです。神様の祝福が大きい聖書講義に対して、サタンは破壊しようとするのです」

張某氏は毎朝、インターネットを通じて自分の指導者に報告を上げ、お伺いを立てていた。私は10月3日と6日に、彼らがネット上で会議をする様子を見た。しかし6日以降は、張氏はそれ以上私が見ることを許さなかった。私が観察したところによれば、張某氏は多馬幹事をネット上の会議室に呼び出す。すると、acm_cnというハンドルネームが現れる。

acm_cnが張某氏にひとこと言うたびに、張氏は必ず「アーメン」と答えなければならなかった。10月7日の午後、私が張某氏のところに行くと、私より先に「共同体」のメンバーとなった人が起こした問題について、張氏が指示を仰いでいた。やはり同様に、張氏は必ず「アーメン」と答えていた。これを見ると、明らかに「共同体」と「イエス青年会」は似ていた。しかし、両者が一体かどうかについては、主にある兄弟姉妹に自分で判断していただくしかない。私が確認できることに限界があることを、許していただきたい。

七日間の経験を通して、私は「共同体」の組織と機構を知り、その聖書解釈の方法や、基本的な教義について、以下のように帰納するに至った。兄弟姉妹にお願いします。どうか、聖霊の導きのもとで聖書を忠実に読み、歴史的・文化的背景を重んじる聖書解釈に立って、聖書が教える真理に拠りつつ、私が以下に示すACMの「霊的な聖書解釈」を細心の注意を払って検討し、それによって、「共同体」に対する正確で厳格な認識を持つようになり、かくして、兄弟姉妹がACMに遭遇する時、正しい判断を下すことができるように。神の祝福を祈る。アーメン！

一、共同体の組織と機構

霊と魂と肉の三つのレベルで構成されている。霊のレベルに属する機関は、「イエス教長老会」(General Assembly)、「アポストロス・キャンパス・ミニストリー」(ACM)、「イエス青年会」である。魂のレベルに属する機関は、いくつかの文化機関であって、例えば、新聞社やポータルサイトなど。肉のレベルに属する機関は、経済活動を行う各種の会社である。このような三つのレベルから成る「共同体」を作ることにより、彼らは自分たちの「ノアの箱舟」を建造しようとする。これは、聖書講義に基づいたものであり、詳細は後述する。

二、共同体の聖書解釈の方法

おそらく寓意的解釈あるいは霊的解釈による聖書解釈を行っている。霊的解釈とは何であるかを簡単に解説したい。霊的解釈による聖書解釈の方法とは、聖書には寓意が含まれていて、その表面的な意味の下に本当の意義が存在すると観る見方である。このため、聖書を研究する際には、聖書から寓意的意味を探し出して読み取ろうとする。確かに、聖書には寓意的表現をしている書がいくつか含まれているけれども、しかし、聖書のすべてが寓意とは限らない。もし、寓意を含まない箇所にも寓意を見て解釈しようとするならば、恐ろしい結果が導き出されることになる。霊的解釈による聖書解釈の方法を使用する場合には、十分慎重になるべきであって、さもなければ、主観に陥り、自分の好みと経験のままに聖書を解釈して、神が意図した意味から離れて行ってしまう。過度な霊的解釈による聖書解釈を使って聖書講義を説き、そうした解釈の客観的な根拠を失うほどの事態を招いて、極限に達した状態が、異端である。「この聖書の教えは、ある聖なる人によって説かれた聖書講義であって、それは神から来たものである」などと公言される場合には、私たちは、よくよく警戒すべきである。彼が説いていることは、本当に聖書と一致しているだろうか？ その解釈に客観的な根拠があるだろうか？ 要するに、私たちの信条は神からのものであって、人からのものではない。人は、罪性を持っているのだから、人が説くことを軽々しく信じてはいけないのだ。

それでは、私はどうして「共同体」の聖書解釈が霊的解釈だと思うに至ったのか？ 10月2日の午後、張某氏はACMが発行しているタイプ印刷の分厚いノートを手にしなが、聖書講義を説いた。原稿を積み重ねながら講義を進めて行く中で、その日の午後、受けた聖書講義を私がおさ

らいしていた時に、彼は私の側に座り、「正しく聖書を読んで学ぶ方法」と題する原稿を見ながら、私には見せないでいた。私が聖書講義の要点を押さえながら述べて行くと、彼はこう言った。「聖霊は、あなたがこの聖書講義を見るようにと、導いてくださった。しかし、見終わった後は、二度と見ることは許されません！」そこで私は聖書講義の原稿を見てみた。それによると、原稿には、「聖書を読んで学ぶのに、霊と魂と肉と、三つのレベルがある」とあった。そして、聖書の字面の意味だけを見る学び方を「肉の御言葉」としていた。字義にこだわって、寓意を知らないからである。「霊の御言葉」とは、聖書の字面の意味を後にして、寓意を知ろうとするものである。「魂の御言葉」とは、それら両者の中間に位置する。私が初めて張某氏に会った時、3時間の長談義に及んだが、その中で彼はこう言った。「聖書は一本の指が月をさしているようなものです。私たちは聖書を読んで学んでも、ただ指を見ることしかできません。しかし、重要なのは、指がさしている月を見ることです。重要なのは月です。では、どうしたら月を見ることが出来るのでしょうか？あなたがこの聖書講義を聞いているのは、まさにそのためです」この聖書講義とは、ACMの聖書講義を指す。ACMの聖書講義は、あまりにも霊的解釈による聖書解釈の可能性を強調しているのも、聖書の大部分、はなはだしきに至っては、聖書のすべてに対して、霊的解釈による聖書解釈の方法を押し通しているように思われる。それが、ACMの「40講義」である。「40講義」は基本中の基本であり、入会者が必ず受けなければならない講義である。これはACMの段階別教育中の最下層レベルである。聞くとところによれば、「40講義」を聞き終わると、「70講義」「120講義」が待っていて、それにより、「中レベル」を通して、「高レベル」の講義に達することが出来る。張某氏の「引導者」「多馬幹事」「acm_cn」は、かつて張某氏が私に「共同体の歴史と機構」をまだ教えるべきでない時に教えた時、こう言ったことがある。「私たちが段階を分けて聖書を講義するのには、理由があります」その理由が何であるかは、私はただ心の中で推測するだけでも、勇気を要する。兄弟姉妹が願われるなら、ご自分でその理由が一体何であるか、考えてみてほしい。

以下に、ACMによる聖書の説明をいくつか挙げて、その聖書解釈の方法の例を示し、兄弟姉妹が見分けることができるよう、提供したい：

1. カインの献げ物は神に受け入れられなかったが、アベルの献げ物は神に受け入れられた。その原因は、カインが農作をしたからであって、農作は、ひとつのところにいつもいて、動かない。これに対して、アベルは羊を放牧したので、常にあちこち行き来して、新しい牧草地を探した。
2. 善悪知識の木の実とは、人間の「理性」を表している。人は、禁じられた実を食べて、理性能力を生じた。ゆえに理性は、もともと罪から来ている。もし人が聖書講義を聞きに来て、自分の理性を聖書講義より下に置くならば、聖書講義が明白に示す「信仰と愛の世界」に達することが出来る。
3. ヤコブは広々とした野原の中で、梯子の夢を見た。梯子の夢によって表されているのは、神がヤコブを仲介人として選ばれた、ということである。神は人を選んで、仲介人にする。それゆえ、主日礼拝の中では、神と人の間に立って聖書講義を担当し、賜物を取り次ぐ仲介人が、最高の位置にある。引導者は、非常に重要な仲介人であり、引導者の権威を敬わなければならない。
4. リベカはエサウを欺いてヤコブを助けたけれども、リベカとヤコブの行為は、神の御心に適合していた。リベカは「聖書講義を信じる者の道」を表している。「霊に属する人々の母」であるリベカに相当するのは、「引導者」であり、リベカとヤコブの関係は、「引導者」と「共同体」という、この教会の在り方を承認するものである。
5. エリコの戦いにおいては、ヨシュアが軍隊に指示を出す中心であり、全員がヨシュアに従わなければならない。同様に、「聖書講義を信じる者の道」においても、すべて中心人物の指揮に従わなければならない。中心とは、「引導者」であり、引導者はまた、「仲介人」である。それゆえ、生活の中で、引導者に絶対に従わなければならない。
6. ノアの箱舟は、三階構造であり、霊と魂と肉という三つのレベルに別れている。それゆえ教会も、そのように建てなければならない。終末のキリスト再臨の時に、箱舟の中にいる人は、救われることができる。
7. なぜ「七」は神聖な数字なのか。空間の方位に、上、下、右、左、前、後という六つがあり、そこに中心である神あるいは仲介人（引導者）があるならば、七となる。しかし、サタンは、中心を取ってしまった。そこで、サタンの数字は「六」となった。

8. ファリサイ派の律法学者が姦淫の現場で捕らえられた女をイエスのもとに連れて来た時、イエスは地面に書き物をしておられた。イエスは、モーセが石版の上に律法を書いたように、「ゆるす」という言葉を地面の上に書かなければならなかった。
9. 使徒の手紙の中に、「信仰は聞くことによって始まる」とある。聞くとは、「共同体」の聖書講義を聞くことである。この聖書講義は神から来たものである。「共同体」は聖書講義を用いて聖書を説き明かすことにより、肢体（「誕生」して「共同体」のメンバーになった者）を育てることができる。体が肢体を訓練し育てるからである。
10. ユダはイエスを売ったが、それは、ユダが「信仰と愛の世界」を理解しなかったからだ。

以上に挙げたのは、「共同体」の聖書解釈の例である。われわれは、聖書の原文にあたる時、それが寓意かどうか検討しなければならない。原文が前後の文脈に照らして、字義上の意味だけで解釈できるなら、わざわざ寓意を探す必要はない。聖書が書かれた当時、本当にそのような意味を示していたか、また、聖書が一貫してそうした意味を示しているかどうか、検討しなければならない。「共同体」が、聖書を寓意的に解釈するのは、問題である。主にある兄弟姉妹には、どうか、正しい方法で真剣に聖書を学んで、神の導きに従って、神の御心を判断していただきたい。聖書を研究する方法は、非常に重要である。聖書解釈の方法を間違えると、聖書講義が異端邪説に陥って、その結果、深刻な事態がもたらされる。一人の伝道者が聖書解釈を間違えると、多くの人々が間違った歩みに導かれるという、恐ろしい結果を招く。これは、とても大きな罪だ。

三、共同体が強調する教義

1. 歴史認識：使徒時代と、現代とを類比して、実践することができる、とする。はなはだしきに至っては、使徒時代と現代は基本的に同じとみなすことさえする。このため、現代の使徒が必要になる。それゆえ、ある人が神に選ばれて現代の使徒になることができ、使徒としての権力を持ち、ペトロのように、一言で数人の生命を左右することすらできる。「共同体」の引導者には、神から付与された使徒の権力がある。
2. 引導者は、神と人の間の重要な仲介人であり、神に選ばれて、神から権力を与えられる。それゆえ、「共同体」の中の「肢体」は、絶対に引導者に服従し、引導者のすべての命令を実行しなければならない。「肢体」は個人の生活をできるだけすべて引導者に報告しなければならない。「肢体」は、引導者にお伺いを立てて、その上で行動することができる。
3. 引導者は極みまで自分をへりくだらせ、命を犠牲にし、おのれを空しくして、神のために大きな苦難を引き受け、自分の命を捧げて、自分の利益を空っぽにし、神のために大きい苦難を受け、それによって神の選びを受けて、高く上げられ、神から与えられた権力を持つようになる。
4. 創造の意図：神は人間を創造し、神と人間が共同で神の国を建設するはずであったが、まだ神の国が完成しない段階で、人間は墮落してしまった。そこで、神は人間を救われるのである。「救いの確信」を得た人は、神の「創造の意図」を実現するため、神の国の建設に奔走する。
5. 神の愛は、人の罪より大きい。人が罪を悔やむより先に、神はすでに前もって人の罪を赦しておられる。
6. 理性で「信仰と愛の世界」を知ることはできない。そのため、聖書講義を学ぶためには、理性を下に置く必要がある。
7. 聖別する：（1）時間を聖別し、聖書講義と祈りの時間を確保する。（2）空間を聖別し、礼拝の部屋の中では静粛にしなければならない。（3）物品を聖別し、引導者が使用する食器は祭具のように扱い、他人が使うことは出来ない。引導者の座席は、他人が座ることは出来ない。引導者でない人は、物品を専有することが出来ず、引導者の許可を得てのみ使用することが出来る。

聖書解釈の方法について論じたのと同様、「共同体」の教義に関しても、類似した問題点を、主にある兄弟姉妹は見抜かれることであろう。「共同体」においては、聖書解釈について、特定の説明がなされており、その聖書解釈から特定の教義が導き出され、特定の教義からこの組織の実践が導き出され、特定の实践から組織の機構が導き出されることになる。それらが全体として有機体を成しているのである。

以上に述べた「共同体」の教義について、主にある兄弟姉妹に、聖書の原則に根拠した検討を下してもらいたい。聖霊の感動を受けた至高の神の御言葉にのみ基づいて、さまざまな宗教組織や団体の性質を検討して、それらが本当に神の御心に合致したものであるのかどうか、判断していただきたい。「身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています」（ペトロ前書5:8）

主にある兄弟姉妹が以上に述べた問題について討論する時に、もし双方に異なる意見があるならば、慌てず、騒ぐことなく、この問題について討論していただきたい。御自分の見解を他人に対しては発表しないでいただきたい。聖書は私たちを、断定的な議論をする人間にしようとするものではないからである。たとえ兄弟姉妹の中に気が弱い者がいるとしても、主にある自分の兄弟姉妹を愛していただきたい。神が平安と喜びを与えてくださるように！

（他媒体への転載を歓迎する）

—以上引用—

『讃美社区』

<http://www.zanmei.net/bbs/thread-63851-1-1.html>（削除された元ページ）

<http://www.salvos.com/makotoyamaya/china/acmchina.html>（保全ログ）

内部告発及び脱会者証言（リックロス・カルト教育フォーラム）

以下は、『リックロス・カルト教育フォーラム』の「新しいカルト アポストロス・キャンパス・ミニストリー（ACM）」に投稿された、内部告発及び脱会者の証言である。

—以下引用—

awoken

「わたしはクリスチャンで、アフリカのケニヤでこの団体に入っていました。自分たちの牧師がイエスだ、と言っていたのは本当です。携挙などない、とも言っていました。イエスは、黙示録に書いてあるように、雲に乗って来るのではない、とも言っていました。そのかわり、この団体の14万4千人の会員という「雲」に乗って来られるのだ、だから、あなたも一生の会員にならないか、と勧誘されました。一生この団体に属すること、聖書講義の内容を誰にも話さないことを誓う、誓約書に署名するのです。リーダーになると、聖書講義をするよう求められます。わたしもリーダーになりましたが、目が開かれてすべてがわかり、去りました。これはカルトです。信じてください」

truthseeker777

「（10月21日から数えて）あと9日で、この団体は14年目の『嘘』を祝おうとしている。それは、さらに28年を経て、神の国がダビデ張牧師を通して世界に到来する、という『嘘』である」

「この団体（ACM）は、イエスが十字架で死に、イエスは主であると説きはする。だが、イエスは聖書に書いてあるように「雲」に乗って再臨するのではない、と言う。聖霊によってきよめられた14万4千人の証人に支えられて再臨する、と説くのだ。この14万4千人は、彼らがキリストと信じるダビデのもとに、人々を導く「残りの者たち」なのだ。それゆえ、狂ったように伝道する。侵入するような伝道方法を使う。伝道しない者は、信仰がない、とみなされる。信仰とは、ダビデをキリストと信じる信仰のことだ。わたしは、こんな教えが聞きたいと頼んだわけではない。どうして嘘を言う必要があるのか。わたしはただ聖書の学びがしたかっただけなのだ。すると、この団体は、こんな冒涇的な教えをわたしに説いたのだ」

「この団体は、本当にダビデをキリストと信じている。もしあなたがこの団体に入って四年もたっていて、なおかつそのことを知らないとしたら、ダビデのことを教えたらあなたが当惑すると思われる状況があったからだ。だから、その種の教えを飛ばしたのだろう。この団体は、メンバー全員にその教えを説いていないのかもしれない。この団体はこれまで、あなたを不愉快な思いにさせるようなことを、あなたにやらせようとしたことがあつただろうか？ あなたはこれまで疑問を抱いたことがあつただろうか？ この団体があなたに話さなかったのは、あなたが献身の覚悟を決める気配がなかったからではなかったか」

「この団体の人々は、良い人たちだ。そこには、愛もあると思う。質も良いと思う。だが、同時に、この団体は、次のような要求をつきつける。新入会員を得られなかったら断食しなければならないこと。家族を悲痛な思いをもって捨てなければならないこと。本当は行きたくないのにあちこち頻繁に異動させられること。行かなければ裏切り者のユダやヨナのように見なされること。わたしも最近ユダだと言われた。だが、そんなことは、わたしには問題にはならない。なぜなら、ダビデはキリストではないからだ！ マインドコントロールも使われている。共同体と同じ考えを持たなければ、もっと信仰を持つように、もっと祈るように、祈りが足りない、と言われる」

「アメリカ人でないメンバー、南米人、アフリカ人、ヨーロッパ人は、もっとひどい思いをしている。宣教師への扱いは、それはひどいものだ。宣教師は若者ばかりで、伝道活動の消耗品のように扱われている」

susankim212

「まずはじめに言いたいのは、ACM、ベレコム、EAPC、クロスマップ、クリスチャントゥデイ、AIRTEL、IBTIMES、クリスチャンポストは、全部ひとつだということです。私は中央アフリカの大学生で、この団体に働いていました。それらは全部、ダビデ牧師が作った、まがい物です。わたしたちは、それらの団体に働くよう指導を受けました。しかし、断りました。わたしたちはみんな、真実を知ったからです。わたしと友人は、真実を全部知らされました。でも、二人の間ではそのことを絶対に話しませんでした。話す「ユダ」（裏切り者）と呼ばれてしまうからです。キリストだというその韓国人に、わたしも会いましたが、全然キリストなどではありませんでした。ただの人間だったので、わたしは傷つきました。韓国語で張牧師と呼ばれていました。彼の写真も説教もCDに焼いて持っています。情報の欲しい方は連絡ください。彼の宣教師は今アフリカにたくさんいて、全員若者ばかりです。みんなひどい過去の経験を持っています。本当にひどい経験です。というのは、彼が、主のために十字架を負い、苦しみを受ける、という説教をするからです。彼は、絶対に活動資金を与えないので、みんな困り果てています。ですから、「chariot」氏が言う、お金のためだ、というのは、信じないでください。わたしたちは、神のために何ヶ月も働きました。絶対にお金のためではありませんでした。わたしたちは選ぶことができましたが、この団体に留まることを選びました。というのは、退会することは、神に背を向けたヨナと同じだ、と言われたからです。わたしにとっては、精神的に引き裂かれる恐ろしい経験でした。わたしは神を必要としていて、ここなら神に会えると思っていたのに、わたしの魂をとらえるものは、この団体に何一つなかったからです。わたしは、主のきよさということすら、信じるのが出来なくなってしまいました。キリスト教を破壊しようとする彼らの目論みは、わたしには、あまりに非人間的に思えました」

「ここでこのことを話すことができ、よかったです。この団体は誤った福音を宣べ伝えていきます。この団体は、イエス・キリストが新約聖書を携えて到来したように、新しいキリストが永遠の福音を携えて到来した、と説くのです。そうして、キリストというのは単なる称号に過ぎず、それはいまや、ダビデに置き換えられた、と言うのです。そうして、ダビデは、イエス・キリストが達成し損なった使命を果たすために来た、というのです。この教えは、私の心を長いこと殺し続けました。どうしてこんな冒涇的な教えが急速に広まっているのか、理解できず、わたしのキリスト教的世界観は、引き裂かれてしまいました。この団体は、特定の聖書箇所を強調し、メンバーが個人的に聖書を学ぶことをやめさせようとします。あるメンバーが、この団体の聖書講義とは異なるように見える聖句を読み上げて、宣教師に質問したとき、宣教師は全く矛盾だらけの説教をしました」

—以上引用—

『リックロス・カルト教育フォーラム』

<http://forum.rickross.com/viewtopic.php?t=2350&postdays=0&postorder=asc&start=0>

脱会者証言 1

以下は、脱会者 A さんとの面談記録である。個人名及び地名については、おおむね伏字にしてある。

—以下引用—

(1) ××××年×月×日に、受験勉強の気晴らしのため、××××をお参りし、帰路、午後4時半頃、××駅頭で、ACMの女性宣教師××××と××××に声をかけられ、「聖書の勉強をしませんか」と勧誘された。約一時間、立ち話をしたあと、××宣教師から連絡先のメモを手渡された。

(2) 家にこもりがちであった受験勉強がようやく終わった××××年×月末に、人恋しい思いもあり、××宣教師に連絡してみた。ACMのホームページを紹介され、閲覧した。しかし、カルトであると困るので、××××た、××××の××××の××××に「ACMをどう思うか」と質問してみた。××の××××からは「ホームページを見ただけではよくわからないが、キリスト教原理主義ではないか」との返答を受けた。

(3) ××××の××××近くの××の××にある「××××長老教会」(EAPC)を訪ね、××宣教師と再会し、「一対一の聖書の学び」を始めた。

(4) 通って××××ほどで、「堅信カード」に記入するよう、しきりに勧められた。この教会では、水の洗礼を「律法的である」と否定し、代わりに、堅信カードに記入することを、信仰告白としていた。

(5) ××××年×月末に、××宣教師が××に異動となったが、出立する直前に「お願いだから堅信カードに記入して欲しい」と懇願され、×月初めに記入に同意した。個人情報を含む内容をカードに記入しているその回りで、牧師と宣教師が取り囲み、××××の賛美歌を歌った。

(6) 堅信カードに記入すると、「チチェ」(肢体)と呼ばれるようになった。チチェとは、共同体の成員を意味する韓国語だが、日本語にはそれに相当する言葉がない、と説明を受けた。

(7) チチェが、一対一の聖書の学びを終了し、オリヴェット大学で修士課程を履修し、ACM関連企業に就職すると、「幹事」と呼ばれる立場になることを知った。クリスチャントゥデイやベレコムやACMやYDなど、関連団体で仕事をしている人たちはすべて「幹事」であった。

(8) 幹事だけがパスワードを入力して閲覧できる「幹事専用サイト」がある。これは、ACM、YD、EAPC、クリスチャントゥデイ、ベレコム、その他もろもろの関連団体をすべて統合したサイトで、世界各国語版が用意されている。チチェは、幹事と一緒に、「幹事専用サイト」を閲覧することが許される。

(9) ××××長老教会に集っている人たちに、「ふだんは何をしているのか」と尋ねると、IT会社「ベレコム」で働いている、と言われた。ベレコムの収益が、クリスチャントゥデイやACMやEAPCなど各団体に配分され、活動資金になっていると説明された。

(10) ××××長老教会が賃貸している部屋の表札は「ベレコム」となっていた。おそらく、ベレコム名義で契約しているのだと思った。

(11) ××××長老教会に集っている人たちには、「牧師」の肩書きを持つ人が多かった。一対一の聖書の学びを始めて、まだ一年か三年ぐらいの人が「牧師」の肩書きを持って活動していた。「そんなに簡単に牧師になれるのか? 神学校で何年も学ばなければ、牧師になれな

いのではないか？」と質問すると、「律法的だ」と言われた。「信仰があれば、だれでも牧師になれる」と言われた。

(12) ××××長老教会の日曜礼拝では、ジュビリーミッション発行の賛美歌集を使用していた。

(13) ××宣教師が××に異動した後は、××××長老教会牧師の××××から一対一の聖書の学びを受けた。

(14) 一対一の聖書の学びは、牧師がパソコンで「幹事専用サイト」を開いて、サイト上の講義資料を見ながら、また、適宜ホワイトボードを用いながら、行われた。牧師が多忙の場合は、「幹事専用サイト」から、××牧師や××牧師の講義の音声ファイルを聞くことによって、その代用とした。

(15) 一対一の聖書の学びでは、「根源的罪」が強調された。イザヤ書で、ルシファーが高慢になったことが墮落の原因であると言われているゆえに、高慢こそ根源的罪だと教えられた。一対一の聖書の学びの内容に対して「疑問」や「反論」を抱くことは、高慢であり、根源的罪であって、疑問を捨てて学ばない限り、真理は決して開かれない、と言われた。

(16) 講義や説教の中で、「律法的ではない」という教えが、何度も繰り返えされた。水の洗礼は「律法的である」として、否定されていた。水の洗礼に対する「聖霊のバプテスマ」の優越性が説かれた。そして、「聖霊のバプテスマ」とは「一対一の聖書の学び」そのものに他ならない、と教えられた。

(17) ××××は、×××××を出て、××××の××××に在学中に、韓国人宣教師から伝道を受け、「一対一の聖書の学び」によって自分は生まれ変わった、聖霊のバプテスマを受けた、と証ししていた。××××は、×××としてACMメンバー第×号であると言われていた。

(18) 普通の教会では、洗礼に至るのに一年以上時間をかけるが、それは教会が規則や制度を固守し、「律法的であるため」だとして、普通の教会を批判していた。

(19) 「わたしたちの教会は、律法的でないので、二週間で堅い信仰の信者を造ることができる」と言われた。

(20) 集っているメンバーは、20代前半がほとんどで、××牧師が30才前後、××牧師が28才前後、信者の最年長者でも26才だった。若さゆえに「律法的状況」から脱することができる、と教えられた。

(21) 教会外、教会内を問わず、恋愛は禁止されていた。××××宣教師は「恋愛は、サタンの誘惑によって行われる」と言っていた。恋愛は禁止されているのに、教会内で結婚している人がいるので、結婚は上からの指示で行われるのではないかと思った。

(22) 講義や説教の中で、よく「共同体」という言葉が使われた。洪水以前に、神の子たちが人の子たちを娶って墮落したことを引用して、信者は未信者と結婚してはいけない、と教えられた。

(23) 幹事、牧師、宣教師は、いずれも貧乏で、アルバイトをしながら、教会の活動をしている。ほとんどの人が、フリーターであった。IT会社「ベレコム」の収益があると言っても、たいした売り上げがあるわけではなく、関連団体に配分出来る資金は、少ないのではないかと考えた。

(24) ×年以上前は、宣教師たちは極度に貧乏で、一週間の食費が300円しかなく、家賃が払えなくて、「東京ソフィア教会」が借りていた物件から追い出されたこともある、という苦勞話を、宣教師から聞かされた。

(25) 独身信者の多くは「兄弟部屋」と呼ばれる場所で、共同生活をしているようであった。共同生活をする信者は、私物や私有財産を、ほとんど持っていないようであった。

(26) 幹事、牧師、宣教師は、教会とACM関連諸団体の間を、ひんぱんに異動していた。韓国人宣教師は、年に四回ぐらい異動していた。ベレコムで仕事をしている幹事も、一ヶ月ぐらいで異動していた。「速く動く」「スピード」ということが、最重視されていた。「律法的状況」を脱するためにもスピードが必要、ということも言われていた。

(27) オリヴェット大学に留学するよう、何度も勧誘を受けた。しかし、オリヴェット大学に行く人は、三ヶ月か半年ぐらいしかそこにいないので、おそらく三ヶ月で修士号を与えているのではないかと思った。

(28) ××牧師と××牧師は、オリヴェット大学の通信で学び、渡米して、卒業式に出席していた。「幹事専用サイト」で、ダビデ牧師（張在亨牧師）が按手札を施している写真に、××牧師が写っているのを、見たことがある。

(29) オリヴェット大学に行くことの意義については、「何の権威によって牧師をしているのか」と問われた時に、「オリヴェット大学の修士号を持っています」と答えて、身を守るためである、と説明されたことがある。

(30) ACMの関連団体として、オンライン新聞「クリスチャントゥデイ」を経営している。クリスチャントゥデイの意義については、「わたしたちの教会は、かつて韓国で異端に間違われたことがあるが、それは、わたしたちが急成長し、他の教会がそれを嫉妬したからだ。それゆえ、われわれはクリスチャントゥデイで他の教会の誤りを記事にすることにより、他の教会に対抗することができる」と説明された。

(31) ××牧師が「幹事専用サイト」の張在亨牧師の写真をみせて、「このダビデ牧師が、一対一の聖書の学びの創始者だ。あなたもいずれ、ACMの関連団体で働くことになるから、考えておいてほしい」と言われた。

(32) ウルを捨てて約束の地に旅立ったアブラハムの記事を引用して、「地縁・血縁を捨てて、ACMの関連団体のメンバーになることが、アブラハムの信仰だ」と言われた。教会に行くたびに、関連団体で働くよう、勧誘された。

(33) クリスチャントゥデイで記事を書いていた××大学出身の××××は、×年前に××ACMの伝道を受けて、聖書の学びを始め、オリヴェット大学に三ヶ月留学した後、クリスチャントゥデイの記者になった。幹事は関連団体をひんぱんに異動するので、最近クリスチャントゥデイに××××の署名記事がないところを見ると、別の団体に異動したのだろうと思う。

(34) この教会が韓国で財政難に陥ったとき、お菓子の自動販売機のセールスを展開して、危機を脱した、と聞いたことがある。韓国人宣教師の中に、自動販売機のセールスをしていたという人がいた。宣教師でも、伝道以外の関連団体の間を異動していた。

(35) 牧師の肩書きを持つ人が多い。三年前に聖書の学びで信仰に入った人が、オリヴェット大学で半年間学んで、今から一年前にはもう牧師となって××の各地を巡回していた。一年と少しで牧師になったことになる。ここでも「スピード」が強調されていたように思う。

(36) 自分は、××××を×月から始めて、「韓国キリスト教」の××××で、「韓国の異端の見分け方を教えます」と自称する人と連絡を取るようになり、ACMの特徴を説明したところ、「それはおかしい。離れた方がよい」とアドバイスを受けた。そのことが、ACMを離れるきっかけとなった。今は、その人が伝道師をしている××の××系教会に通って、聖書を学んでいる。

(37) 「日本は律法社会だ」として、批判的な説教や講義が行われていた。一方、日本と対比して、「アメリカは自由な社会だ」と理想視されていた。「パウロはユダヤでキリスト者となったが、世界の中心であるローマを目指して宣教した。わたしたちも韓国から始まったが、世界の中心であるアメリカを目指して宣教する」と言われたことがある。同じ論調で、クリスチャントゥデイに「日本の社会と教会の律法主義」を批判する記事が掲載されたことがある。

(38) 統一教会を非常に敵視していた。統一教会を敵視することで自分たちのアイデンティティを保っているのかとも思った。××代の男性信者が、「教祖が自分を神格化するのがカルトだ」と言っていた。それを考えると、一対一の聖書の学びの結論部分で、「ダビデ牧師（張在亨牧師）がキリストだ」と言われることは、考えにくいのではないかと。もし、ダビデ牧師がキリストだと言うなら、その××代の信者の発言は、矛盾していることになる。一対一の聖書の学びを最終段階まで終えた人は、「幹事」となって献身を固めているので、もし奥義的な教えがあったとしても、それをインターネットで暴露することは、まずないだろうと思う。

(39) 一対一の聖書の学びの中に、「歴史講義」と呼ばれる部分があって、自分はそこまで行かなかったのだが、歴史講義では、ACMがどのように誕生し、開拓し、発展し、世界に広がって行くかを、勉強するらしい。ダビデ牧師（張在亨牧師）は、ACMの世界宣教のプランを立てていて、これまでは「開拓期」として位置づけられ、かつ、開拓期は2006年をもって完了し、2007年から次の段階に移行する、と教えられていた。

(40) 教会に集っている人の中には、中国人と中国系マレーシア人もいた。ACMは中華人民共和国でも伝道しているが、政府から弾圧されており、ベレコムなどの企業名でビルを借りて、企業の会合を表看板として、礼拝や聖書の学びを行っている、と聞いた。

(41) 出来れば毎日教会に来て、一対一の聖書の学びを受けるように、と勧められた。「幹事」として働いているような人は、みんな、毎日聖書の学びを受けた人ばかりであると言われた。クリスチャントゥデイの矢田喬大や××××は、毎日一対一の聖書を受けた人であったと聞いた。

(42) 教会に集っている人の中には、大学でコンピューターの研究をしている学生、コンピューター専門学校の学生、美術学校の学生の割合が、多かった。

(43) 「律法的である」という理由で、聖餐式を行わない。ACMから離れて、××の××系教会に通うようになって、初めてキリスト教に聖餐式という儀式があることを知った。

(44) 宣教師のほとんどが女性であった。

(45) 異言を語ることを非常に重視していた。特に、毎週金曜夕方の祈祷会では、大声で激しく異言を語っていた。

(46) 聖書解釈で、おかしいところがあった。ヤコブとエサウの逸話で、「エサウは神から離れて、外ばかり行っていたのだから、ヤコブがエサウから祝福を盗んだのは、神のために行った良いことである」と教えられた。後日、普通の教会の信者にこの話をしたら、「間違っている」と言われて、そのおかしさに気づいた。

(47) クリスチャントゥデイは、日本で最も読まれているキリスト教新聞だと教えられた。また、クリスチャントゥデイの親会社であるクリスチャンポストは、××で最も読まれているキリスト教新聞であり、×××政権にも影響を与えている、と言われた。これは、いくらなんでも嘘だろうと思った。

(48) クリスチャントゥデイは、信者になって一年ぐらいの人が、クリスチャンポストが配信する記事を翻訳して掲載しているので、いろいろ訳語におかしなところがある。きちんとした神学校で時間をかけて勉強していないので、キリスト教や神学の基礎知識が欠けているためだろうと思う。

（４９）韓国人宣教師は、日本語学校に通わず、独学で勉強しているようなので、日本語に少しおかしなところがある。

（５０）「だれがリーダーなのか、どういう組織なのか」と質問しても、あいまいな返事しか得られなかった。核心をつくような質問をすると、いつも上手くはぐらかされた。

（５１）街頭での勧誘活動に一度連れて行かれたことがある。「何でこんなことをしなければならぬのか」と質問したら、宣教師から、「伝道することによって、信仰が深まる。関連団体で仕事をすると、もっと信仰が深まる」と言われた。関連団体で仕事をするとは、「使役」と呼ばれていた。

（５２）世界史を、天地創造からキリスト初臨までの4000年、初臨から現在までの2000年、という図式で捉え、そうして、現在から「第七の千年期」の特別な時代に入る、という歴史観を教えられた。

（５３）この「特別な時代」に、全世界に「共同体」（ACMとその関連団体）を設立することが、使命である、と教えられた。

（５４）関連団体に入って仕事をする人は、「兄弟部屋」で共同生活をしており、貧乏でもあるので、私財や私有財産を、ほとんど持っていない。「初代教会に帰れ」ということが強調されていたが、初代教会に帰るとは、トルストイの『汝、光のあるうちに光の中を歩め』に出て来るような共同生活をしながら、全世界にすごい「スピード」で宣教しまくるということなのではないかと思う。

（５５）どんなに反対していた家族でも、やがてわたしたちの活動に心を動かされて、わたしたちのもとにやって来て、感謝するようになる。だから、家族を断ち切ることが、最も家族のためになることである、と教えられていた。

—以上引用—

脱会者証言 2

以下は、脱会者 B さんとのメールのやりとりによる対話を抜粋したものである。太字は山谷。細字は脱会者 B さんの応答である。個人名及び地名については、おおむね伏字にしてある。

—以下引用—

山谷牧師さん

×さんと××のこと教えていただいてありがとうございました。それから、わたしは××といいます。やはり自分のことを隠しているのは良くないと思いますので。ただ、名前は他の人には出さないでいただけると助かります。

元メンバーさまが活動しておられた頃の××さんや××さんは、どのような様子だったのでしょうか。やはり、長い時間の無報酬の労働、不十分な食物や睡眠といった状態にあったのでしょうか？

当時は2人とも大学生でした。ACMへ行くようになって、初めの内は聖書講義を受けるだけだったのですが、少しずつACMの仕事を任されていきます。そして、半年以上たった頃には生活の殆どがACM中心となっていました。2人は××にあり、××××はありませんでしたので殆どの時間をACM内の仕事、伝道、祈り、講義に費やしていました。××は3、3、3という基準を立て伝道、祈り、講義に各3時間以上と決めていた時期もあり、その基準にACM内での仕事加わりますから、平均の睡眠時間は4〜5時間程度といったところです。また経済面では教会の維持費、××や海外への献金額ともに、とても学生に払える額ではありませんでしたが、その両方を数人で賄わなければならなかったのも、食事は非常に質素なものでした。ただでもらえるパンの耳を皆で分けていた時もありました。今も当時と大差ないと思われますので非常に心配です。関連企業に関しましても給料などというものは存在しませんし、仮に会社に収入があったとしても全てACMを大きくするために献金させられるでしょう。

小生の手元にある聖書講義の photocopy を見ますと、毎日センターに通って、一回、多いと二回の講義を受けていますね。そして、裁きを逃れるために、この世から完全に分離して、「箱舟」に入ること。「実の福音」であるダビデ牧師の御言葉こそが、箱舟の階層構造の第三段目にあたること。「実の福音」によって愛の共同体を成そうとするACMに入ることこそ、「箱舟に乗ること」である、などと教えられていますね。

はいそうです、わたしもそれを信じていました。ダビデ牧師の御言葉が「永遠の福音」でありわたしたちの共同体はノアの箱船と同じであると。愛の共同体である箱船を造り、当時のユダヤ人の不信によりイエス様の成す事が出来なかった天の御国を地上に造ること。それがわたしたちの目標であり、使命であると教えられました。

学業を放棄してしまう学生が大半である、ということは、親御さんとのトラブルの発生件数も、それなりに多いであろうと思われますが、どうでしょうか？ 小生が今相談を受けているのは、息子さんが入信して牧師になっている御両親一組だけなのですが、その他にも、心配して探したりしておられる親御さんが存在するのでしょうか？

おそらくそのような親御さんは少ないと思います。なぜなら学業を放棄するといっても退学等ではなく、大学に行かないということです（ぎりぎり卒業出来る程度には行っていますが）。しかも、自分が今何をしているかというのは親には話しません。牧師さんも気づいておいでかと思いますが、知恵という名目で嘘を話します。また、大学を卒業しても関連企業に就職、インターンシップに行っていると言えば親は完全とまではいかなくても納得するのではないのでしょうか。

海外のカルト監視サイト「リック・ロス」では、truthseeker777さん、susankim212さん、awokenさんといった方々が、内部告発に近い情報を上げていますね。そこで言われていることは、小生の手元にある資料の内容と完全に一致しているので、小生も、これまで抱いていた疑惑が確証に変わりつつある次第です。しかし、中央アフリカのsusankim212さんやawokenさんが「張ダビデ牧師がキリストだと教えられたし、また、そう信じている」と、はっきり告白しているのに対して、小生の手元の聖書講義の資料では、かぎりなくそれをほのめかすようなことは言われていても、「張ダビデ牧師がキリストだ」とは断言しないような教え方になっています。これは、国や教会や宣教師によって、教え方に違いがある、ということなののでしょうか？ それとも、一対一の聖書講義で、受講生の反応の具合を見ながら、教え方を適度にコントロールしている、ということなののでしょうか？ 元メンバー様は、ダビデ張牧師をキリストだとはっきり告白していたメンバーに、この日本でお会いになったことがありますか？

はっきりと告白している人はあまりいませんが、幹事以上のメンバーは皆ダビデ牧師がキリストだと確信していると思います。日本ではまずACMの御言葉がたとえの福音を全て解き明かした永遠の福音であることを確信させ、そして、再臨のキリストは永遠の福音を携えて来られるということをお伝えします。つまり間接的に確信させようとしているのだと思われます。わたしが一度、ダビデ牧師はキリストなのかそれとも再臨されるイエス様の前の道を整える人なのかと質問したところ、今聞いている御言葉が答えですと言われました。それから教え方を適度にコントロールしているというのはあるでしょう。聖書講義の後に必ず感想を書かせられるのでそれを元に判断しているのではないのでしょうか。

今、クリスチャントウデイの編集長である「ムネ」という人が、Mysteryさんのブログに対する反論サイトを開いています。すでにご覧になったのでしょうか？

<http://only-jesus.blogspot.com/>

それによると、当時の東京ソフィア教会には、異端から改宗して来た人が多かったので、異端の教えの誤りについて学習させるために、「時と時期」「新しいイスラエル」「キリストの系図」という講義が行われたのだ。つまり、それら三講義は、異端の教義を批判するのが趣旨であって、それを「ムネ」氏が、居眠りしながら聞いたために、勘違いしてしまって、正統な教えだと思い込んでしまったのだ。そういう反論の仕方をしています。

しかし、小生にはどうも、詭弁のように思えます。「時と時期」「新しいイスラエル」は、安マルダ牧師（当時宣教師）が講義していますし、「キリストの系図」は朴可永牧師（当時宣教師）が講義しています。「この講義は、異端の誤りを批判する講義である」というような断り書きは、ノートの中にも、その前後にも、どこにも書いてありません。ですから、小生は、これらは、ACMが奉じる奥義的な教義として教えられたものだ、と理解しています。

そもそも、一対一の聖書講義において、どうやって居眠りすることができるのか、という疑問があるわけですが、元メンバーさまは、「ムネ」さまの反論をどうお考えになりますか？

サイトの内容が見れないのですが、もう消されたのでしょうか？ 山谷牧師さんの話からでしかお答えできないのですが、その3つの講義が異端の教義を批判する趣旨というのはありえません。なぜならその3つは堅信する前の最後の講義だからです。その講義でダビデ牧師とACMの使命を悟らせ、そしてチチェとなります。「ムネ」というのは××幹事（牧師）さんでしょうか？ 彼らは嘘をつくことになんとも思わなくなってしまったのでしょうか。もう嘘をついて欲しくありません。

小生も今、手元に『原理講論』を持っていて、聖書講義と読み比べていますが、「ノアが裸になったようにハムも裸になるべきだった」「日・月・星がヨセフにおじぎするようにイエスが来臨のキリストにおじぎする」「たとえの福音を解きあかすと永遠の福音になる」「太陽であるキリストが水である民をあたためると証人である雲が生じる」等々の教えは、『原理講論』の中に類似のものがありませんか？

すみません、まだ原理講論は一部しか読んでないためその4つの部分が原理講論の中にあるかどうかは分かりません。わたしが見た中で類似していると思われたのは、「再臨のキリストは韓国から現れる」、「キリストが乗ってこられる雲とは永遠の福音を悟ったクリスチャンである」、「バプテスマのヨハネは自分の使命を果たさなかった為にイエス様は十字架にかけられるよう

になってしまった」等です。それから、これは統一教会で教えられているかどうかは分かりませんが、ACMでは今のクリスチャンはイエス様の時代の使命を悟っていないユダヤ人と一緒にいるから自分たちが新しいイスラエル、クリスチャンだと教えられます。

ACMが「成婚式」を行っていた、ということですが、これはどのような内容のものなのでしょうか？ ACMを辞めた××さんの話では、ACMでは、外の人とも中の人とも、恋愛は絶対禁止だと言われていたし、実際だれも恋愛していなかったのに、しかし、結婚している人たちがいる。では、いったいどうやって結婚にまで至るのか？ 上からの指示で結婚するのか？ という疑問を抱いていたのだそうです。

統一教会の合同結婚式は、教祖である文鮮明氏自らが、結婚するカップルの組み合わせを決め、信者はその指示に従って結婚します。合同結婚式は、文氏が司式し、特別に調合された「聖酒」を飲み、その上で、いろいろなきまった仕草にのっとって聖婚の儀式をします。こうして結婚したカップルは、「原罪」から完全に救済されることになる、と信じられています。

ACMの成婚式にも、「聖酒」や、きまった仕草や、あるいは「原罪」からの完全な救済といった意味付けが、あったのでしょうか？ ぜひ詳しく教えていただければ幸いです。

わたしは成婚はしませんでしたので、詳しくは分かりません。知っているのは成婚した人が同じ場所に集まり式を挙げるというくらいです。ACMには非常に多くの秘密があり、自分がその場所に達するまで決して分かりませんので。逆に上の位の人には絶対に秘密は出来ないのですが。それから、わたしもそのACMを辞めた方と同じことを思ったことがあります。これはあくまで予測ですが、ACMの体質（恋愛の禁止、ダビデ牧師への絶対忠誠）、また出会って間もない人でも結婚することを考えると、成婚はダビデ牧師の指示ではないかと思われれます。実際にダビデ牧師の一言で今までの全てが変わるということは頻繁にありました。

××××さん（××さん？）については、カルト対策をしている××の牧師から。また、ACMを辞めた××さんから聞いて知っている程度です。それによると、××さんは××の大学に在学中に入信し、学業を途中で放棄して献身してしまい、先生が大変心配しておられるということです。小生の手元にある資料では、××さんは××年頃にダビデ張在亨氏から按手を受けて、牧師になっておられます。一時期、クリスチャントゥデイの記事を書いておられた、ということも、聞いております。また、××さんは、××××と結婚しておられる、ということです。

そうですか、××は良い先生に教わっていたのですね。××が結婚したのは知っています。ただ、それが自分の意思ではなく指示によるものではないかという不安が頭から離れません。××が結婚した後に電話が掛かってきたのですが、いろいろと難しいことがあると打ち明けてくれました。そのような話をするのはACMでは決して出来ませんし、ACM外部の人であるわたしと話すことも禁じられているでしょうから、相当悩んでいたんだろうと思います。今はもう、これでよかったんだと思い込んでいるかもしれませんが。××さんはもう×年も連絡が取れませんが、××も決して自分からいいえは言うような人ではないので非常に心配です。××××は間違いなくダビデ牧師の指示によるものでしょう。

最近、教会にも行き直し聖書の勉強をまた始めています。驚いたことにヨハネの黙示録の最後の章は新しいキリストの再臨ではなくイエス様の再臨なのですね、今まで知りませんでした。わたしは恥ずかしながら、ACMにいた頃は聖書の真理を知っているつもりでいました。しかし、本当は何も分かっていたいなかったのですね。山谷牧師さん、真に勝手なお願いですが××らの為にもお祈りお願いします。

（伝道、祈り、講義の時間配分が）3、3、3ということは、伝道と祈りと講義だけで9時間、それに加えて仕事は十数時間ある、ということですね？ 睡眠不足、栄養不足で、意識が朦朧、混沌とした状態で、500回近くの聖書講義を受ける、ということになりますと、それが及ぼす効果は、「マインドコントロール」であると言って、よいのではないかと考えます。

当時は×××もほとんど無かったので、仕事に何時間も費やさなければならないということはありませんでした。ACM内での仕事は基準のものを抜かせば一日に3〜5時間くらいであったと思います。しかし、睡眠不足、栄養不足はあるでしょう。朝、メンバーはまず祈祷会を捧げます。4時もしくは5時。そして、その後には早朝礼拝があります。就寝も教会を出るのがだいたい夜11時頃でしたので睡眠時間は4時間、もしくは5時間というところでした。

××や海外の献金というのは、定期的にあるものなのでしょうか？ 目標額やノルマのようなものが、やはり設定されていたのでしょうか？ お手元にお送りした「JFC」時代においては、目標額が達成できない場合には、個人が金融機関からお金を引出して充当したりしていた事例が、報告されています。小生が相談を受けている件では、入信した人が、消費者金融五社から合計170万円を借りて、上納してしまっているらしいのですが、これなども、やはり、目標額が達成できなかったゆえの行動として、解釈することができるのでしょうか？

献金は××の場合、××（日本のACMの中心）への献金として10分の1献金が定期的に行いましたが、その他の献金は不定期に行いました。例を上げますと、インドの研究施設への献金が200万。またそれを日本は出来なかったため（約120万程度は献金したのですが）、祝福が逃げたとして今度はアメリカACM本部への献金（新しくACM本部をアメリカに設立したためその家賃等の為だと言われていました）を課せられました。それは毎月100万円という非常に厳しいもので、メンバーは足りない分を消費者金融から借りたりもしていました。ローンをしていないメンバーの方が珍しかったです。

給料がまったくない、というのは、完全な無賃金労働ということですね？ 無賃金労働であると、当然のことながら、労働基準法や最低賃金法にひっかかることになるわけですが、ただし、会社の設立登記に名前が記された「取締役」や「代表取締役」のような役員の場合は、それらの法が適用されません。クリスチャントゥデイやベレコムや財經新聞社などの設立登記を見ますと、大学生や20代の若者たちが「取締役」「代表取締役」として名を連ねています。小生に相談をしてきている御両親は「もしかしたら、無賃金労働を指摘された場合の逃げ道として、役員に登記しているのではないか？」と言っておられました。このことについては、どう思われますか？

これについては、わたしが労働基準法についてはあまり知らない為に、なんともお答えすることができないのですが、わたしはそのような役職（使役）が与えられる為に、もしACMを抜けたくても、責任感等から逃げ出せられない状況になっているのではないかと思います。

つまり、「イエスは使命の達成に失敗した」と教えられているわけですね。特に「42日」（42年間）が未達成のまま、残ってしまっていると。

ユダヤ人の不信の為にイエス様は完全に天の御国を成すことが出来なかった、と話されています。だからもう二度とそのようなことが起きないように、今の時代、あなたの信じる主に従いなさい、と言われます。

完全な無賃金労働であるということですが、働きをするチームの人たちは、日常生活の費用は、どのようにしているのですか？ やはり、兄弟部屋と一緒に寝起きを共にしながら、当番で買い物をしたり炊事をしたり、という形態なのでしょう？ そのための生活費用は、どのようなたちで支給されているのでしょうか？ やはりACMを退会した××さんは、宣教師の苦労話として、一週間の食費が300円だったこと。ACMの幹事とよく××の××××に生活用品を買い物に行ったことを、回想しています。

ほとんどの費用は献金もしくはアルバイトで賄っています。しかも、2年前は××には兄弟部屋も存在していませんでした。ですので、何人かのメンバーは教会で寝泊りをしていたと思います。そのことを考えると××は、まだ良かった方だと思います。それから、金銭につきましても、その全てを献金という形を取るのです。ACMで集めたお金の中から個人の生活費なども支払います。

なるほど。自分からは「キリストである」とは、はっきり言わないけれども、聖書講義を受けていれば、そうであることがわかってくる、というやり方であるわけですね。小生の手元にある聖書講義の資料では、受講生は「時と時期」の感想として、「新しいキリストがすでに誕生しているのに、そのことに気づいていなかった」と書いています。そうして、その翌日の「新しいイスラエル」という講義では、安マルダ宣教師は「小羊は、イエス・キリストではなく、来臨のキリストである」と教えています。つまり、受講生の理解度の進捗によって、教え方を上手く塩梅している、ということなのですね。

ところで、幹事だけがパスワードで見ることができる「幹事専用サイト」ですが、そこには、聖書講義の元データがすべて供給されている、ということですね。そうした聖書講義は、時々アップデートされたり、改訂されたり、ということがあるのでしょうか？ もし仮に、小生が公の場で、手元の資料を根拠に、ACMの異端性を批判したとしても、すぐに「幹事専用サイト」の側で、聖書講義の資料を書き換えてしまえば、「そんな資料は存在しない」「受講生の勘違いだ」というように、いくらでも言い逃れが出来てしまいますね？

幹事専用サイトのデータは、いくらでも変更可能だと思います。それに、そのサイトにあるのは、全てではありません。ですから、山谷牧師さんの探しておられる講義は、サイト内には存在しないと思います。しかも、なんと表現すれば良いのか分からないのですが、ACMは自分たちの存在や活動内容は決して外部には出さないようにします。幹事用のサイトのアドレスも頻繁に変わりますし、パスワードにいたっては週に1度必ず変わります。

ACMでは、上に行くと解除される秘密があるわけですね。そうしますと、たとえば、幹事レベルでも知らない秘密、というものすら、存在し得ることになるのでしょうか？

ACMは非常に多くの秘密を抱えています。幹事レベルでは知らないことは沢山あるでしょう。幹事とは言っても、その中でもまたさらに階級のようなものがあります。メンバー間のやりとりは、主に幹事サイトのチャットルームで行われるのですが、宣教師のみ、伝道師のみ、地区代表のみ、日本代表のみ等、特別な人以外は参加出来ないものも数多くあります。実際に自分がその使役を行いだして初めて知る事実などは頻繁にありました。組織の全てを知ることは不可能に近いでしょう。

本当に性格の素直な、疑うことをすまなく思ってしまう、純粋な若者たちが、このように疲弊させられた状態で、多くの聖書講義漬けにされて、人格をコントロールされていることを思うとき、心が痛みます。ACMに入信する前の若者たちは、嘘をつく、ということには、大変な心の痛みを感じる人たちであつたはずでしょう。しかし、小生が見る限り、今のACMの人たちは、小生の目をまっすぐみつめて、目をきらきらと輝かせながら、嘘をつくのですね。小生はそのことを思うとき、「彼らは本当の彼らではなくて、別の彼らを上から植え付けられてしまっている」ように感じるのです。

メンバーは嘘をつくことでもACMに利益があることなら、それは神様の知恵であり最も正しい道だと教え込まれますから、目を輝かせながら嘘をつくのですね。彼らにとってACMが全てであり、ACMこそが唯一の真理だと完全に信じていますから。

はい、お約束いたします。ACMに入信している若者たちが、どうか、ヨハネの黙示録の末尾にある「アーメン、主イエスよ、来てください」という御言葉によって、開眼させられ、張ダビデ氏の偽りの教え込みに気づくことができますように。そうして、お友達やご家族との交わりの中に再び戻るができるように、そうして、嘘をつかなくても生きることのできる、普通の生活に帰ることができますように、祈ります。

本当にありがとうございます。彼らが幸せの中で生きられることを願います。山谷牧師さん、ACMを脱会した自分で言うのもおかしい話なのですが、幹事クラスになってしまうと、ACMからの脱会は難しいと思われますか？ それから、きちんと彼らにも事実を知らせるべきでしょうか？ おそらく大半のメンバーは、自分たちの仲間が脅していたり告訴するなどと言っているとは夢にも思わないでしょう。わたしも山谷牧師さんのサイト内にあるコメント

欄で、ACMメンバーと思われる人の書き込みを見たときには、わたしの知っている彼らと同一人物であるとは正直思えませんでした。

数多くの資料ありがとうございます。まだ詳しく読んでいないのですが、これから読ませて頂きます。どうかあまり無理をなさらないようになさって下さい。

先ほど、××さんのブログを見ました。ACMの体質が良く現れている文章だと思います。彼は山谷牧師さんに対して本当に刑事訴訟を起こすのでしょうか？ ただの脅しならまだ良いのですが、神様が全てをよき方向に導いて下さるようお祈りいたします。

山谷牧師さんへ

ACMの体質が良く現れている文章、ということは、過去にも、似たような文章、似たような事例、似たような反応を、ご覧になったことがあるのでしょうか？ 小生が思い当たるのは、××××さんの御両親の話です。それによると、××夫妻が2004年か2005年頃に東京ソフィア教会の安原力氏（牧師？）と電話で話をしたとき、安氏が「これからACMを迫害してきた人たちを告訴する準備をしている」と告げられた、ということでした。その後本当に告訴が行われたのかどうか、よく分からないのですが2004年当時のACMには、本当に告訴する動きがあったのでしょうか？当時、そのあたりについて、何か聞かされたことがありますか？

わたしが見てこの文章がACMのメンバーによって書かれたものであると感じたのは、「商業主義」「悪魔的な発想」という文字を見た時です。ACMでは儲け主義、敵対者、自分達に反する者、また脱会者は、サタンに支配された者であると教え込まれます。その為、ACM内では絶対の従順が必要であり、脱会するにも出来ない状況でした。この点につきましては、カルト対策サイトを見た時にカルトの特徴として挙げられていたものの一つにありました。

もう一つは正当な教えである事を強調するために、イエス・キリストを強調する点です。実はACMの聖書講義ではイエス・キリストこそが救いであるという講義も存在するのです。「2000年前にイエス様が来られて救いの道を開いて下さった、そして残された使命を成すために新しい再臨のキリストが来られる」というものです。ですので、外部に対してはイエス・キリストのみが主であるということのみを話し、ACMの聖書講義も正当なものだと主張します。

2004年当時の告訴の件につきましては、わたしは聞いていません。わたしが脱会したのは××年の×であるので、もしかするとその後にあったのかも知れません。しかし、仮に告訴していたとしても殆どのメンバーはその事実を知らされないでしょう。わたしがまだ所属していた時も、個人の信仰を守る為という理由で上層部が何をしているのかは全く知らされませんでした。ただ、教えられるのは「ACMに迫害があり、その為に上層部の人が苦勞されている。そして、その方達の尊い犠牲の上に私達がある」という事です。

今回、ACMが小生を告訴するとなると、いったい「訴因」を何で 行くのか、という疑問があるわけですが、おそらく、聖書講義ノートの「所有権」をめぐる争いか、あるいは、小生が聖書講義をブログで部分引用して異端嫌疑をかけたことによる「名誉毀損」か、どちらか二つであろうと思われます。あるいはもしかしたら、小生がACM系列企業での「無賃金労働」をほのめかしたことに對して、企業側が「名誉毀損」で告訴する、ということも、あり得るかもしれません。

無賃金労働について告訴された場合には、小生は次のように考えております。

（１）本当に賃金が支給されていたならば、当然企業側が「源泉徴収票」を発行していたはずだし、過去最低でも五年間分が、出勤簿と共に保存されているはずである。また、厚生年金の「企業負担分」が社会保険庁に対して納付されていたはずである。

（２）そして、源泉徴収票が存在するのであれば、市区町村から「納税証明書」と「所得証明書」を取得することができるはずである。

（３）厚生年金の加入の事実については、社会保険庁に問い合わせ確認することができるはずである。

以上により、本当に賃金が支給されていたのかどうかを、証拠をもって確かめることができるであろうと考えています。小生が××資料群を読む限り、いろいろな経営アイデアについては議論されているのですが、「源泉徴収」とか「所得税」とか「法人税」とかについての議論は、まったく出て来ないので、おそらく、その方面のことは、あまり考えないで運営が行われているのではないかと推測しています。もしそうしたことを、ぜんぜん考えていなかったのであれば、まさか今から過去5年分にわたって文書を偽造する、というわけにもいかないでしょう。もっとも、ACMの国際本部のHPを見ますと、「財務担当執行役員」のような肩書きがありますので、北米では、このあたりまできちんと詳細に考えて工作がなされているのかもしれませんが。日本のACMでは、そのあたりの「工作」は、どの程度なされていたのでありましょか。もし情報がありましたら、お教えくだされば幸いです。

わたしの知る限りでは、2003年末にベレコムの社長が日本人に任され、その人が給料明細を発行しようとしていたというくらいです。ちなみに、もちろん給料は一切払われていません。ですの、すくなくとも3年前はそのようなものも無かったのではないのでしょうか。当時ベレコムはACMのオフィスの法人契約の為によく使われていました。わたしの使役していた建物もベレコムの会社名義で借りられていたのですが、仕事は一切していません。工作についてわたしの知っていることはこのくらいですが、多くが大学生であるため法律に関する知識はあまり無いのではないかと考えています。また、指示しているのも韓国人ですので韓国と日本に法律の違いがあればその部分は工作していないのではないのでしょうか。

ところで、××××さんのお父様の話では、どうも「ムネの日記」の文章は、××さんのものとは思えない。文体の違う文章が複数混じっている気がする、と申しておられました。もしACMが完全に統制の取れたカルト団体であるのならば、××さんが独断でブログを開設して、何か物を言ったり書いたりすることが許されるとは、到底思えないのです。やはり、背後に対策ミーティングのようなものがあって、そこで担当者が選ばれ、定められた方針に沿ってブログを書いているのではないかと想像してしまうのです。これは単なる想像でしょうか。それとも、可能性として、あり得ると思われますか？

××さんが独断でブログを開設したというのはまずありえないと言っていると思います。上の指示で開設し、指示に従って内容も書いているというのがわたしの考えです。ACMでは何か問題があれば必ず上層部に連絡しなければなりません。そして、指示を待ちます。今回は彼らにとって大きな問題であるため、書いているの自体は本人かもしれませんが、ブログは日本人代表牧師、もしくは日本代表を務める韓国人の指示を仰いでいると考えられます。そして、彼らもACMのトップである、ダビデ牧師、またはそれに順ずる人達の指示を受けている可能性は高いと思われます。

また、自由と統制に関するのですが、幹事以上になれば幹事専用サイトに報告書なるものを毎日書かされます。その日一日、自分が何をしたのかというものです。ACM内部ではこれは恵みを分かち合う為だと言われていますが、わたしはメンバーの行動を規制し、個人の自由を奪うものではないかと思っていました。ですので、独断の行動はACMでは出来ません。

なお、××に日本基督教団××教会牧師で、統一教会問題対策委員会の世話人をしておられる、××××氏がおられます。××牧師には、今回の一連のACM疑惑の資料をすべてお渡ししています。××様がカミングアウトされたことも、お知らせしてあります。それで、もし××様さえよければ、一度××牧師にお会いになられてみたらどうでしょうか。××の大学の先生が、××××さんを心配して探しておられるというお話も、小生は実は××牧師からお聞きしたことです。カルト問題の専門家ですので、もし会ってお話すれば、いろいろと理解をもって受け止めてくださると思いますし、また、もしアドバイスが必要ならば、適切な助言をしてくださると思います。ぜひお考えになってみてください。

ご紹介ありがとうございます。しかし、わたしは今、××中であり××に滞在している為お会いすることは難しいです。今度××へ帰った時はぜひお会いしたいのですが。××牧師さんへはこちらにいる間でもメールで連絡をしてもよろしいものなののでしょうか？もしよろしければ連絡先を教えてください。

もし裁判になりましたら、わたしも微力ながら山谷牧師さんの、またACMメンバーが再びきちんとした生活を送れるようになる為の助けになればと思っています。お祈りいたします。

先日、××牧師先生に連絡致しました。ACMのことを真摯に受け止めて下さり感謝しています。ご紹介頂き本当にありがとうございました。

このあたりは、実に巧妙な教え方をしているなあと、小生は、つくづく感じる次第です。つまり、「救い」はイエス・キリストの十字架と復活によって達成された。しかし、イエス・キリストは、この地上に「天国」を実現できなかった。だから、イエス・キリストとは別の「来臨のキリスト」が到来して、イエスが失敗した「天国」を、この地上に実現しなければならない。

そして、「天国」というのは、ACMの「兄弟部屋」と「関連企業」を指すわけですよね？
そうして、聖書講義を見ますと、イエス・キリストが迫害されたように、来臨のキリストも必ず迫害されなければならない。だれが迫害するののかと言えば、ACMに敵対するクリスチャンたちであり、それが「現代のファリサイ派」であるわけですよね？ そうしますと、当然のことながら、小生などは「現代のファリサイ派」の筆頭、ということになるのでありましょう。
聖書講義を見ますと、ダビデ張在亨氏は必ず苦難を受けることになっている、と教えられています。それゆえ、小生がダビデ張氏の疑惑について騒ぎ立てれば騒ぎ立てるほど、「ほら、聖書講義の教えの通りに歴史が展開しているでしょう？」ということになって、教え込みがより強化される結果になるわけですね。

イエス様が成すことが出来なかった、地上の天国、その救いの箱舟、または天の国のモデルを作り上げることがACMで言われていた使命でした。そして、山谷牧師先生の言われている通り、「歴史は繰り返し、当時のユダヤ人が現在のクリスチャン、そして、イエス様について行った人々が今の時代はACMである」というのが彼らの考えであり教えです。ですので、残念ながらわたしたちは、彼らにとっては「無知な者の迫害」ということになり、講義の方を信じるでしょう。

小生は、この「1992年に設立されたACMの前身となる学生伝道団体」というのは、おそらく、「セヒャンシルアップ」あるいは「ハンビット大学宣教会」のことを指すのであろうと推測しているわけですが、××様はどのようにお考えになりますか？

ハンビット大学宣教会というのは聞いたことないのですが、日本では2004年当時はACMではなくCEF（韓国人学生宣教会？）でした。この頃から日本人のメンバーが増え始め、日本人の伝道師が立てられた所をACM、韓国人宣教師が宣教している所をCEFと呼ぶようになりました。ですので、日本のACMは当時はCEFと呼ばれていました。もしかして、ハンビット大学宣教会というのはCEFの前身でしょうか？ それから、俗離山（発音はソクリ山ですよね？）という場所には行ったことがあります。一度しか行ったことがないのですが、そこで毎年修練会が開催されていました。

××さんによれば、自動販売機の話をした宣教師は、「日本に転任して来る前は、韓国で自動販売機のセールスをしていた」と言ったそうです。してみると、JFC時代に始められた自動販売機のビジネスを、今日もなおACMは韓国で続けている、というふうに考えられますね？ これについては、何か聞いておられないでしょうか？

これについてはすみません、あまり覚えていません。韓国人宣教師が苦労話をしていた時に昔はお菓子を路上等で売って生活していたというのは聞いたことがあるような気がするのですが。お役に立てなくてすみません。

ベレコムが2003年末に「給与明細」を作ろうとしていた、ということは、少なくとも2004年以降については、社員の源泉徴収票がきちんと発行されているであろうと推測できますね？ しかし、給与明細や源泉徴収票が発行されていながらも、実態としては、「一切給料は払われて

いない」ということになると、これは明らかに違法な行為ですね？ ですが、残念ながら、これは、ベレコム社員の内部告発でもない限り、証明することは難しいであります。ただし、ベレコムの設立登記を見ますと、2001年となっていますから、2001年から2003年の三年間については、給与明細、出勤簿、源泉徴収票の「不備」をついて、「一切給与が払われていなかった」という実態を指摘することができるかもしれません。

そうですね、これについては証明は難しいと思います。メンバーは自分の給料が欲しくて働いている人はいませんので、給料明細さえあればどうとでも言えると思います。ただ、言いたくはないですが違法なことはしていると思います。わたしは会社経営について詳しくしりませんが、普通の会社でないことは間違いないので。もし、法律を犯しているとするならば彼らは犯罪者となるのでしょうか。彼らのことを思うとそれは出来る限り避けたいのですが。一番大切なのは批判することではなく、彼らが元の生活に戻る事なので。

お父様の×××様は「どうも複数の人間の文体が混じっているようだ」と感想を述べておられましたので、お父様もこれを知れば、複雑なお気持ちが少しは慰められるかもしれません。

ご家族の気持ち、痛いほど分かります、わたしも家族に大変心配かけましたので。そして、わたしもメンバーにACMに残ることが良いことだということ信じて、引きとめたこともあります。それを思い出すと、本人にも、ご家族の方にも本当に申し訳ないです。本当にご家族にはあわせる顔が無いのですが、今はせめてわたしの出来ることとして、ACMを離れて知った家族のあたたかさを彼らに伝えられたらと思っています。××さんのお父様にも平安がありますようお祈りいたします。

「幹事専用サイト」に毎日書き込むことになっている「報告書」には、毎日の出来事のほかに、個人の心の内面の状態なども詳細に書き記すのでしょうか？ 提出した報告に対しては、追って上から、「ああしなさい」「こうしなさい」と指令が降りて来るのでしょうか？ こうしたやり方は、カルト団体が個人の内面までもコントロールするために用いる常套的な方法であると、小生は考えます。多くの場合、この種の報告には、個人が犯した道徳的な罪や性的な罪が正直に書き込まれますので、カルト団体は、それらの報告をデータベース化し、ひどい場合には、脱会者を脅すための材料として用いられることもあります。ところで、日本の幹事以上の人たちの「報告」は、当然のことながら、日本代表使役者である高柳泉氏が全部目を通して、ということになるのでしょうか？

報告書といっても非常に簡単なものです。御言葉を聞いたか、伝道をしたか、祈りをしたかということを中心に簡潔に書きます。しかし、幹事全員がその報告書を見れるので、上記以外のことをすると報告書に書けない、だから必ずしなければならないという圧力のようなものがありました。例えば、その3つをしていなかったら書くことがないので、すぐに全員に分かりますし、「友達と遊んだ」などということを書いたらどのように思われるか分かっていましたので、結局は伝道、祈り、講義をしなければならないということになります。内面などに関しましては報告書ではなく、伝道師に相談します。どうしても言えないようなことでも伝道師に隠し事は禁止されていたので、いつも話していました。その内に、ACMの講義に基づきですが、真剣に答えてくれるのでなんでも相談したいと思うようになります。そして、最終的には自分の判断はなくなり、神様により近い存在だと信じている伝道師の判断が自分の判断になります。ここまでくると「こうしなさい」ではなく、自分よりACMの御言葉を良く知っている人のしていることが正しいと思い込んでいますので、自分も彼らとも思考も、行動も同じになっていきます。講義でACMのメンバーになっていくよりも人間関係からACMのメンバーになっていく方が多いと思われます。高柳牧師が報告書に目を通して、ということですが、ほとんど読んでいないと思います。他の事に忙しくてそれどころではないと思いますので。特定の人が読むものではなく、全員が読める報告書といったところです。

今週にも、ACM側は、おそらくGoogleなどのブログ運営会社に弁護士名で情報開示請求を行い、Mystery氏の個人情報とIPログを開示するよう迫ることでありましょう。小生は、よもやGoogle

やブログ運営会社が、裁判所の令状もなしに情報開示に応じることはないであろうと、たかをくくっているのですが、しかし、予断は許されません。

もし小生が東京地方裁判所の法廷に立ったあかつきには、元メンバーというお立場で、証言をしていただければ、大変ありがたく存じます。しかし、そうなさったらなさったで、ACM からのさまざまな圧力や脅しが、当然のことながら予見されますが……。小生としましては、主なる神が万事益としてくださることを信じて、いまの状況を、主にゆだねることといたします。

そうですか、××さんは裁判を起こされるつもりなのですね。これも、おそらく彼の意味ではないでしょう。あくまで想像ですが、家族がコピーして山谷牧師先生宛に送ったということなので、家族の為にも取り返しなさいというようなことも言われているのかもしれない。

法廷での証言ということですが、本当に申し訳ないのですが、今の時点は確実に行けるということは言えません。個人的な理由になってしまうのですが、家族にこれ以上迷惑をかけられないこと、そして、メンバーが警戒して連絡が取れなくなってしまうことは出来る限り避けたいのです。しかし、証言がどうしても必要になれば駆けつけようと思います。

神様がお守りくださることを願います。

—以上引用—

ACM 関連団体リンク集

アポストロス・キャンパス・ミニストリー <http://jp.apostolos.org/>

イエス青年会 <http://jp.ydjesus.org/>

日本クリスチャントゥデイ <http://www.christiantoday.co.jp/>

日本クリスチャントゥデイ韓国語版 <http://jp.chtoday.co.kr/>

クロスマップ <http://jp.crossmap.com/>

ジュビリーミッション <http://jp.jubileemission.org/>

ブレスキャスト <http://jp.brethecast.com/>

ベレコム <http://www.verecom.co.jp/>

財経新聞 <http://jp.ibtimes.com/index.html>

デオグラフィックス <http://www.deographics.co.jp/>

オリヴェット大学 <http://www.ouonline.us/>

クリスチャンポスト <http://www.christianpost.com/>

ゴスペルヘラルド <http://www.gospelherald.com/>

CEF（韓国大学福音化宣教会）関連リンク集

（１）CEFのサイトデータ。SCC（サザンクロス神学校）で誕生したことが書かれている。
<http://web.archive.org/web/20050316060744/www.cefkr.org/aboutus.htm>
 訳文：「韓国大学福音化宣教会（Campus Evangelical Fellowship、CEF）は、大学の福音化のために使役する福音派の宣教会として、SCC（Southern Cross College）で神学教育を受けた改革長老主義の信仰の本質を回復して、信仰の先輩たちが成し遂げた献身と手本の成果を基盤として、燃える熱情的な大学宣教を始めるために、2000年春から大学宣教祈祷会を始め、この集まりが各キャンパスに広がって、2002年4月24日にソウル大生を中心にソウル大学で宣教会の設立を決意し、同年9月5日に大学宣教会として正式に出発することとなった。現在は、ソウル大学前の奉天洞に本部を置き、国内 30余大学に 40人余りの幹事がいて、キャンパスで活発な宣教活動を広げている。2003年に初めて海外宣教に出て、日本の東京に海外宣教本部を設立し、現在日本の 4個大学を開拓。また、中国、アメリカ・ロサンゼルス、イギリス・ロンドン、ドイツ・ベルリン、フランス・パリ、チェコを開拓した。CEFは、未来の主役であるキャンパスの知識人たちに、聖書講義を通じて、望ましいキリスト教的人生観・価値観・歴史観・世界観を確立することで、神の救済史において使役するキリスト者青年指導者を掘り出して、時代を導く創造的な少数者を養成するために努力している。具体的には、一対一の聖書講義、グループ聖書勉強（GBS）、リーダーシップトレーニング（LT）、金曜賛美会及び祈祷会、バイブルキャンプ、神学特講及びセミナー、ホームトレーニング（共同体訓練）、幹事及び宣教師訓練など、多様な使役を展開している」

（２）CEFの聖書講義データベース。SCC韓国語キャンパス（シドニー）学部長ダビデ権教授の聖書講義が記載されている。ダビデ権は「大韓イエス教長老会合同福音」の総会長であった。ダビデ張在亨も「大韓イエス教長老会合同福音」の総会長をしていた。さらに、ダビデ権もダビデ張在亨も共に、韓国クリスチャントゥデイの常任理事である。もうひとつの聖書講義は、C. ピーター・ワグナー博士の「使徒的宗教改革」（王国神学）の教えである。
<http://web.archive.org/web/20050319015058/www.cefkr.org/leader.htm>

（３）ダビデ張在亨氏が総会長を務めていた「大韓イエス教長老会合同総会」のサイトデータから、参加団体リストのページ。上から四番目に「韓国大学福音化宣教会 ソウル市冠岳区奉天4洞 1567-7 (02) 871-4599」がある。
http://web.archive.org/web/20061116124734/http://www.pckr.org/org/org_04.htm

注記：

SCCについては、オリヴェット神学校との関連において、2004年当時のオリヴェット神学校のサイトに次のように記されていた。<http://www.otcs.ca/aboutou/history.htm>
 「オリヴェット神学校（OTCS）は、21世紀の宣教の課題に答え得るグローバルスタンダードを教会に緊急に提供する高度な神学教育のセンターとして、2000年4月に開設されました。韓国ソウルのサザンクロス神学校（SCCSC）を前身として設立されたこの神学校は、何百もの牧師、宣教師、伝道者、教会奉仕者を、世界宣教の現場に送るために訓練して来ました」

さらに、SCCについては、ACMとの関連において、2004年当時のACMのサイトに次のように記されていた。<http://za.apostolos.org/faq/index.htm>
 「問い3：アポストロス・キャンパス・ミニストリーは、どのようにして始まりましたか？
 答え3：キリストの福音に大きな靈感を受けたサザンクロス神学校（現在のオリヴェット神学校）の学生たちが、2000年に初めてアポストロス・キャンパス・ミニストリーという名称を付けました」

現在のACMのサイトを見ると、説明が変わっている。<http://ng.apostolos.org/faq/index.htm>
 「問い3：アポストロス・キャンパス・ミニストリーは、どのようにして始まりましたか？
 答え3：相互の密接なネットワークにより、2000年にUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）で設立されました」

ACM 使役者日誌

マレーシアACMのYahoo!Groupに、使役の日誌報告と思われるデータが残っていた。以下は、その一部を翻訳したものである。これを見ると、ACMとIT会社「ベレコム」(Verecom)の業務が不可分一体であることが、うかがえる。

http://groups.yahoo.com/group/ACM_MY/

—以下引用—

2005年9月21日 graceoflord2004

分かち合い

タイトル：出エジプト記3:15-22

反省：物質的な祝福について話したとき、私は自分の教会の伝統のことを考えて、誇りに思った。願わくは、マレーシアの教会も、信仰によって動く教会（フェイス・ドリブン・チャーチ）になるように。

伝道：学生に会いに行く途上、30分間。アポイントメント、なし。

反省：今日もキャンパスでは良い学生に会えなかった。もっと真剣に祈り、良い魂を見出す必要がある。

聖書講義：4人の小羊。計5人。30分間。エイミー、メイ・ツイ、シュ・チュアン、リ・チュン

エイミー：驚いた事に、彼女と会う5分前は、彼女に何を分かち合うべきかわからなかった。しかし、聖霊が救いについて個人的に語るべき事を多く示してくださったので、それらの言葉により彼女は挑戦を受け、私たちの集会は本当に神に会う備えのようだ、と言った。

メイ・ツイ：今日はローマ3-4の学びを終え、信仰により、神の恵みと愛によって救われることを彼女は確信した。次回に彼女に語るべきことは、信仰の創始者について、さらに、歴史の部分に直接進むことであり、このためにもっと祈りが必要である。

シュ・チュアン：神と祈りの友に感謝する。今日「霊において貧しい者は幸い」について、分かち合った。彼女は心の内で悔い改め、謙ることを望み、木曜日にも聖書講義を続けることになった。

リ・チュン：聖書講義の後、一緒に祈ると、彼女は泣いて、この5年間自分が失われた羊のように感じて来たことを述べた。しかし今は再び神の愛を感じている。神に栄光があるように。

その他 明日の計画

3人の学生との面談が確実

リ・チュン 午前10時

イ・ウェン 午前11時15分

メイ・ツイ 午後5時15分

コメント

イ・ウェンの友だちのリ・ミンのために祈ってください。彼女はノンクリスチャンのクラスメートで、ボーイフレンドと別れたばかりです。彼女が私と会って、聖書講義を受けるチャンスが来るように。この時が、彼女が神を知るチャンスとなりますように。

2005年9月21日 verecom_my

早天祈祷会：祈り

ワーク

+すでにプレゼンテーションを行った顧客のフォローアップ。

+もっと効果的なプレゼンテーションを行うために、レイアウトのデザインをすること。
+読書：世界売上上位22社の人物とマーケティング戦略の本を読む。
+マラヤホテルの支配人と木曜日にアポイントメントを取る。

反省

今日、新聞で広告を見た。KLCCエリアに家具がすべて備え付けの24時間使用可能な大きなオフィスがある。家賃も手頃で、長期短期両方に対応している。会議室や応接室その他が備わっている。すごい！！考えるだけで嬉しくなる。この場所を通して、ベレコムは高いレベルの人々と良い顧客の関係を築くことが出来るだろう。2006年初頭にこの場所にベレコムを移す計画をしている

もうひとつ、私が悔い改めるべき事は、仕事への集中である。メンバーへの配慮が出来ない時がある。本当の救いの箱舟を、私たちは協力して建造しているのであって、自分一人でやっているのではない。だから、このことを心に留めて、もっとメンバーに配慮し、祈らなければならない。そして、一緒に働き、一緒に苦しまなければならない。私がこの人生で、そういう人になれるように、願う。

++2005年9月21日の計画++

午後4時 マイケルと男性たちにプレゼンテーション（ヘアスタイリスト）
午後1時 ビジネスマンの会合に出席（FGA）
午後5時30分 ACMの水曜礼拝に出席
午後2時30分 KLCC近くの新しいオフィスの下見

++アポイントメント++

トーマスと男性たち（ヘアスタイリスト）
アンカサホテル
ピッコロモンド・レストラン
ジェームズ・オン（人材派遣会社取締役）
ルディ（プラネットハリウッド・レストラン）

2005年9月30日 verecom_my

早天祈禱会 遅刻

ワーク

午前中

マラヤホテルの支配人と商談に行くが、彼が病気であるため、アポイントメントを明日の午前11時に延期。

午後

午後4時、ヘアサロンでトーマスと男性たちに会い、ウェブサイトのデザイン変更とレイアウトについて話し合い。すべてが上手く進み、こちらも先方も、間もなく完成するこの創造的なプロジェクトを喜んでいる。神に感謝。

ピッコロモンド・レストランの事務長とアポイントメント。明日の午後2時30分にブキット・ビントンの事務所で面談の予定。

午後、明日の商談のためにホテルを予約し、レイアウトをする。その後、トーマスと男性たちのためのレイアウトをし、北京に送って料金の問い合わせをする。

午後、デザインの勉強を少ししてから、ブキット・ビンタンに行き、デザインとプログラミングの学習ソフトウェアや、eBayでお金を儲ける方法についての本を購入。

今日は、ウェブデザインのプランナーの仕事をさせるために新人を得ることを考える。絵を上手く描けることも必要。サラリーも払わなければならない。このために祈る。

反省

神がベレコムにあって私を導いていてくださることを感謝する。顧客を通して本当に多くのことを学ばせられている。私の思いは大きくなり、ビジネスをどう進めるか、アイデアが膨らんで来た。顧客と会うのはとても楽しく、喜びである。違った人に会うと、違った反応がある。いま二つの契約を手に入れている。この先もっと契約があるだろう。だから、この重要な使役のために共に働く人が必要だ。ベレコムは、ツインタワーの近くのもっと良い場所に移る計画をしている。世界で有名な場所だ。来年には引っ越すことになる。新しい場所に移れば、ベレコムに対する顧客の認知度や信頼度は高まる。どうか、マレーシアのベレコムが救いの御業の模範となれるよう、祈ってほしい。アーメン

2005年10月1日 verecom_my

早天祈祷会 遅刻

ワーク

午前中

今日は、午前11時にプロジェクトの確認について顧客と会う。すべて順調に進み、こちらの提案が喜んで迎えられた事を、神に感謝。詳細を北京に報告した。料金については返事待ち。

午後7時 金曜祈祷会

今日の金曜祈祷会でビジョンを見た。二人の宣教師が船に乗って魚を捕っていた。金色の口をしたたくさんの魚がいた。宣教師たちは喜んでいて、幸せそうだった。神は本当にこのようなことを私たちに約束しておられる。この祝福を受けるために、信仰を持ちたいと思う。アーメン

北京ベレコムとチャット

チャットを通して、自分に多くの欠けがあることに気づかされた。プロジェクトを扱うに際して、自分に十分な準備も力量もないことがわかった。本当に自分は自己中心的で、自分の考えばかりに集中している。神が、私の過ちを気づかせてくださり、同じ過ちを繰り返す事がないようにと、祈る。

2005年10月2日 verecom_my

日曜礼拝 午前9時

午後

今日、18のウェブ製作会社にメールを送り、ウェブサイト製作費用について問い合わせる。

チャット

今日、ジェフgsnとペンリgsnと貿易会社の件でチャットする。

現在、中国や他国からマレーシアに輸入するのに、どんな商品なら儲かるかについて、市場調査を行っている。

反省

今日は気分が悪かった。多くの要求が自分にやって来る。激しい霊の戦いをする。正直に言って、神の国のためなら、なぜ自分は結婚しなければならないのかと思う。独身のままなら、神のためのワークにもっと集中して働けるのに。すべての人を兄弟姉妹として扱えるのに。独身のままなら、サタンからこの種の攻撃を受けることはなく、いまだ自己中心的な自分の人格を攻撃されることもないだろうに。正直に言って、人生を投げ出したくなる。

2005年10月3日 verecom_my

午前

神の御言葉 20分間

ワーク

- 午後2時30分のアポイントメントの準備
- 技術情報を読む
- 「やる気を起こす本」を読む

午後

- 神に感謝。あのレストランが、ウェブサイトの製作を発注してくれた。
- 書店に行き、レストランに関する本を購入。
- ずっと雨だったので、スターバックコーヒーで、レストランのウェブサイトのレイアウトをする。
- 10月の計画と目標を立てる。
- マレーシアのウェブ製作会社に、料金についてメールで返事。

反省

今日は昨日の夜に比べて心の重荷を感じなかった。私の視点はいつも悪い方向へ行き、自己中心になる。そのために、このところ苦しまれて来た。新しいスタートを切り、生まれ変わって、人の心を理解するようになり、また、人の声をよく聞く者になりたい。私の人生が、自分をひけらかすのではなく、イエスを主と証しするものとなるよう願う。

2005年10月4日 graceoflord2004

聖書講義：小羊2名、計3名、メイ・ツイ、フィ・シ

メイ・ツイ---今日「終末論」の講義をした。彼女が分かち合いをした。今日こういう展開になろうとは、思ってもみなかった。彼女は聖書についてもっと聞きたいと真剣に願っている。フィ・シー今日「文字と霊」の講義をした。彼女は自分が「文字」の立場にあることに気づいた。週一度の聖書講義だけでなく、もっと聖書講義を受けるよう言ってみたが、まだその用意が出来ていない。彼女がもっと飢え渴いた心を持って知りたいと願うよう、祈ろう。なぜなら、彼女は、この御言葉が違うものであることを知ったから。

リ・チャン---今日彼女は携帯メールに返事をしなかったもので、大学に行って彼女を訪ねた。ドアを開けると「あら、あなたが今日来るとは思わなかった」と言った。それはつまり、来ることを期待していた、ということだ。聖書講義はしなかったが、分かち合いをした。少し気分が良くなったようだ。彼女の心は、もっと耕される必要がある。

その他 明日の計画

4人の大学生と面談の予定を確保

エミーと午前9時30分「文字と霊」

メイ・ツイと午前11時45分から午後1時30分

シュ・チュアン 時間は未定

反省

今日の午後はずっとビジョンについて考えた。しかし、心は沈み、時間の無駄のように思われた。結局、物事は容易には進まないことに気づいた。ビジョンは概念ではない。多くの事柄が関わっている。どんな目標を設定し、ビジョンに沿ってどんな計画を立てるか、というような。心の中には、まだ、アイデアがない。このためにもっと敏感になり、祈らなければならない。

2005年10月4日 verecom_my

午前

- 神の御言葉 40分間
- 銀行に行き、明日使う小為替を買う。

午後

- プロジェクトの代金についてマレーシアのウェブ製作会社に返事のメール。
- マーケティングの本を読む。
- ウェブサイトの開発のため、他の分野にターゲットを向けることを計画する。
- 北京のベレコムに価格についてメールで問い合わせ。返事待ち。
- 家具のウェブサイトを検索。家具会社にターゲットを向けることを考える。

反省

今日は二つのウェブ製作会社からプロジェクトに関して非常に高額な料金を提示された。この二つを相見積にすれば、顧客に安価な料金を提示することができる。ドイツの家庭料理のレストランから連絡があり、明日の夜にアポイントメントを取った。正直に言って、彼女からの電話に驚いた。神が私を祝福しようとなさるなら、何ものも止めることはできない。また、神が取り去られるならば、何ものもそれを止めることはできない。すべては神の御手の中にある。神を信じ、神に信頼することを、神は願っておられる。私は神の真実な息子となり、自分を謙らせて、神の道を行くことを願う。

—以上引用—

クリスチャンポスト経営陣リスト

以下は、クリスチャンポスト（クリスチャントゥデイ、クロスマップ、ゴスペルヘラルド、グッドニュースライン、ブレスキャストの親会社）の経営陣リストである。全員が、ACM系列団体関係者で占められていることがわかる。

2006年9月頃までの体制

名誉理事長：Dr. Ralph D. Winter オリヴェット大学理事長

理事長：Dr. William L. Wagner オリヴェット大学神学部長

社主・発行人：Peter W. Tzeng オリヴェット大学事務長、世界長老会世界総会（WAPC）牧師、サンフランシスコ・アンテオケ教会牧師

理事：Kenneth Chan 国際ACM財務部長

理事：Andrew Clark クリスチャントゥデイ社主、クリスチャントゥデイ理事長、オリヴェット大学新聞学部教授

理事：Tom Cowley ACM理事会副理事長、オリヴェット大学神学部教授、オリヴェット大学図書館館長

理事：Carol Hansen オリヴェット大学新聞学部長

理事：Albert Lee イエス教長老会合同福音総会（EAPC）議長

理事：Roy Li ゴスペルヘラルド理事

理事：Tracy McNeal オリヴェット大学教養部長、国際ACM執行役員、ハーヴァード大学ACM担当役員、北米ACM担当役員

理事：Lawrence Onishi ACM会長、コロンビア大学ACM担当役員、クリスチャントゥデイ特派員

理事：Edward Shih ゴスペルヘラルド発行人、ゴスペルヘラルド理事長

理事：Joseph Ray Tallman オリヴェット大学神学部教授

理事：Ginturn Tran オリヴェット大学芸術学部教授、オリヴェット大学芸術学部インターン研修担当

理事：A. Merrill Smoak Jr. 国際ジュビリーミッション理事長 オリヴェット大学ジュビリー音楽院院長

名誉理事長：Dr. Ralph D. Winter オリヴェット大学理事長

2006年9月以降の体制

理事長：Dr. William L. Wagner オリヴェット大学神学部長

代表取締役社長・発行人：Joseph A. LaFleur ベレリンク代表取締役

理事：Kenneth Chan 国際ACM財務部長

理事：Andrew Clark クリスチャントゥデイ社主、クリスチャントゥデイ理事長、オリヴェット大学新聞学部教授

Nathanael Tran 不明

理事：Edward Shih ゴスペルヘラルド発行人、ゴスペルヘラルド理事長

Rastislav Cizmar 不明

Sandra Paribu 不明

Sergey Lisenko 不明

大韓イエス教長老会合同福音（1）

以下は、「改革派教会ネット」（<http://www.reformiert-online.net/>）のデータベースに記載されている関連項目である。

—以下引用—

大韓イエス教長老会福音（福音）

<http://www.reformiert-online.net/adressen/detail.php?id=13115&lg=eng>

この教団は、大韓イエス教長老会根本（根本）の指導権をめぐる紛争により、1967年に誕生した。ICCC（世界教会協議会に対抗して1948年に設立された、ファンダメンタリストの国際教会協議会）の財政支援を受けて、「根本」の前総会長ソン・ジェーム牧師が「根本」から分離し、「福音」を創設した。そ直後の1969年に紛争が発展した。1969年に「福音」総会はICCC（国際教会協議会）から派遣されたウェストミンスター聖書宣教会のロバート・S・ラップ宣教師を受け入れた。ラップは「福音」の保守的な聖職候補生を牧師として養成する神学校の責任を負った。この神学校の運営をめぐり、ICCC韓国代表マ・ドゥウォン牧師とラップの間に不和が生じ、その結果、ICCC はラップを罷免するに至った。しかし、ラップは福音に引き続き残ったので、マ・ドゥウォン牧師を支持するグループが「福音」から分離して、大韓イエス教長老会法統（法統）を設立した。1977年に「福音」はさらに分裂し、大韓イエス教長老会長身（長身）が設立された。これ以降、「福音」は勢力のほとんどを失い、新総会長キム・ドンヒュクは、ジュンアン独立中会とジョントン独立中会との合同を決定して、「合同福音」を名乗った。この新展開を拒否したグループは、引き続き「福音」に留まった。

大韓イエス教長老会合同福音（合同福音）

<http://www.reformiert-online.net/adressen/detail.php?id=13116&lg=eng>

この教団は三つのグループが合同して誕生した。大韓イエス教長老会福音（福音）が、総会長キム・ドンヒュクの決断により、ジュンアン独立中会（キム・サン牧師）とジョントン独立中会（ユン・スンドック牧師）と合同し、1983年に「合同福音」を名乗った。

大韓イエス教長老会国際合同（国際合同I）

<http://www.reformiert-online.net/adressen/detail.php?id=13165&lg=eng>

不詳

大韓イエス教長老会国際合同（国際合同II）

<http://www.reformiert-online.net/adressen/detail.php?id=13165&lg=eng>

不詳

大韓イエス教長老会国際合同（国際合同III）

<http://www.reformiert-online.net/adressen/detail.php?id=13167&lg=eng>

不詳

—以上引用—

注記：

「張在亨牧師が総会長である大韓イエス教長老会合同福音は、チャンソンホ牧師 が総会長を務める大韓イエス教長老会国際合同福音から2003年1月に（韓国基督教総連合会に）分立加入した」（News N Joy）

大韓イエス教長老会合同福音（2）

以下は、韓国世界宣教会（KWMA）のサイトに記載された、大韓イエス教長老会合同福音の教団情報である。

http://kwma.jcsoftdev.com/Skin/bbs_view.asp?id=710&bid=245&bbid=1908&fid=8&page=1&type=nothing

—以下引用—

名称：大韓イエス教長老会（合同福音）

住所：151-835 ソウル特別市冠岳区奉天7洞1594-7 2階

電話：02-877-3846 ファックス：02-877-3876

ホームページ：www.pckr.org

電子メール：webmaster@pckr.org

創立年月：1912年9月 会員数：14,500人

代表者：キム・サンヨン牧師

設立背景：

2002年9月11日、大韓イエス教長老会（国際合同福音）総会の第87会期分立総会において、大韓イエス教長老会（国際合同福音B）として正式分立した後、10月14日に総会組織を定め、2003年1月に韓国基督教総連合会実行委員会による分立承認後、韓国基督教総連合会第14次定期総会にて承認を受けた。そして、2月に「国際合同福音B」から「合同福音」と教団名を変更した。

海外宣教：中国、東南アジア、中東など世界12地域に、約150余名の宣教師を派遣して、キリストの福音を伝える。

宣教戦略：世界宣教方策の研究と開発を進め、宣教現場の開発と地域別宣教団体と現地教会及び世界教会との宣教協力体系を構築する。

主要使役：

総会による宣教師の人選と派遣、宣教費のサポート管理業務。

宣教現場からの資料と情報の収集、宣教師の地域別宣教方策の開発の支援。

サバティカルイヤー（七年毎の宣教師の休養年）と宣教師の子弟教育など福利厚生。

宣教資料、宣教現場のIT化支援、ホームページネットワーク事業。

世界最大のネットワークである「世界福音同盟」（WEA）に、世界福音長老教会総会（EAPC）所属教団として2005年に加盟。全世界の福音派の連合と世界宣教のための情報交流と協力事業を展開している。

オリヴェット大学（OU）が宣教教育と神学教育を担当。オリヴェット神学校（OTCS）はフラー神学校と交流を始め、アジア宣教のための共同協力と、その具体的な事業協力を議論し、進行しようと準備中。

派遣宣教師：13地域131人派遣

参照：韓国基督教総連合会加盟教団

—以上引用—

高柳山谷会談 分析と評価（第2版）

作成者 救世軍少佐 山谷 真
makoto.yamaya@salvationarmy.or.jp
<http://majormak.blogspot.com>

はじめに

世界各国で活動しているオンラインのキリスト教メディア企業「クリスチャントゥデイ」(<http://christiantoday.co.jp>)及びその関連諸団体が、元統一教会中枢メンバー張在亨氏を「来臨のキリスト」と信奉するカルト団体ではないか、との疑惑を小生がブログで提示して以来、ネット上で激論が戦わされて来た。その発端と疑惑の全容について、『クリスチャントゥデイ問題資料』にまとめて掲載している。(http://www.salvos.com/makotoyamaya/ct_resource.pdf)

半ば「泥仕合」と化した議論を收拾するため、2006 年末、株式会社クリスチャントゥデイ代表取締役の高柳泉氏が、救世軍本営人事企画部長の太田晴久少佐に対して、年明け早々高柳山谷会談を開催するよう再三要請した。これに応えるかたちで、太田晴久少佐が仲介人に立ち、数度の日程調整を経て、2007 年 1 月 25 日（木）に会談が実現した。以下はその設定である。

日 時 2007 年 1 月 25 日（木）午後 6 時から 9 時 30 分
場 所 東京都千代田区神田神保町 2-17 救世軍本営第二会議室
会談者 高柳 泉（クリスチャントゥデイ代表取締役、編集長）
同席者 矢田喬大（クリスチャントゥデイ記者）
同席者 井出北斗（クリスチャントゥデイ記者）
仲介人 太田晴久（救世軍本営人事企画部長）
会談者 山谷 真（救世軍杉並小隊長、救世軍士官学校教官）
同席者 平岡正幸（脱カルト協会理事、福音ルーテル三鷹教会牧師）
同席者 唐沢 治（脱カルト協会会員、精神病理学医学博士、帝京平成大学講師、KFC 代表）
同席者 黛 藤夫（脱カルト協会会員、荻窪栄光教会カルト問題担当主事）
同席者 谷口和一郎（リバイバル新聞代表）

平岡正幸氏、唐沢治氏、黛藤夫氏はカルト問題専門家の立場から、谷口和一郎氏は公正中立を旨とするキリスト教言論機関の立場から、それぞれ会談の立会人また証人として御同席下さった。

会談の全容は複数者が録音し、保管している。小生が録音したものについては、ネット上で聴くことができる。(http://www.salvos.com/makotoyamaya/acm/takayanagi_yamaya20070125.mp3)

1. 会談の目的とするところ

高柳泉氏は、小生がブログで提示した「クリスチャントゥデイ疑惑」を全面否定する立場から、過去再三再四ブログの記事削除を要求して来た。また、ネット各所の「議論」を中止するように求めて来た。加えて、小生のブログに「クリスチャントゥデイのカルト疑惑は解除された」との一文を掲載するように、求めて来た。

高柳氏が太田少佐を仲介人に立てて開催を求めた「高柳山谷会談」は、小生が提示した疑惑に対し、納得の行く合理的説明を高柳氏が与えることにより、小生が抱く疑惑を解き、もって小生のブログに「クリスチャントゥデイのカルト疑惑は解除された」との一文を掲載させること、かつ、ブログの該当記事を削除させることを目的としている。

小生は、上記の趣旨を受け入れ、会談が公正に行われることを保障するため、会談に臨むにあたり、以下の方針を定めた。すなわち

(1) 小生が入手し、脱カルト協会の一部の会員と共有している諸資料や脱会者証言にもとづき、「疑惑」を構成するいくつもの要素について、高柳氏に質問を行うこと。

(2) 高柳氏の説明により、「納得出来る合理的説明が与えられた」との心証を小生が得たならば、小生は「疑惑は解除された」との結論を出すこと。

(3) 逆に、高柳氏の説明によっても、「納得出来る合理的説明が与えられなかった」との心証しかなかったならば、小生は「疑惑は解除されなかった」との結論を出すこと。

(4) 衡平を期すため、平岡氏、唐沢氏、黛氏、谷口氏ら 4 人が、立会人また証人として会談に同席し、それぞれカルト専門家また中立公正な言論人の立場から、小生の判断に対して批判的な検討を行い、必要な修正意見をお出し頂くこと。小生は、それら修正意見を聞いた上で、判断を再考し、最終結論を出すこと。

以上の方針について、小生のブログで明らかにし、また、仲介人である太田晴久少佐を通じて高柳氏に伝えた。

2. 高柳氏への質問項目

会談に際して小生が事前に用意した質問は、以下の 7 項目であった。会談は予定の 2 時間を大幅に超過し、3 時間に及んだが、質問が進んだのは (1) (2) (3) までであった。ただし、討論の中において実質的に (4) (5) (6) (7) に関わる内容も言及されたため、予定していた質問は、ほぼ終えることができたと思ひ得る。

(1) 張在亨氏の統一教会前歴について

(ア) 大学原理研究会 学舎長 1972 年-1977 年

- (イ) 合同結婚式 (1800 双) 1975 年 2 月
- (ウ) 大学巡回伝道団 団長 1977 年 1 月-1979 年 8 月
- (エ) 国際基督学生連合会 (ICSA) 事務局長 1982 年
- (オ) 鮮文大学設立準備室員 1985 年
- (カ) 成和神学校 企画室学生担当 1986 年 9 月
- (キ) 成和神学校 学生部長 教務課長 統一神学担当教授 1989 年
- (ク) 張氏が 2004 年 8 月に韓国基督教総連合会異端委員会に提出した「悔い改めの覚書」
- (ケ) 張氏統一教会前歴疑惑の核心をなす『統一世界』1977 年 7 月号と『鮮文大学 30 年史』

(2) 張氏が鮮文大学在職中に設立した「ハンビット大学宣教会」

- (ア) 長寿陣氏と張在亨氏の自己同一性
- (イ) ハンビット大学宣教会が 1998 年に改称した「韓国大学福音化宣教会」(CEF)
- (ウ) 株式会社セヒャンシルアップのチョコレート自動販売機
- (エ) 「韓国異端団体リスト 2006 年 6 月版」のハンビット大学宣教会掲載 (第 127 番)

(3) ハンビット大学宣教会の異端嫌疑を記事化した『月刊現代宗教』1997 年 7 月 8 月号

- (ア) 記事の主要な情報源とされる脱会者 H 氏
- (イ) 記事掲載差し止め及び転載禁止を求めた裁判所判決

(4) 中国のキリスト教サイト「房角石」が異端として告発している「中国イエス青年会」

- (ア) 張文竜氏と張在亨氏の自己同一性
- (イ) イエス青年会と ACM を巡る中国キリスト者の議論

(5) 「ダビデは来臨のキリスト」と教え込む異端の教義をめぐる告発、脱会者証言、聖書講義

(6) 「無賃金労働に近い実態」をめぐる告発と脱会者証言

(7) 「ノルマ献金と消費者金融からの借り入れ」をめぐる告発、相談事例、脱会者証言

3. 会談の進行状況

まず仲介人である太田少佐から挨拶があり、会談に至る経緯を簡単に説明し、仲介人が司会を務める旨を表明した。次に、出席者の氏名と立場が紹介され、立会人・証人は、各質問の区切りにおいて、高柳氏への質問を行うことができることが告知された。続いて、会談が開始された。小生の質問に対して高柳氏が回答し、随時矢田氏と井出氏が回答に加わる形で進行した。やりとりの中で、高柳氏が時に強い調子、責める調子で発言し、小生の発言をさえぎる場面が散見され、太田少佐が発言を制止する場面もあった。立会人・証人は、質問項目の区切りにおいて、また、適宜、高柳氏らへの質問を行った。実際の進行状況は、録音でお聞き頂きたい。

4. 質問に対する高柳氏の回答

小生の質問に対して高柳氏らが行った回答は、概略次のようにまとめることができる。

(1) 張氏統一教会前歴疑惑について

(ア) 張氏は、終始一貫して統一信仰を持ったことがないと告白しており、そのような一信仰者の告白を疑わずに受け入れるのは、キリスト者にとって当然のことである。

(イ) 張氏は統一教会員を正統信仰に奪還する目的で、統一教会外郭団体に勤務していた。

(ウ) 『統一世界』や『鮮文大学 30 年史』に記載された張氏の前歴は、異端である統一教会側の資料であるゆえ、信憑性がない上、偽装工作の可能性がある。

(エ) 張氏が韓国基督教総連合会異端委員会に提出した「悔い改めの覚書」は、統一信仰を悔い改めたものではない。

(オ) 韓国基督教総連合会異端委員会が張氏に要求した「クリスチャントゥデイ上の悔い改めの広告」は、クリスチャントゥデイの 170 に及ぶ反統一教会記事掲載をもって、事実上充足している。

(カ) 「クリスチャントゥデイ上の悔い改めの広告」がまだ出ていないと批判した催三更牧師は、クリスチャントゥデイに私怨を抱く人物であり、信用に欠ける。

(2) ハンビット大学宣教会について

(ア) ハンビット大学宣教会は実在したことがなく、脱会者が偽証によって作り上げた想像の産物である。

(イ) クリスチャントゥデイとハンビット大学宣教会とは、いかなる関係もない。

(ウ) クリスチャントゥデイが長老新聞の「ハンビット大学宣教会異端嫌疑」の記事を削除させたのは、元記事である『月刊現代宗教』の誤った情報に基づいて、山谷のように誤解する人物が出るのを防ぐという、善意からである。長老新聞が削除要請に応じたことは、『月刊現代宗教』の記事が事実誤認であることの証明である。

(エ) ハンビット大学宣教会が CEF となったことは、過去のことであり、わからない。

(オ) CEF が ACM となったという脱会者証言は、信用できない。脱会者を会談の場に出席させよ。

(カ) そもそも、日本では ACM は、ホームページがあるだけで、実際には活動していない。

(3) 中国イエス青年会について

(ア) 中国イエス青年会を告発した『房角石日記』等の中国語サイトは、すでに削除されており、信憑性がない。

(イ) 『房角石日記』を正確に翻訳した結果、中国イエス青年会ではない、別の団体について書いているものであることが、判明した。

(ウ) ACM 同様、日本のイエス青年会は、ホームページがあるだけで、実際には活動していない。

(4) ダビデ張を来臨のキリストと教え込む異端の教義について

(ア) リックロス は、福音派全般に敵対的な活動をしているカルト監視団体であり、信頼性を

著しく欠いている。

(イ) リックロスの ACM 関連の内部告発は、福音派に敵対する異端的な勢力による「福音派つぶし」の一環として受け止めるべきである。

(ウ) クリスマントゥデイは、170 以上の統一教会批判記事を掲載したため、異端的な勢力の報復対象となっており、その結果、ACM の異端対策の講義が悪用されて、異端に仕立て上げられようとしている。

(エ) 問題の聖書講義「キリストの系図」は、歴史上のダビデ王を指しているのものであって、「来臨のダビデ」を指しているのではない。チャートの読み間違いによる誤解である。

(オ) 聖書講義に記された張氏の生年月日 1949 年 10 月 30 日は、事実と相違している。

(カ) k 氏が現在「イエスのみがキリストである」とブログで信仰告白しているのだから、キリスト者はそれを尊重すべきであり、過去の聖書講義の記述を問題視すべきではない。

(キ) 「幹事の多くがダビデ張は来臨のキリストと信じている」とする脱会者証言は、信用できない。

(ク) 「問題の聖書講義は、堅信前にダビデ張を来臨のキリストと確信させるためのものであり、k 氏は嘘をついている」とする脱会者証言は、信用できない。脱会者を会談に出頭させよ。

(5) 無賃金労働に近い実態について

(ア) われわれは、きちんと賃金を受け取って働いている。無賃金労働を指摘するなら、いつからいつの期間働いて、給与を受けなかったか、具体的な証拠を提出せよ。

(イ) 無賃金労働の実態を明かした脱会者証言は、信用できない。

5. 高柳氏の回答の要点

以上のような高柳氏らの説明を概略すれば、次のようなものとなるであろう。

(1) 張氏の「悔い改めの覚書」は、統一信仰を悔い改めたものではない。

(2) 張氏の統一教会前歴疑惑を指摘し続ける催三更牧師は、問題の人物で、信用できない。

(3) 張氏の前歴を示す統一教会側の資料は、異端のものであるゆえ、証拠たり得ない。

(4) 海外および国内の脱会者証言は、信用できない。

(5) 問題の聖書講義は、異端対策のためのものであり、それを、福音派に敵対する異端的な勢力が、「福音派つぶし」の目的で悪用している。

6. 高柳氏の回答に対する小生の評価

高柳氏らが行った説明に対して、会談終了後数日を経て小生が下した評価を、二重括弧に入れて、以下の通り示す。

(1) 張氏統一教会前歴疑惑について

(ア) 張氏は、終始一貫して統一信仰を持ったことがないと告白しており、そのような一信仰

者の告白を疑わずに受け入れるのは、キリスト者にとって当然のことである。

『張氏の来歴は、大学原理研の学舎長、大学巡回伝道団の団長、ダミー団体である国際学生基督連合会事務局長を含む。それらの任務や役職にある者が、文鮮明をメシアと信じる統一信仰を全然持たずに使役していたということは、常識的に考えて、あり得ない。かつて一度も統一信仰を持ったことがないとする張氏の主張を受け入れることは、理性的判断を放棄して、張氏の人格を留保なく信頼するのでない限り、難しい』

(イ) 張氏は統一教会員を正統信仰に奪還する目的で、統一教会外郭団体に勤務していた。

『張氏が長寿陣という別名を使って、ハンビット大学宣教会を設立し、統一教会の亜流である「摂理」(JMS) から多数の会員を奪取していたことを、『月刊現代宗教』1997 年 7 月 8 月号は報じている。そこから、何らかの「奪還的な活動」を張氏が行っていたことが認められ得る。しかし、そのハンビット大学宣教会では、長寿陣こと張氏を来臨のキリストと教える異端の教義が説かれていたことをも、『月刊現代宗教』は報じている。それゆえ、張氏の「奪還的な活動」が、正統信仰への奪還であったかどうかは、はなはだ疑問であると言わなければならない。また、そもそも、クリスチャントゥデイ側は、ハンビット大学宣教会の存在を否定している』

(ウ) 『統一世界』や『鮮文大学 30 年史』に記載された張氏の前歴は、異端である統一教会側の資料であるゆえ、信憑性がない上、偽装工作の可能性はある。

『張在亨氏の統一教会来歴を、統一教会側の資料に基づいて検証するのは、至極当然のことである。なぜなら、張氏は統一教会員だったからである。特に、『統一世界』1977 年 7 月号は、張在亨氏 28 歳の時に、張氏自ら執筆した記事を掲載しており、資料として第一級である。統一教会が、鮮文大学教授を辞して 1997 年に牧師按手を受けた張氏に対し、怨恨を抱いて報復を図ったとしても、20 年も遡って 1977 年の『統一世界』の記事に偽装工作を施すことは、いかに異端団体といえども、不可能なことである』

(エ) 張氏が韓国基督教総連合会異端委員会に提出した「悔い改めの覚書」は、統一信仰を悔い改めたものではない。

『韓国基督教総連合会は、張氏がかつて統一信仰を抱いたことを慚愧する「悔い改めの覚書」を提出したからこそ、疑惑解除を行い、「調査の結果 1997 年以降に張氏が統一教会と関わりを持った形跡はない」とする公式声明を出したのである。その「悔い改めの覚書」が、統一信仰を悔い改めたものではない、ということになれば、韓国基督教総連合会が疑惑解除を行った前提が、根底から崩壊することになる』

(オ) 韓国基督教総連合会異端委員会が張氏に要求した「クリスチャントゥデイ上の悔い改めの広告」は、クリスチャントゥデイの 170 に及ぶ反統一教会記事掲載をもって、事実上充足している。

『韓国基督教総連合会異端委員会が 2004 年 8 月 12 日の決議で張氏に要求したのは、(1) 統一教会の異端性、(2) 統一教会からの張氏の離脱の経緯、(3) 統一教会への反対活動を行

う宣言を含んだ、具体的内容の「悔い改めの広告」を、張氏が常任理事を務めるクリスチャントゥデイに掲載することであった。クリスチャントゥデイの 170 に及ぶ反統一教会記事は、異端委員会決議の（１）と（３）の要求を充足するものと見なし得ても、（２）の「統一教会からの張氏の離脱の経緯」という要求には、応えていない。疑念の払拭のためには、離脱の経緯こそ、最も明らかにされねばならない点であるのに、いまだにそれに応えていないことが、問題である』

（カ）「クリスチャントゥデイ上の悔い改めの広告」がまだ出ていないと批判した催三更牧師は、クリスチャントゥデイに私怨を抱く人物であり、信用に欠ける。

『韓国基督教総連合会異端委員会は、張氏統一教会前歴疑惑を取り扱うために、オソンファン氏、シムヤンシク氏、催三更氏ら三名から成る調査委員会を任命した。異端カルトの専門家として、まさに張氏の問題を取り扱ったという経歴を持つ催三更氏が示す見解は、非常に重いものとして受け止めなければならない。異端カルトの専門家に対しては、カルトから誹謗中傷が行われるのが常であるから、クリスチャントゥデイが催三更氏の人格を貶める発言を行うのであれば、なおさら、催三更氏の見解は、重みを増すことになる』

（２）ハンビット大学宣教会について

（ア）ハンビット大学宣教会は実在したことがなく、脱会者が偽証によって作り上げた想像の産物である。

『ハンビット大学宣教会の異端嫌疑の記事に、一部事実と異なる部分があったことを認めて、『月刊現代宗教』は 2000 年に訂正記事を出したけれども、その訂正記事には、1997 年当時に証言した脱会者たちが、後に宣教会に復帰して証言を翻した、と述べられている。つまり、ハンビット大学宣教会が実在することが、訂正記事の前提である。もし、ハンビット大学宣教会が、まったく架空のものであるなら、訂正記事そのものの前提が、根底から崩壊することになる』

（イ）クリスチャントゥデイとハンビット大学宣教会とは、いかなる関係もない。

『ハンビット大学宣教会が 1998 年に CEF（韓国大学福音化宣教会）と名称変更したこと。その CEF が長寿陣こと張在亨氏が総会長を務めた大韓イエス教長老会合同福音の傘下団体として、教団サイト上に記載されていたこと。ここ日本でも、2004 年までは ACM は CEF という名称で活動していた、と脱会者が証言していること。クリスチャントゥデイと ACM は密接な関係があり、事実上一体であること。これらを考え合わせれば、ハンビット大学宣教会とクリスチャントゥデイは、同一線上にあると推定することができる』

（ウ）クリスチャントゥデイが長老新聞の「ハンビット大学宣教会異端嫌疑」の記事を削除させたのは、元記事である『月刊現代宗教』の誤った情報に基づいて、山谷のように誤解する人物が出るのを防ぐという、善意からである。長老新聞が削除要請に応じたことは、『月刊現代宗教』の記事が事実誤認であることの証明である。

『クリスチャントゥデイとハンビット大学宣教会とは、いかなる関係もない、と主張し、かつ、

ハンビット大学宣教会は、実在したことがない架空の団体である、と言うのであれば、なぜ、クリスチャントゥデイが長老新聞に働きかけて記事を削除させなければならなかったのか？記事を削除させたのが事実であるならば、当然のことながら、ハンビット大学宣教会とクリスチャントゥデイが何らかの関係にある、と判断せざるを得ない』

(エ) ハンビット大学宣教会が CEF となったことは、過去のことであり、わからない。

『高柳氏も矢田氏も井出氏も、まだ ACM が CEF と称していた 2004 年当時に東京ソフィア教会で活動していたことが、東京ソフィア教会週報に記載されている。⁽¹⁾ 高柳氏は「CEF は知っている」と会談の中で発言したが、そうであるならば、CEF の由来や実態について、自分が知っていることを、会談の中で可能な限り説明するべきであった。なぜなら、CEF について説明することで、小生が抱く疑惑をある程度払拭することが出来たはずだからである。ところが実際には、高柳氏も矢田氏も井出氏も、CEF について何一つ説明しようとしなかった。そこに小生は、何かを隠蔽しようとしている不自然な姿勢を、感じざるを得ない』

註（１） 「復活祭が過ぎ、今は 6 月 8 日の五旬節に向かっています。聖霊を待ち望みつつ、明確な目標とたゆまない祈りとをもって五旬節に開かれる聖会に備えましょう。日本の千の歴史のため、また関東大会教会 120 人、CEF70 人のため、祈りましょう」『東京ソフィア教会週報』（担任 高柳泉伝道師）2003 年 4 月 27 日 第 4-4 号。

「CEF はアポストロス mission にかわった。その中に CEF があり、ACM があり、多くの宣教会がある。この東大は日本として一番大事な大学。ここで新しい歴史の門をひらき、CEF が東大のまえにあった（本郷）」『ACM 聖書講義』k2-1-15b。

「ここが CEF の本部。今日からここが本部。100→1000 の大学にひろがり、大学をおおうように。CEF は火。火は真理。火をつけること」『ACM 聖書講義』k13-43b。

(オ) CEF が ACM となったという脱会者証言は、信用できない。脱会者を会談の場に出頭させよ。

『脱会者の証言は、国内の証言と海外の告発サイトの証言を照らし合わせてみると、一致しており、証言に信憑性があると、蓋然性をもって言うことができる。日本と韓国と中国とアフリカの証言が期せずして一致するという「現象」は、もし証言が真実でないと考えるなら、おそらく、地球規模の壮大な陰謀が張り巡らされていると考えるほかないことになる。理性的に判断するなら、まず、脱会者が本当のことを言っていると考えべきなのであって、一足飛びに国際陰謀説に行くことは、普通はしないことである』

(カ) そもそも、日本では ACM は、ホームページがあるだけで、実際には活動していない。

『日本の ACM のサイトには、最近まで「2006 年冬ビジョンキャンプ開催」と記載されていた。それ以前には、日本で開催された修練会の様子が写真入りで報じられていた。このことは、少なくとも 2006 年冬までは、日本でも ACM の活動が存続していたことを示している。それゆえ、日本で ACM は実際には活動していない、という高柳氏らの説明は、事実と反する、と言わざるを得ない。高柳氏らの説明がたとえ事実であるとしても、その場合には、ACM のホームページの

記載内容自体が虚偽であることになる。ACM のホームページは井出氏が製作していると、本人自ら言明しているが、もし ACM のホームページが虚偽であるとしたら、その井出氏が記者を務めるクリスチャントゥデイに対しても、疑問を抱かざるを得ない』

(3) 中国イエス青年会について

(ア) 中国イエス青年会を告発した『房角石日記』等の中国語サイトは、すでに削除されており、信憑性がない。

『中国イエス青年会を告発した『房角石日記』と、中国 ACM を告発した『讚美社区掲示板』と、それらのサイトの告発記事を転載した他のブログや掲示板が、中国本土や香港において、同時に一斉に削除されたという事態は、クリスチャントゥデイの意向を汲む人物なり機関なりが、相当に強い意志と威嚇をもって各方面で削除要求をつきつけて、削除に至らせたことを、伺わせる。このような行動は、普通のキリスト教団体なら、まず取らない手段であり、その一方で、カルト団体を取る典型的な手段である。一斉削除という事態は、クリスチャントゥデイのカルト疑惑をより一層強めた、という印象を抱かせざるを得ない』

(イ) 『房角石日記』を正確に翻訳した結果、中国イエス青年会ではない、別の団体について書いているものであることが、判明した。

『これは、まったくの虚偽である。削除されたとは言え、『房角石日記』と『讚美社区掲示板』の告発記事は、Google キャッシュ上に存在しており、小生はそれらを収拾し、保全している。それらを中国語の専門家が翻訳検証することによって、高柳氏らの虚偽が確実に証明されることになる』

(ウ) ACM 同様、日本のイエス青年会は、ホームページがあるだけで、実際には活動していない。

『東京ソフィア教会週報により、2004 年以前に、安マルダ宣教師（当時）と菅野真理子伝道師（当時）が、文京区本郷界限にて日本のイエス青年会を設立したことが、判明している。⁽²⁾ その後の活動の様子は、これまでイエス青年会のホームページによって、伝えられて来た。さらに、k 氏資料の聖書講義の中に、九州で中国人学生が主体となってイエス青年会の活動が伸びているという記述がある。⁽³⁾ これらを考え合わせれば、日本でイエス青年会は活動していない、という発言は、虚偽であると言わざるを得ない』

註（2） 「イエス青年会のスタート使役者には安マルダ宣教師、菅野真理子伝道師が使役するようになりました」『東京ソフィア教会週報』2003 年 1 月 19 日 第 01-3 号。

註（3） 「九州に 8 つの宣教会があり、今年中、大事な都市にてかいたく。major campus に全部イエス青年会が入るため」2003 年 3 月 30 日「アンテオケ教会の証」『ACM 聖書講義』k13-30b。

「九州に 8 つの教会を作った。中国人が 1000 人くらいいる。中国人教会をつくった。チチェが自分たちのものをさしだして、あるチチェが全てをけんきんし、た

てた。九州に8つの教会がたてられた。キョンヒ幹事はそのHPをつくっている」
2003年3月30日「アンテオケ教会の証」『ACM 聖書講義』k13-34a。

(4) ダビデ張を来臨のキリストと教え込む異端の教義について

(ア) リックロス、福音派全般に敵対的な活動をしているカルト監視団体であり、信頼性を著しく欠いている。

『強制的手法による脱洗脳や、サイエントロロジーとの法廷闘争敗北によるカルト監視団体の売却など、いろいろな意味で問題を持つリックロスであることは、小生も認識している。しかし、そのリックロスの「新カルト? アポストロス・キャンパス・ミニストリー (ACM)」の掲示板 (<http://forum.rickross.com/viewtopic.php?t=2350&postdays=0&postorder=asc&start=0>) は、モデレーター (管理者) が投稿者の IP アドレスを常時チェックし、これにより、同一人物のなりすまし行為が、厳しく制限されている。複数のハンドルネームの使い分け・名指しによる攻撃・煽り行為等に対しては、間髪入れずモデレーターが警告し、従わない場合には、アクセス禁止措置が発動される。このように「管理されている掲示板」において、複数の脱会者、内部告発者が、ACM の問題性について書き込んでおり、しかも、それらの書き込みは、k 氏資料の聖書講義、『月刊現代宗教』のハンビット大学宣教会告発記事、『房角石日記』の中国イエス青年会告発記事、日本の脱会者証言などと、内容において一致している。この「一致」のゆえに、それらの証言や告発は、真実を反映しているものであると、蓋然性をもって言うことが出来る』

(イ) リックロスの ACM 関連の内部告発は、福音派に敵対する異端的な勢力による「福音派つぶし」の一環として受け止めるべきである。

『リックロス掲示板では、ヒルソング教会、ユースウィズアミッション (YWAM)、フォーカスオンザファミリー、ヨイド純福音教会などが批判の対象となっている。それら批判の対象となっている教会や団体は、(1) 繁栄の福音、(2) 弟子訓練、(3) セクシュアルマイノリティーへの非寛容、(4) 信仰治療などが、「聖書の福音」の本質と一体不可分のものとして説かれる傾向が見られる。こうした傾向は、その提示や適用の仕方において、適切さを欠く場合が散見され、そのため、主流派 (リベラル) の諸教会から懐疑の目で見られることがある。こうした諸教会からの「健全な批判」は、福音派の成熟のためには、有害であるどころか、むしろ必要不可欠のものである。残念ながら、リックロス掲示板には、健全な批判の度を越し、行き過ぎた批判が展開される場合も、なきにしもあらず。しかし、そのことは、リックロスを「福音派に敵対する異端的な勢力による策謀」と決めつけることには直結しない。必要なことは、リックロス掲示板に展開される批判に、是は是、非は非の態度で接することである。批判を招いて当然の事柄については、虚心坦懐に受け止めて改めなければならないし、批判が明らかに不当である場合には、言葉を尽して説明責任を果たせばよい。そうしたプロセスを省略してしまつて、いきなり「陰謀論」に行くことは、福音派の成熟を阻害することになる』

(ウ) クリスマントゥデイは、170 以上の統一教会批判記事を掲載したため、異端的な勢力の報復対象となっており、その結果、ACM の異端対策の講義が悪用されて、異端に仕立て上げられようとしている。

『k 氏資料の聖書講義の中でも、異端の教義が特に濃厚に表れている「時と時期」「新しいイスラエル」「キリストの系図」については、その講義の中にも、その前後にも、「異端対策」との但し書きは、どこにも記されていない。さらにまた、脱会者 B さんの証言によれば、それら三講義は、受講者が「堅信」を受ける前に行われる最終講義であって、三講義をもって、ダビデ張在亨氏が来臨のキリストであることを確信させる、と言われている。さらに B さんは、それら三講義を異端対策と断言する ACM に対して、「絶対にありえない。彼らは嘘をついている。嘘をつくことを何とも思わなくなったのか。もう嘘をついて欲しくない」と述べている。これらを考え合わせれば、問題の聖書講義が、言われているような「異端対策」であることは、はなはだ疑問であり、それゆえ、講義が流出して、統一教会などの異端勢力による ACM 攻撃に利用されているとの「陰謀論」についても、疑念を抱かざるを得ない』

(エ) 問題の聖書講義「キリストの系図」は、歴史上のダビデ王を指しているのもであって、「来臨のダビデ」を指しているのではない。チャートの読み間違いによる誤解である。

『チャートには、2000 という数字。さらに、2004 という数字が書き込まれている。前後の文脈から判断して、その数字が西暦 2000 年及び 2004 年を示すことは、明白である。そのチャートに接して、「ダビデ」という名が記されているが、もしこれを、歴史上のダビデ王を指すと考えるなら、チャートが示す年代は、まったく歴史と一致しないことになる。なぜなら、ダビデ王は、紀元前 1004 年から 965 年に生きた人物であるからである。聖書講義「時と時期」で、西暦 2000 年に新しいキリストが到来する、と教えられていること。リックロスの記述や脱会者証言により、「ダビデ張在亨牧師を来臨のキリストと教え込んでいる」と言われていること。これらを勘案すれば、チャートは「西暦 2000 年にダビデという名の来臨のキリストが到来する」と読むことが、最も合理的である。逆に、歴史上のダビデ王を指すと捉えるのなら、チャートの数字や位置関係が、まったく意味をなさなくなってしまい、なぜそのようなチャートを聖書講義に挿入する必要があったのか、合理的な説明をなし得ない』

(オ) 聖書講義に記された張氏の生年月日 1949 年 10 月 30 日は、事実と相違している。

『鮮文大学「要覧」に掲載された講師の氏名・写真・生年月日によれば、張在亨氏の生年月日は 1949 年 10 月 30 日と記載されている。さらに、聖書講義「キリストの系図」には、張牧師の生年月日が 1949 年 10 月 30 日と記載されている。もし高柳氏が言うように、その生年月日が虚偽であるなら、なぜ虚偽の生年月日が鮮文大学「要覧」と ACM「聖書講義」に掲載されていたのか、納得の行く説明をしなければならない。しかし、高柳氏は、いかなる説明も行っていない』

(カ) k 氏が現在「イエスのみがキリストである」とブログで信仰告白しているのだから、キリスト者はそれを尊重すべきであり、過去の聖書講義の記述を問題視すべきではない。

『たとえ、k 氏が「イエスのみがキリストである」とブログで信仰告白していても、聖書講義、脱会者証言、海外の告発によって、「ダビデ張在亨氏が来臨のキリストである」と信じられている可能性が、蓋然性をもって確証されつつあるわけだから、k 氏の信仰告白を、にわかには信じ難い。もちろん、k 氏の言うことを一から十まですべて嘘と、頭から決めつけてかかるわけではない。しかし、聖書講義、脱会者証言、海外の告発が総合的に提示する「疑惑」について、高

柳氏も k 氏も納得の行く合理的説明をなし得ていないのである以上、小生は、簡単に理性的判断を放棄して、信仰による飛躍へと進むことは出来ない。なぜなら、もし軽率に高柳氏や k 氏の信仰告白を信用したために、欺かれた場合には、異端団体のキリスト教界への浸透を許すという、キリスト教史上未曾有の大被害を招くことになるからである。それゆえ小生は、高柳氏と k 氏が、あらゆる努力と言葉を尽して、聖書講義と脱会者証言と海外の告発とが提示する「疑惑」に対し、納得の行く合理的説明をすることを求める』

(キ)「幹事の多くがダビデ張は来臨のキリストと信じている」とする脱会者証言は、信用できない。

(ク)「問題の聖書講義は、堅信前にダビデ張を来臨のキリストと確信させるためのものであり、k 氏は嘘をついている」とする脱会者証言は、信用できない。脱会者を会談に出頭させよ。

『脱会者が実在することについては、脱カルト協会会員が確認している。また、脱会者が証言している内容は、小生が入手した東京ソフィア教会週報や、そこから書き起こした ACM 関連団体人名リスト等の資料と照合して、何ら矛盾がない。脱会者が、内部者でしか知り得ない情報を知っていることは、脱会者が真に脱会者であることを示している。脱会者を特定し得る情報を高柳氏らに一片でも提供することは、脱会者に対する報復や反撃と、それによる著しい毀誉褒貶を招く恐れがあるので、氏名や所在は一切コメントすることが出来ない』

(5) 無賃金労働に近い実態について

(ア) われわれは、きちんと賃金を受け取って働いている。無賃金労働を指摘するなら、いつからいつの期間働いて、給与を受けなかったか、具体的な証拠を提出せよ。

(イ) 無賃金労働の実態を明かした脱会者証言は、信用できない。

『会談の中で、脱カルト協会会員の唐沢治氏は、高柳氏に対して、株式会社クリスチャントゥデイの財務諸表を公表するよう要請した。財務諸表の公表は、わが国において、すべての株式会社法人が課せられている義務であるゆえ、クリスチャントゥデイは、すみやかに財務諸表を明らかにしなければならない。公表された段階で、それを専門家が分析し、クリスチャントゥデイの経営の実態に光をあてて、賃金が適正に支給されていたかどうか、疑惑に幾分かでも迫ることが出来るであろう』

7. 小生の評価の要点

以下は、高柳氏の回答に対して小生が行った分析及び評価について、要点を簡略に示すものである。

(1) 張氏の「悔い改めの覚書」が、統一信仰を悔い改めるものでないなら、韓国基督教総連合会が疑惑解除を行った合理的根拠が崩壊することになる。

(2) カルト対策の専門家である催三更牧師は、韓国基督教総連合会異端委員会委員である以上、その見解は一定の尊重をもって受け止めるべきである。

(3) 張氏が統一教会中枢人物であることを示す統一教会側資料は、「一次資料」として、一定の尊重をもって受け止めるべきである。

(4) 海外の複数の証言と、国内の複数の証言と、聖書講義その他の資料との間に「共通項」が見られる以上、一定の尊重をもって受け止めるべきである。

(5) 問題の聖書講義には、異端対策であるとは何処にも明記されていない上、脱会者が「堅信前の最終講義である」と証言している以上、異端対策の講義とは考えにくい。

8. 評価に基づく判断

以上述べた評価に基づき、小生は次のように判断を行うものである。

「クリスチャントゥデイ及びその関連諸団体の異端嫌疑及びカルト疑惑は解消されなかった」

9. 証人である四氏への要請

高柳山谷会談に、立会人また証人として御同席下さった平岡正幸氏、唐沢治氏、黛藤夫氏、谷口和一郎氏ら四氏に対して、小生は、この「分析と評価」を御送付申し上げ、かつ、それぞれカルト専門家また中立公正な言論人の立場から、小生の判断に対して批判的な検討を行い、必要な修正意見をお出し下さるよう、お願い申し上げる次第である。小生は、それら修正意見をお聞きした上で、判断を再考し、最終結論を出すこととしたい。

その「最終結論」をもって、小生は、「クリスチャントゥデイ疑惑」をめぐる小生の立場に、ひとつの明確な区切りをつけたいと願うものである。

むすび

今回の会談で、結局小生が胸中に抱く疑惑は、解消されなかった。会談を終えて小生が思案したことは、いったい、いかなる説明が与えられれば、小生の疑念は氷解するのであろうか、ということである。疑惑を構成する傍証的な要素は、あまりにも多く存在しており、それらひとつひとつを一片の疑念の余地なく解き明かすことは、正直言って、無理ではなからうかとさえ感じる。

しかし、たとえば、もし以下のような説明が高柳氏から与えられたならば、小生が抱く疑念の全部とは行かなくとも、半分は氷解したのではないかと思う。すなわち：

「張在亨氏は自分が文鮮明をメシアと信じていた誤った信仰を、徹底的に悔い改めて、福音に立つ牧師として再出発をした。ここにその明白な『悔い改めの覚書』がある。張氏が導いた若者たちの中には、統一教会や摂理から脱会した者たちがいて、その一部には、張氏の指導者としてのカリスマ性を尊崇するあまり、張氏を『来臨のキリスト』と唱えるような、行き過ぎた者たちもいた。その一人が、k氏に問題の聖書講義を伝授した安マルダ氏にほかならない。しかし、張氏は、そうした行き過ぎた者たちを、ここ数年厳しく取り締まって来ており、安マルダ氏にも、二度と誤った聖書講義を行わないよう、教会戒規を執行し、かつ、悔い改めの念書を

書かせている。ここにあるのがその念書の写しである」

もし上記のような説明が高柳氏から出て来た場合には、小生は「ある程度納得の行く説明が与えられた」と感じざるを得なかったであろう。そうすれば、この「評価と分析」の結論も、相当異なるものとなったに違いない。

しかし、現実の会談においては、高柳氏は、「張在亨氏は一度も信仰を変えたことがない」という主張の一点張りであった。

統一教会の信仰を明白かつ徹底的に悔い改めるということは、小生の心証からすれば、悔い改めた人物の人品に対する信頼を増し加えこそすれ、決して、人格に疑いを抱かせることにはつながらない。なぜなら、キリスト教信仰とは、「悔い改め」から全てが出發し、また、いつも、たえず、「悔い改め」へと帰って行くものだからであって、悔い改めを告白する者のみが、「真正なキリスト者」という心証を、小生に与え得るのである。

かくして、悔い改めを曖昧なままにしておくことは、いたずらに心証を悪くすることにしかない。そのことは、小生のみならず、異端カルト問題の専門家、催三更牧師が指摘したこともある。徹底的な悔い改めを表明しさえすれば、疑惑の半分は直ちに解消されるとわかっておりながら、いったいなぜ、あえて「心証を悪くする」というリスクを負いつつ、悔い改めを曖昧にしておかなければならないのか？ そうしなければならない「合理的必要」があるとするれば、それは一体何であるのか？

多くの疑惑の傍証的な要素を目にして来た小生が、上記の「合理的必要」について考えてみるときに、次のような、小生なりのひとつの結論を導き出すことになるのである。

すなわち、小生が思うに、これはやはり、クリスチャントゥデイ及び関連諸団体が、張在亨氏を「来臨のキリスト」と信じているからではないか、ということである。

キリストは無誤無謬の存在であって、わけても、自分をキリストだと自覚する「自己意識」においては、キリストには、揺れやブレがあってはならないであろう。

ところが、張在亨氏が過去に統一信仰を悔い改めたことがある、ということになれば、張氏はかつて文鮮明を来臨のキリストと信じていた時期があり、かつ、後でその誤りに気づいて、考えを変えたことを意味する。

キリストとしての「自己意識」を持つ者が、若い頃に文鮮明を来臨のキリストと信じ、後で誤りに気づいて考えを変えた、などということは、キリストなら絶対にありえないことであるし、いかなる方便を駆使しても、弁明のしようもない。

つまり、張氏が韓国基督教総連合会に提出した「悔い改めの覚書」が、真の悔い改めであるならば、結果として、張氏を来臨のキリストとする主張が、根底から崩壊することになるわけである。

「張在亨氏は、自分を来臨のキリストとして若者たちに教え込んでいる。それゆえに、統一信仰を徹底的に悔い改めたという告白を、いつまでたっても表明することができない」—これが、小生がたどりついた、最終的な疑念である。

資料

『クリスチャントゥデイ問題資料』改訂第6版 PDF
http://www.salvos.com/makotoyamaya/ct_resource.pdf

『高柳山谷会談録音記録』MP3 ファイル
http://www.salvos.com/makotoyamaya/podcast/takayanagi_yamaya20070125.mp3

